

つくば市の小中一貫教育の成果と課題
——調査報告書——

2018年7月
つくば市教育評価懇談会

まえがき

つくば市教育評価懇談会（以下では、「本委員会」とも呼ぶ）は、2017年11月27日に、つくば市教育委員会・門脇厚司委員長により招集され、次のメンバーが委員として委嘱された*）**）。

筑波大学名誉教授	宮寺晃夫（委員長）
和光大学教授	山本由美
筑波大学准教授	岡本智周（2018年4月より早稲田大学教授）
つくば市立光輝学園手代木中学校校長	土田十司作
つくば市立紫峰学園筑波東中学校教頭	谷池真彦（2018年3月まで）
つくば市立学園の森義務教育学校教頭	永井英夫（2018年4月より）

*）委員会の発足時には東京大学教授 勝野正章氏も委嘱されたが、校務の都合で委員会への出席は一度も得られなかった。そのため、委員の名簿には載せていない。

**）「報告書」の作成には、5名の委員（宮寺、山本、岡本、土田、永井）が当たった。

本委員会召集の趣旨は、初回の会合で、門脇教育長より口頭で次のように伝えられた。

- ・つくば市では、2007年度より小中一貫教育の実施に向けて準備を開始し、2012年度からは市内すべての小中学校で9年一貫の教育を完全実施している。1つの中学校と複数の小学校を同じ「学園」として括る連携型とともに、施設一体型の一貫校も1校この2012年度にスタートした。2018年度には、新たに3校の施設一体型の一貫校（義務教育学校）が開校する。つくば市の小中一貫教育のこれまで5年間の成果と問題点を検証し、今後のよりよい進め方について、2018年5月ごろまでに方向性を示してほしい。
- ・一貫教育のメリット、デメリットの両面を考察し、施設一体型の学校（義務教育学校）をさらに設置していくべきかどうかなど、つくば市の今後の総合教育計画の策定に資する知見を、第三者的立場からまとめてほしい。

本「報告書」は、教育長からのこの要請に応じてまとめられたものである。

教育長からの委託を受けて、本委員会では、つくば市での小中一貫教育の成果を検証し、今後の課題を明確にしていくため、つぎのような作業に取り組むことにした。

- ・関係者のヒヤリング
- ・アンケート調査の実施
- ・学校の視察
- ・議事録の閲覧
- ・定例教育評価懇談会の開催

これらの作業で実際に実施したのは、以下のような内容である。

(1) 関係者のヒヤリング

ヒヤリングは、本委員会の委員から推薦のあった次の4氏を招聘して、2018年3月19日に実施した。

- A 氏
- B 氏
- C 氏
- D 氏

4氏には、事前に、それぞれ個別の質問事項を伝えておき、当日はそれに答えていただく形でヒヤリングを進めた*)。4氏への質問項目は、それぞれ以下の通りである。

A氏に対する質問

- ① E学園の保護者であった立場から見て、学園の教育について、評価される点と課題と思われる点について伺いたい。「つくばスタイル科」やICTについて、どう評価していますか。
- ② 学園が、予測を超える大規模校になったことについて、どう思われますか。葛城小学校との関係についてもお考えを伺いたい。
- ③ 高校受験という観点から見て、施設一体型の小中一貫校のメリットとデメリットについて伺いたい。私立中学への進学を希望する場合には、親として、どのような対応が必要だと考えますか。
- ④ 教育委員の立場から見て、つくば市での小中一貫教育の導入に、住民の意思がどれだけ反映していたと思いますか。一体型の一貫校を、今後も設置していくべきだと思いますか。
- ⑤ 今後とも分離型で一貫教育を実施していくことになる既設校について、校舎の老朽化に行政側として、どのように対応すべきだと思いますか。

B氏に対する質問

- ① この4月に筑波東中は施設一体型の義務教育学校として再編成されますが、保護者として、今どのような期待を持っていますか。新校舎の設備や条件整備について、どのように感じていますか。
- ② これまで小規模校に通っていた子どもたちには、どのような効果があると思いますか。
- ③ 施設一体型の一貫校の設置に至るまで、保護者の間では、どのような意見がありましたか。特に、D学園とC学園との統合について、保護者や地域の意見の間での合意形成は十分にできたと思いますか。
- ④ 今後のPTAの在り方や役割、また地域と学校の連携について、お考えを伺いたい。
- ⑤ この3月に廃校となる小・中学校の施設の再利用について、お考えを伺いたい。

C氏に対する質問

- ① 施設一体型の一貫校の設置に至るまで、保護者の間では、どのような意見がありましたか。特に、D学園とC学園との統合に関して、2年間の統合協議の経緯から見て、どのような課題が残されていると思いますか。
- ② 統合にあたって、学校間の教育内容・方法のすり合わせについて、保護者や地域の合意形成は十分にできたと思いますか。

- ③ 小規模校の教育環境を改善するためには、施設一体型小中一貫校の設置が正しい方策だと思いますか。
- ④ 保護者の間では、バス通学になる子どもについて、どのような意見がありますか。
- ⑤ 新校舎を内覧して、施設設備面から受けた印象はどうですか。

D氏に対する質問

- ① つくば市での小中一貫教育の導入が検討されるようになった事情について、ご存知のかぎり伺いたい。特に、つくば国際戦略特区との関係について伺いたい。
- ② 「つくばスタイル科」を創設することになった経緯について伺いたい。その際、品川区の市民科、三鷹市のアントレプレナーシップなど、他自治体の独自教科などをどの程度参照したのか。
- ③ E学園での実績について、どのように評価していますか。特に、5年を経た「つくばスタイル科」の成果は、新指導要領の実施に向けて、今後どのように活かしていくことができるかについて、お考えを伺いたい。
- ④ 一体型一貫教育と分離型一貫教育とでは、教育効果がどのように違ってくると思いますか。
- ⑤ 今後とも、一体型の小中一貫校を設置していくべくだと考えますか。

*) 4氏のヒヤリングの全記録は、本「報告書」資料集に収録してある。ただし、各氏から発言内容についての確認は受けていないため、「取り扱い注意」にしてある。

(2) アンケート調査の実施

アンケートは、意識調査を中心にして、児童・生徒用、保護者用、教員用の3種を用意した(教員用については、つくば市総合教育研究所が2016年2月と2018年2月に実施した「教員の意識調査」の集計結果と、本委員会が2018年5月に実施した調査の結果を併用した)。調査対象群は、同一施設内で9年間一貫した教育をおこなう学園(以下では、「一体型」と呼ぶ)と、分離した施設で連携して一貫教育を行う学園(以下では「連携型」と呼ぶ)との比較が可能になるように抽出し、あわせて地域間や学園間の比較も可能になるように配慮した。児童・生徒を対象とする調査の結果の分析と考察は「報告書」本文の第Ⅱ部、保護者を対象とする調査の結果の分析と考察は第Ⅲ部、教員を対象とする調査の結果の分析と考察は第Ⅳ部に、それぞれ掲載した。

(3) 学校の視察

学校の視察は、次の学校について実施した。視察のさい、学校長をはじめ関係する教職員とのインタビューを行った。学校視察とインタビューによって得られた情報は、本「報告書」の随所に活かされている*)。E学園の教育の実践の成果と課題については、開校以来当学園の運営に携わった当事者による評価を、第Ⅴ部で報告する。

つくば市立春日学園義務教育学校	2017年12月15日
つくば市立紫峰学園筑波東中学校	2018年 2月21日
つくば市立桜並木学園並木中学校	2018年 2月21日
つくば市立豊里学園豊里中学校	2018年 2月22日

*) インタビューの記録は、本「報告書」資料集に収録してある。ただし、各発言者による内容の確認が得られてないため、「取り扱い注意」にしてある。

(4) 議事録の閲覧

つくば市での小中一貫教育の導入の経緯と、施設一体型小中一貫校の新設に関わる決定過程を検証するため、つくば市市議会の議事録を閲覧し、教育委員会の議事録の開示を受けた。それらを通して得られた情報は、本「報告書」第I部に整理した。

(5) 定例教育評価懇談会の開催

以上の作業と並行して、委員の間での意見交換と協議のため、教育評価懇談会（本委員会）を定例化した。本委員会には、5名の委員のほか、つくば市総合教育研究所の毛利 靖、渡部 哲、板谷亜由美、中村めぐみ、教育指導課の岡野正人のいずれかが出席し、委員の要請に応じて助言を与えた。開催の日程は次の通り。

2017年11月27日
2018年 2月 8日
2018年 2月22日
2018年 3月19日
2018年 4月16日
2018年 5月 7日
2018年 5月28日
2018年 6月11日
2018年 6月25日

本「報告書」の各部の初稿は、以下の委員によって執筆されたが、内容はすべて本委員会の協議にかけられ、数次にわたる修正を経て承認されたものである。全体の構成と調整には委員長（宮寺）が当たった。

はじめに、概要	宮寺 晃夫
第I部	山本 由美
第II部	山本 由美
第III部	岡本 智周
第IV部	土田 十司作
第V部	永井 英夫
総括と展望	宮寺 晃夫

報告書の概要

(一貫教育の導入と施設一体型校の設置の経緯)

つくば市市議会議事録及び教育委員会会議録等から、つくば市における小中一貫教育の導入と施設一体型校の設置にかかわる決定過程を整理した。県内外の子育て世帯の移住・移動にともない、研究学園地域の児童生徒数は増加傾向にある。これに対応して、つくば市教育委員会は、小中学校の整備・再編の一環として、2007年より小中一貫教育の導入の検討を始めた。2008年8月の教育委員会会議では、一体型小中一貫校制度を活用して、周辺の小中学校を統廃合する案を含む全体計画を承認した。翌2009年には、「つくば市学校等適正配置計画」が策定され、施設一体型校5校の開設を含む長期統廃合計画が市民に公表された。この間の決定過程には、拙速という印象が拭えない。特に、一体型校設置の最初のケースであるE小中学校（2016年度以降、E学園）では、隣接校区との間の区割りを明確に設定しないまま、一部地域に自由選択制を適用したため、学園の大規模校化がもたらされ、宅地造成地域でのコミュニティ形成にも困難がもたらされた。一方、人口の減少傾向がみられる北部の筑波地区では、2014年のD学園とC学園の統合協議の際、「標準学級規模」という新たな考え方が導入されたが、明治初期以来地元の7つの小学校と強いつながりを保ってきた各校区の住民への説明責任が、充分果たされたとはいえない。

(児童・生徒を対象にした意識調査)

つくば市における小中一貫教育の成果を検証するため、一体型校に通学する児童・生徒（1学園、1075名）と、連携型校に通学する児童・生徒（4学園、2920名）について、精神的健康度に関する比較調査を行った。両類型の児童・生徒の4年生から9年生までの6の学年を対象に、2018年3月に校内でアンケート調査を実施した。その結果、子ども同士や教師との対人関係、支援関係、レジリエンス（くじけても負けない力）などにおいて、一体型校の指数は相対的に低く、この傾向は6年生において顕著に見られた。また、一体型校では、6年生で中学校への「期待」度が下がり、中学校は期待していたより楽しくないとする傾向が見られた。勉強、体育、英語、コンピュータなどについて「自信がある」という気持ちは、学園ごとに異なり、設備や教員の指導力の相違など各学園の特徴が反映されていた。なお、調査対象となった一体型のE学園は、調査時に児童・生徒数2000名を超える大規模校となっていたため、収容数の多さが調査結果に影響した可能性が否定できず、さらなる補充調査が必要である。

(保護者を対象にした意識調査)

本委員会では、2018年3月に、施設一体型校、施設連携型校の種別と、都市地区、都市外地区の地域別を考慮して、5つの校区の学園に在籍する5年生と7年生の保護者を対象とした意識調査を行った。その結果、学校の教育目標・方策への共感、学力状況の説明に対する評価といった点において、学校教育への期待や熱意が全般的に高く、つくば市の学校教育の成果を評価し、理解している保護者の意識がうかがえた。その一方、子ども

の様子の評価、施設利用の様態、子どもの進学段階の希望、学力・学歴観などに関しては、校区の地域性に由来する傾向の違いがみられた。とりわけ、校舎や設備の状態に関する評価の面から、地域ごとの課題が浮き彫りになった。小中一貫教育に関しては、都市地区では校区の区割りの不徹底や学校選択行動の結果として学校の大規模化が生じ、それを直接の原因として、保護者と学校の関わりの弱さや、学校における不便さや不具合などを「問題」と捉える保護者の意識が示された。

(教員を対象にした意識調査)

つくば市総合教育研究所が2016年2月と2018年2月に実施した教員対象の意識調査を通して、小中一貫教育実施後の教員の意識の経年的な変化の有無を検証した。その結果、小中一貫教育に対する教員の意欲的な取組が持続的にみられることが分かった。教員の意識調査に関する限り、一体型校、連携型校の違いは見られず、それぞれの特徴を生かした小中一貫教育が行われていた。9年間を見通した教育計画や市独自の「つくばスタイル科」による次世代型スキルの習得などに成果を感じる教員も多かった。また、発達段階や小中の指導の特徴を、小中間で互いに理解し合っており、系統的な指導が行われていることが分かった。一方で、小中での打合せや児童・生徒の移動にかかる負担、連携型校における施設・設備の老朽化、一体型・連携型を問わない「4・3・2制」の区切りの見直し、などの課題が明らかになった。

(E 学園の教育の評価と課題)

E 学園は、つくば市における小中一貫教育のモデル校として、カリキュラム開発や学校運営などに関してパイロット・スクールとしての役割を果たしてきた。その一方、予想を超える児童・生徒数を収容することになり、現実的に対応しなければならない課題にも直面してきた。

(総括と展望)

以上の調査結果を受けて、本委員会では協議を重ねてきた。協議のなかで浮かび上がってきた論点を整理し、つくば市での小中一貫教育の今後のあり方について、委員会としての展望を示していく。

第 I 部

小中一貫教育の導入と施設一体型校の設置 ——その経緯の整理と検証——

1 小中一貫教育の導入と E 地区での一貫校の創設

つくば市における小中一貫教育の導入には、その背景に、研究学園地区の人口増問題に対応した学校再編計画の存在がある。2005 年につくばエクスプレスが開通し、つくば市は急速な人口増加を迎える。さらに 2006 年にスタートした公務員宿舍の売却と民間住宅への移行も、新たな子育て世帯の流入を加速させた。2008-09 年、市内で最初に「連続的な学びを創造する小中一貫教育（連携型）の在り方」研究指定校に指定される F 小・F 中学校では、すでに生徒増が問題になっていた。

2006 年 6 月議会で民主党議員が、E 地区への学校建設の必要性について意見を述べているが、同地区の都市開発計画において、あらかじめ公団によって隣接する小・中学校用地が準備されていた。そして 2007 年 3 月、市議会において初めて小中一貫校がとりあげられる。同議員が、①つくば市学校等適正配置「計画」の中で学区再編を長中期的に検討する際に検討が必要な地区はどこか、②E 小・中学校の建設について G 小、F 小と隣接することになるが、特色あるつくばの教育・魅力を発信できる学校づくりはできないか、例として、小中一貫校、インターナショナルな併設校、体験学習・研究機関との連携を強化した事業実施校などはどうか、の 2 点について質問した。この時点で、新たに開設予定の E 小・中学校の「特色」の 1 つの選択肢として「小中一貫校」が提起されているのであるが、当初から適正配置計画とセットで考えられていた。

2000 年に広島県呉市で文科省の研究開発学校制度としてスタートした小中一貫校は、2003-04 年に構造改革特区の「教育特区」制度を利用して小中一貫教育を導入した品川区、京都市などが中心となって全国に拡大していく。2006 年から小中一貫教育全国サミットが開催され、2007 年の京都市には約 3 千人の全国の自治体関係者などが参加している。呉市、品川区、京都市などの先行事例が報告され、「4・3・2」制、「中 1 ギャップの解消」などの制度導入根拠とともに、実質的には「統廃合」を進める方途として小中一貫校制度が有効であることが共有されている。

この時期につくば市教育委員会はまず「学校適正配置」すなわち統廃合計画をスタートさせる。2007 年 6 月定例会議において、「つくば市学校等の適正配置計画」について諮問を求めるために、つくば市学区審議会の委員が任命され、速やかに 5 回の審議を経て 5 か月後の 11 月には答申が出された。教委は同時にコンサルタントにも同事業を委託している。前回の 2004 年の学区審議会答申では、つくば市の「適正規模」として「12～18 学級」

が提起されていたが、今回の審議会では、それを踏襲しつつ将来的に「適正規模」という観点から具体的に学校をどう配置、再編するのかを求めたものであるとされた。ただし、学級「25人から30人」が子どもにとって1番よい環境であるとし、「既設の学校は・・・歴史的・文化的経緯と事情を持っている。それらは、生活の中の教育と結合しているという意味で大事にされなければならない。・・・特に低年齢児にあっては「安定」（「兄弟姉妹と同じ学校に通った」などもその1つ）が重要な原理である。」と地域の学校を尊重する記載が見られた。同年8月の教育委員会会議では、柿沼宜夫教育長（前職）がE小中学校の建設計画については2012年度開校の予定で計画しているとし、さらに同年の9月議会で、「(仮)E小中学校の建設の検討」を表明して同校の業務委託料予算が可決されている。

他方、やや遅れて小中一貫教育の検討もスタートする。同11月、市教委が小中一貫教育基本計画検討会議を結成し、3月まで5回の検討を行っている。アンケートを実施し、PTA役員、小学校教職員、中学校教職員、学校評議員、区長、計270名に配布後183名から回収している。後の市議会で、この時点のアンケートについて紹介された記載によれば、アンケート内容は「小中一貫教育について知っていますか」「賛成ですか・反対ですか」というもので、保護者のうち賛成51件、反対21件であったという。

その後、スピード感を持ってE小中一貫校計画は進められていく。2008年3月18日の教育委員会臨時会議では、事務局側から「学校適正化」の中で人口増に対応するためにE小中学校を開校するのに、市の特色づくりということもあり、「小中一貫校」という形で取り組んでいきたいこと、そのためには「構造改革特区」制度を用いることが説明されている。しかし実際には、つくば市は特区制度を用いずに小中一貫教育を導入することになった。

この年度以前には、品川区、京都市などは小中一貫教育をおこなうために、教育内容が規制緩和される「教育特区」制度を用いていた。しかし2008年度から、文科省の教育課程特例校制度を用いて学習指導要領の規制緩和を行わずに小中一貫教育を導入することが可能となっていた。2007年までに開設された施設一体型小中一貫校は全国で13校であったが、この後急増していくことになる。つくば市の計画もこのタイミングにちょうど合致していた。

さらに教育長は、3月18日の時点で、小中一貫校を創設するにしても「学区」を定めておかないと「適正規模」が保てないこと、E小・中学区に既にあるG小については統合吸収されることを想定していた。6月の市議会では、民主党議員が、それを確認するかのように「E地区に新設が予定されている小中一貫校」について質問した。それに対して柿沼教育長は、つくば市教育の基本理念を踏まえて小中一貫型にすることになったとし、ハード面の基本計画、2012年度の開校に向けて基本設計業務を同年度に行うことを回答している。

7月の教育委員会会議では、報告第7号「つくば市の教育の現状と目指す学校について」が出され、①「教科担任制」を推進していく上で「1学年3クラス程度」が望ましいこと（小規模だと組めない）、②外国語活動の推進、③そのモデル校としてE小中学校を進め

ていく、という見解が出された。

さらに、8月26日の会議になると議案第37号「つくば市の目指す学校の方向（小中一貫教育）について」によって、「つくば市の小・中学校において一貫教育を進めることについて承認を求める」と具体的方向が確定される。メリットとして、児童生徒の「中1ギャップの解消」など教育上の理由とともに、施設設備面で、施設の共有化が図れるため管理が容易になる、施設の分散化による経費の増大防止になる、といった点があげられているのが他自治体と異なり特徴的である。この2008年8月26日の基本的方向性が、翌年公表される大規模な統廃合計画を含む「適正配置計画」の骨子となった。

その「つくば市の一貫教育」の方向性としては、以下の3点が確認された。

- ① TX 沿線開発による新しい学校では、できるだけ小中併設（合築）による一貫教育を実践する。
- ② 小規模の小・中学校では、学校の適正規模化を図るためにも統廃合等を視野に入れながら、小中併設（合築）及び連携による一貫教育を実践する。
- ③ その他の小中学校では、連携による小中一貫教育を実践する。

この「合築」という用語は、他の小中一貫校を計画する自治体では通常用いられない。つくば市の場合、校舎建設、施設面に重点をおいた計画であることが見て取れる。この2008年8月26日の基本的方向性が、翌年の大規模な統廃合計画を含む「適正配置計画」の骨子となり、その後のつくば市の学校再編の基本的方向性を決定している。しかし、この時点でまだ、ほぼ全ての市民には情報は伝えられていない。2007-08年の短期間のうちに速やかに、つくば市の適正配置と小中一貫校計画が進められていった。

2 施設一体型小中一貫校計画の公表とG小の存続

翌2009年1月14日、つくば市教育委員会は「つくば市学校等適正配置計画書（案）」を公表する。これは、2008～2028年までを第1～4期に分けた大規模な統廃合計画であった。統廃合の対象校が公表され、5校の施設一体型小中一貫校計画が提起されていた。

まず、第1期（2009-2013年）には、E地区の小中一貫校新設を行い、それに伴ってG小の移転を検討することが盛り込まれていた。結果的にG小はE小中学校に吸収合併されることになる。急速な人口増に対応して、教室不足に陥る前に増設を図る、という理由が挙げられていた。

また、第4期（2024-28年）に、真瀬地区、島名地区、および筑波東中学区、筑波西中学区で統廃合を行い、施設一体型小中一貫校を開設することが盛り込まれていた。これは、市議会の外で、保護者、市民が小中一貫教育や小中一貫校による統廃合計画を知る最初の機会となった。その後の2009年2月1～22日のパブリックコメント受付期間に複数の反

対、疑問のコメントが寄せられることになった。その内容は統廃合に関するものが多かったが、小中一貫教育の内容について疑問を呈するコメントも1件あった。しかし、パブリックコメントの結果について必ずしも計画に反映されることはなかった。その後、4月の「広報つくば」で基本計画が広く市民に公表され、小中一貫校としてE学園の名称が初めて登場することになる。

この一連の計画に最も強く反応していたのは、E学園に吸収される対象となるG小地域の関係者であった。1879年（明治12年）に創設されたG小学校は地域との関係も強く、すでに刈間地区の保護者、住民からG小学校存続希望の運動が開始されていた。2009年6月議会でG小学校存続について問われた質問に対し、教育長は、審議会の答申を考慮しつつ地元の声を聴いて判断していく、ただし地域の意見はまだ聞いていない、と答弁している。

同年6月28日に教育委員会は、G小学校体育館で保護者などを対象にE小中学校に関する説明会を開催した。そこで、それまではG小学校をE小中一貫校に移動する計画だったのを、地元の「存続希望」を受けて存続させる方針に決定したことを公表した。学区割については、教育長は、文科省から「学区弾力化」の方針が出ているという理由で、事実上の学校選択制を導入する方針を公表した。学区に縛られないで学校を選択する指定学校変更可能区域を設けるという趣旨で、具体的には、E1丁目は、F小・G小・E小から、西岡、島地区はH小、G小、E小、それ以外の地域はG小、E小から学校を自由選択できるという内容が公表された。それまでも、人口が増加したE1丁目は例外的に、F小とG小を選択できる地域であった。しかし、この変更によって、小学校の規模が保護者の選択行動によって大きく変動することになった。特に新しい小中一貫校であるE小学校に希望が集中し、存続が決定したG小から入学者が激減することが予想されることが市議会で争点になっている。

他方、教育委員会の会議録によると、同日のG小保護者説明会で、E小中学校の建設計画に対して、子どもの通学安全面を配慮した通学路を確保するために、当初の施設配置計画を検討するべきではないか、とする意見が出されている。それは、10月の教育委員会会議で、議案第44号「E小・中学校の配置計画及び歩行者専用道路の付け替え計画案について」として審議されることになった。しかし保護者の意見の内容を見ると、E小中学校について、小学校と中学校を別々に2棟建て校舎として別に一貫校にしなくてよいのではないかと、とする一体型校反対意見と、将来的な教育を考えれば一体型校もよい、といった賛成意見が対立していたことがわかる。この施設および歩行者専用道路(遊歩道)付け替えに関する論点は、8月26日、9月16日の保護者説明会でも継続的に審議されることになった。

結局、翌2010年9月議会においてE小中学校建設計画の予算が決定され、2011年には一部の学校で、「学園」の名称が公募された。8月22日の教育委員会定例会議で、「つくばスタイル科」の骨子ができあがったと報告されて、10月には14の中学校区の「学園」の名称も決定されている。11月24、25日には、小中一貫教育研究つくば市大会が催され「つ

くばスタイル科」が公表される。翌 2012 年度から、つくば市は小中一貫教育を正式に採用し、学園制の導入、カリキュラムの変更など大きな変更が加えられた。

2011 年 8 月の「つくば市教育委員会への E 小中学校移管する進学先志望調査の集計結果に関する質問状」によると、結果的に、2012 年に E 小中学校が開校する前年 G 小学区に居住していて G 小を選択する児童は、居住する 500 名以上の児童の割の 66 名になった。また実際に入学したのはそのうち 54 名で、新 1 年生は 4 名となった。他方、E 小中一貫校への希望者はこの時点で 800 名を超え、新 1 年生は 157 名となった。当時、G 小は校舎が老朽化しており、体育館は震災によって使用が出来ない状況であった。また学区は古いタイプの地域であり、新住民は新しい E 小を選ぶ傾向があったとする意見もある。

市議会では、2 つの小学校について学区を無視して、どちらの学校も行けるようにした教育委員会の方針によって、学校を選ぶ問題で保護者も子どもも翻弄されている、と批判の意見があげられている。

しかしその後、学区への多くの人口流入もあって G 小への入学者数は増え、結果的に同小は存続することになった。結果的に、同じ地域でありながら子どもたちは異なった小学校に通学するようになった。当初想定した「適正規模」を大きく上回る入学者が E 小中学校に集まり、施設規模を越えた児童・生徒数の学校となっていった。開設の際に、保護者の学校選択を認める方針は、施設一体型小中一貫校である、学園の森学園、みどりの学園開設の際にも影響を与えたと思われる。

3 筑波秀峰学園の開設

施設一体型小中一貫校の開設計画は進められ、2013 年 3 月市議会において教育長から、「つくば市学校等適正配置計画（指針）」の見直しの中で、筑波地区及びみどりの地区における施設一体型小中一貫校の整備方針を決めていきたいという方針が出された。当初は、2024—28 年度に予定されていたものが、2017 年度開設へと計画が早められたのであった。すでに、2012 年から、筑波東中学校区の小中学校の PTA 連絡協議会において統合に向けた協議が始められていた。従来、スポーツ少年団や地位活動等で小学校同士の交流があったこともあり、教育委員会の方針を受け入れていこうとする雰囲気と同地区の保護者には作られつつあったという。

しかし、同年 12 月に筑波地区全区長 58 名の連名で、筑波西中学校区と筑波東中学校区を統合した施設一体型小中一貫校にしてほしい、という要望書が出されることになり、C 学園も含めた施設一体型校の計画が浮上する。翌 2014 年 3 月議会では、それまでの D 学園の東中学校と 4 小学校の統合による一貫校計画を前提にしながらも、教育長は、C 学園だけで施設一体型にしても 1 学年が 40 名程度になってしまうことに対して、学年 1 か 2 クラスの中学校はあり得ず、D 学園も小さい学年は 2 クラスになってしまうので、両方を合わせた方がよいという意見は多くの人々が持っていた、と説明している。

また、この時期に学区審議会の審議を受けて見直されていた「つくば市学校等適正配置計画(指針)」(2014年8月改訂)では、それまでのつくば市の「適正規模」を新たな用語である「標準学級数」と改め、小学校「12～18学級」中学校「9～12学級」から、「18～24学級」「12～15学級」に拡大すること、さらに、施設一体型校の「標準規模」を学年「3～5学級」と新たに設定することが検討されていた。それ以下の学級数は「小規模校」として括られることになった。茨城県の「適正規模」は、従来通り「12～18学級」であった。この「標準規模」という用語については、通常は用いられないものである。なぜ「標準規模」に変更したのか、という市議会での質問に対して、教育長は、学校規模は学級数が基礎単位となっているが、学級数を規定している学校教育法施行規則第41条において「標準」という表記をしていることなどから変更した、と説明を行っている。この「標準学級規模」という用語も通常は用いられない。「配置計画」の中でも、「社会性の育成」や「切磋琢磨」、「安心、安全」などさまざまな教育学的「理由」を用いながら「標準規模校等の設定」の必要性を説明しているがその根拠は明確ではない。

続けて、2014年7月に、筑波西中学校区の全小中PTAで組織されているC学園PTA連絡協議会からも統合を希望する要望書が出された。それを受けて、教育委員会は9月4日にD学園連絡協議会を開催し、PTA役員らに要望を伝え、10月30日に意見交換を行った上で、11月20日及び12月18日にD連絡協議会とC連絡協議会の統合に関する意見交換が行われた。その結果、教育長は統合について合意に至ったと教育委員会会議で説明している。

しかしこの時期に、筑波東中学区の小中学校保護者に対してアンケートがとられたが、「統合に同意する・同意しない」の選択肢の上に「将来的にも含む」の但し書きがあったと当時の保護者は述べている。「将来的に統合」を選択する保護者がほとんどではないか、と一部の小学校保護者が教育委員会に抗議したが、すでに回収済みとの説明がなされたという。その結果を受けて、教育長は、市議会において両学園の統合に合意する保護者が73%であったと市議会でも説明している。しかし、突然浮上した急な2学園の統合案に対して反対の声もあり、11月17日に、C学園PTA連絡協議会から出された要望書に異議を唱えたC学園保護者からの質問書及び意見書が教育委員会に受理されている。

さらに11月18日に地元新聞に「7小2中同時統合案に異議」の記事が掲載されたことに対して、連絡協議会の情報がリークされたと教育長が市議会において問題視している。それに対して、保護者は統合計画を当然知っていること、さらにD学園内で行われたアンケート調査では、400人の回答のうち4分の1以上の134人がC学園との統合には賛成しないという回答があり、残りの回答も事情がわからずに答えようがない、となっており、実際には保護者の意見は割れていると、生活者ネットワークの議員が述べている。

2014年12月、結局、C学園とD学園を統合し、2中学校7小学校を統合して筑波秀峰学園とする案が決定され、2015年3月には、C学園の全保護者を対象に統合に関する教育委員会による説明会が開催された。

2016年11月に五十嵐立青氏が市長に就任し、門脇厚司氏が教育長に任命されたが、その直後、2017年度開校を予定していたD学園の校舎建設工事が、開校に間に合わないことが明るみに出た。開校を1年度延期するか、年度途中で統合、開校するかについて、教育委員会は、保護者、子ども、教師を対象とするアンケート調査を実施した。その結果、子どもと保護者に、年度途中での統合に対する抵抗感が強かったため、同計画は回避され2018年度の開校が決定した。D学園は、2018年4月に、M学園、K学園と同時に、施設一体型の義務教育学校として開設されるに至っている。

Ⅱ 部

子どもの意識調査

小中一貫教育に関する子どもアンケート調査結果

1 類型別（施設一体型／施設連携型）比較結果

対象者一覧

		4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計
制度別	連携型	530	569	470	462	452	437	2920
	一体型	236	258	178	155	138	110	1075
合計		766	827	648	617	590	547	3995

※連携型：A学園・B学園・C学園・D学園

一体型：E学園

1 調査概要

本調査は、つくば市における一体型小中一貫校（E学園1校、1075名、）および連携型小中一貫校（4学園、2920名）を比較して、児童・生徒の精神的健康度について、アンケート調査を行ったものである。対象としているのは、4年生から9年生（中3生）までの6学年の児童生徒である。2018年3月に校内でアンケート調査を実施した。なお、E学園は2016年度より義務教育学校制度を採用している。

ただし、一体型校、義務教育学校が1校であるため、結果が同学園固有の特性であるか、一体型一貫校制度、もしくは義務教育学校制度の特性であるかについては、更なる検証が必要であると思われる。特に、同校は児童生徒数2千名以上で義務教育学校として日本最大規模であるため、学校規模が結果に与える影響もあると思われる。

■分析方法について■

指標ごとに複数の設問の平均値を縦軸におき、学年（4年生～9年生）を横軸に置いて

いる。

量的な変数(従属変数)に影響を与える要因(独立変数)が複数ある場合には、多要因分散分析が用いられる。本調査においては、学年(4～9年)と制度(連携型/一体型)が独立変数であると考えられるため、すべての従属変数に対して、2要因分散分析を行った。それにより、2つの要因の交互作用も明らかにすることができる。一方の要因を無視して、1要因分散分析を行った場合(例えば、「4年生について、連携型と一体型の比較を行う」)、“第1種の過誤”という統計的なエラーの生起率が全体として高まる。そのため、本データに対しては、2要因分散分析を行うことが妥当であると考えられる。

2 調査結果について

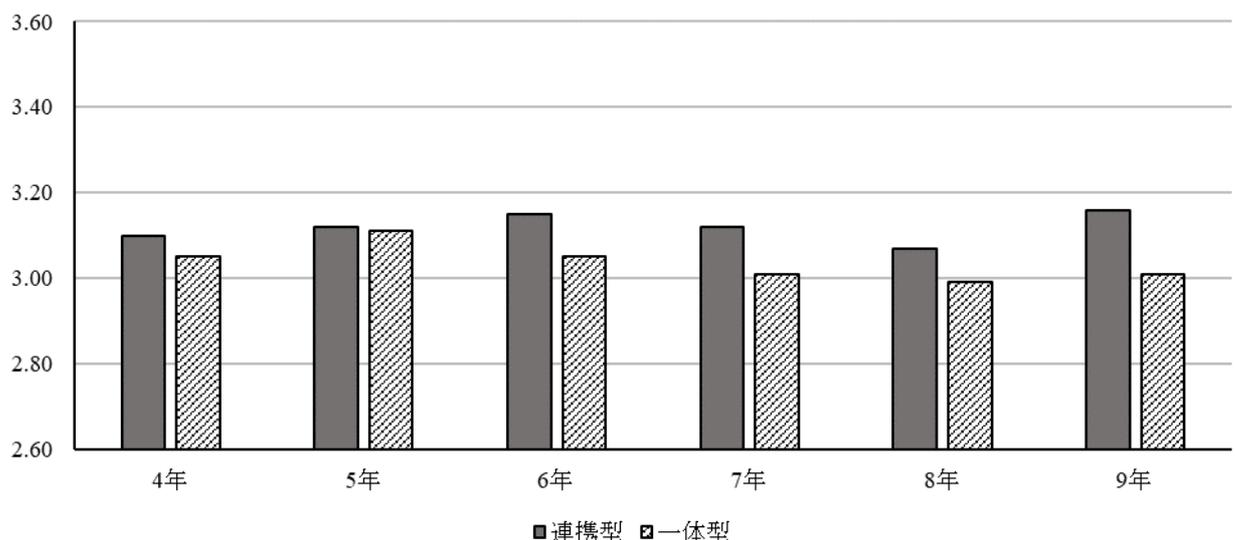
1) レジリエンス、子どもの精神的健康

本調査では、子どものレジリエンス(ネガティブなことがあってもくじけない、負けない、克服する)について、(1)意欲的活動性、(2)内面的共有性、(3)楽観性の3つの指標において、一貫校と非一貫校の子どもの意識を比較している。このレジリエンスによって、児童・生徒の精神的健康度について評価することができると思う。

実際の各指標の設問内容と評点の求め方、アンケート結果は以下のようなものである。

(1) 意欲的活動性：

「きめたら必ず実行する」「つらい経験からも、学ぶことがあると思う」「しっばいしてもあきらめずにもういちど挑戦する」「むずかしいことでも解決するために、いろいろな方法を考える」の4項目への回答の平均を用いている。



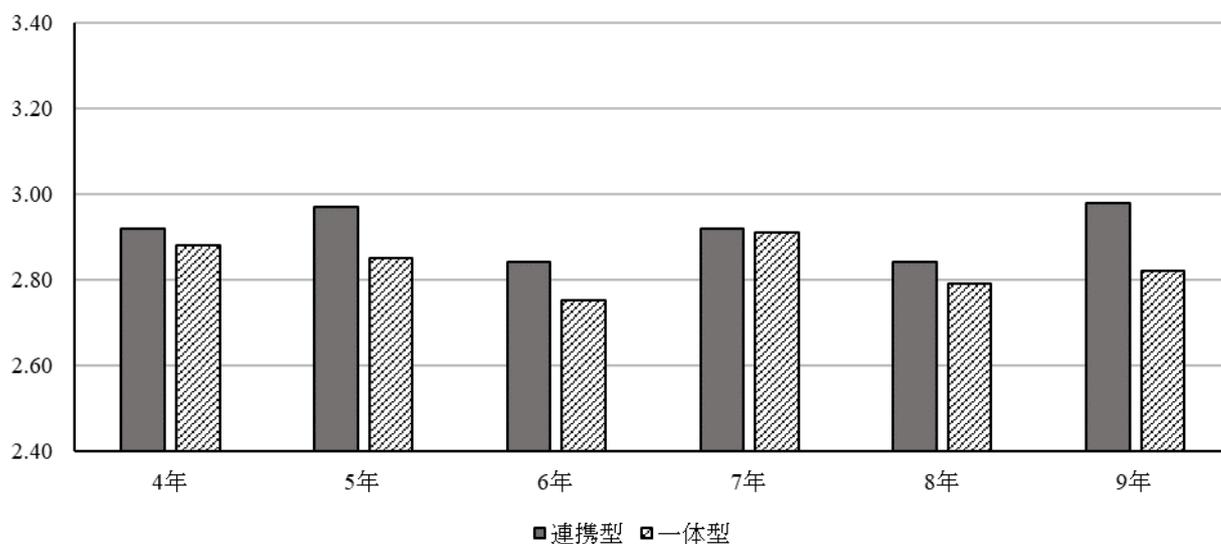
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用	
		4年	5年	6年	7年	8年	9年				
制 度	連携型	3.12 (0.57)	3.10 (0.59)	3.12 (0.59)	3.15 (0.58)	3.12 (0.51)	3.07 (0.53)	3.16 (0.57)	15.81(1, 3976)***	1.50(5, 3976)	1.00(5, 3976)
	一体型	3.05 (0.56)	3.05 (0.56)	3.11 (0.54)	3.05 (0.62)	3.01 (0.49)	2.99 (0.49)	3.01 (0.62)			
合計		3.10 (0.56)	3.09 (0.59)	3.12 (0.57)	3.12 (0.59)	3.10 (0.51)	3.05 (0.52)	3.13 (0.59)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・意欲的活動性については、連携型校の方が一体型校よりも高い。

(2) 内面共有性：

「自分の考えを人に聞いてもらいたいと思う」「うれしくてたまらないときは自分の気持ちを人に話したいと思う」「つらいときやなやんでいるときは自分の気持ちを人に聞いてもらいたいと思う」「さみしいときや悲しいときは自分の気持ちを人に聞いてもらいたいと思う」の4項目への回答の平均を用いている。



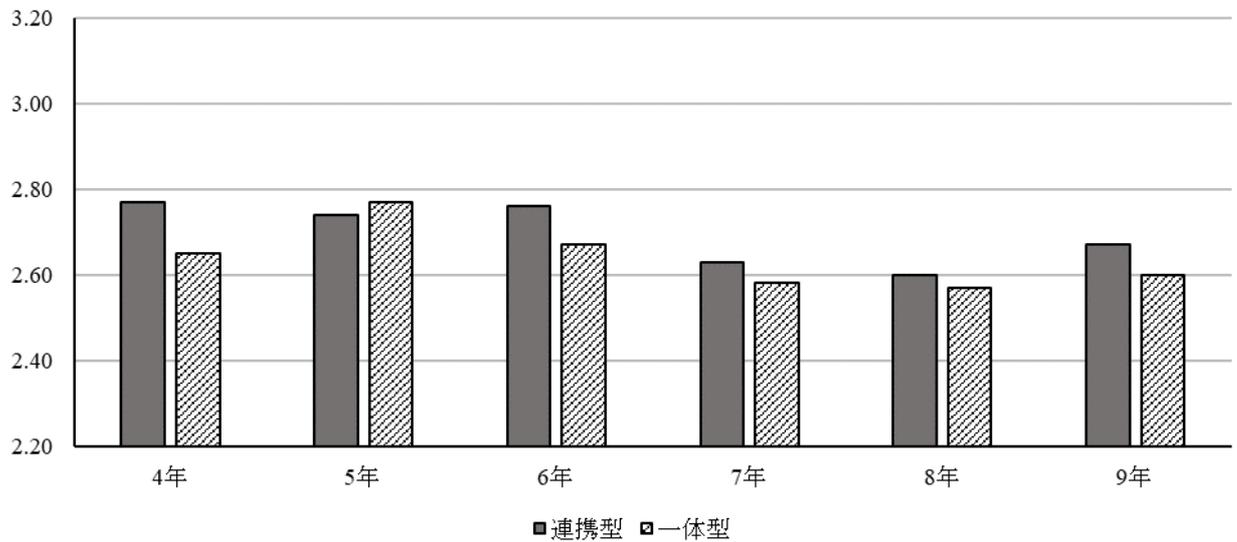
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用	
		4年	5年	6年	7年	8年	9年				
制 度	連携型	2.91 (0.75)	2.92 (0.79)	2.97 (0.74)	2.84 (0.75)	2.92 (0.73)	2.84 (0.73)	2.98 (0.74)	7.83(1, 3969)**	2.44(5, 3969)*	0.59(5, 3969)
	一体型	2.84 (0.77)	2.88 (0.79)	2.85 (0.81)	2.75 (0.77)	2.91 (0.68)	2.79 (0.76)	2.82 (0.82)			
合計		2.89 (0.76)	2.91 (0.79)	2.93 (0.76)	2.81 (0.75)	2.92 (0.72)	2.83 (0.74)	2.95 (0.75)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・連携型校の方が一体型校よりも内面共有性が高い。

(3) 楽観性：

「こまったことがおきても、よい方向にもっていく」「こまったとき、考えるだけ考えたらもうなやまない」「なにごとともよい方に考える」の3項目への回答の平均を用いている。



制度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	2.70 (0.73)	2.77 (0.74)	2.74 (0.73)	2.76 (0.75)	2.63 (0.69)	2.60 (0.67)	2.67 (0.73)	4.41(1, 3963)* 4.80(5, 3963)*** 0.90(5, 3963)		
一体型	2.66 (0.73)	2.65 (0.74)	2.77 (0.73)	2.67 (0.77)	2.58 (0.63)	2.57 (0.67)	2.60 (0.80)			
合計	2.69 (0.73)	2.73 (0.74)	2.75 (0.73)	2.74 (0.76)	2.62 (0.68)	2.59 (0.67)	2.66 (0.75)	一体型<連携型 7年・8年<5年		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・連携型校の方が一体型校よりも楽観性が高い。また、5年生が、7、8年生よりも楽観性が高い。

2) レジリエンスに関する制度別のアンケート結果

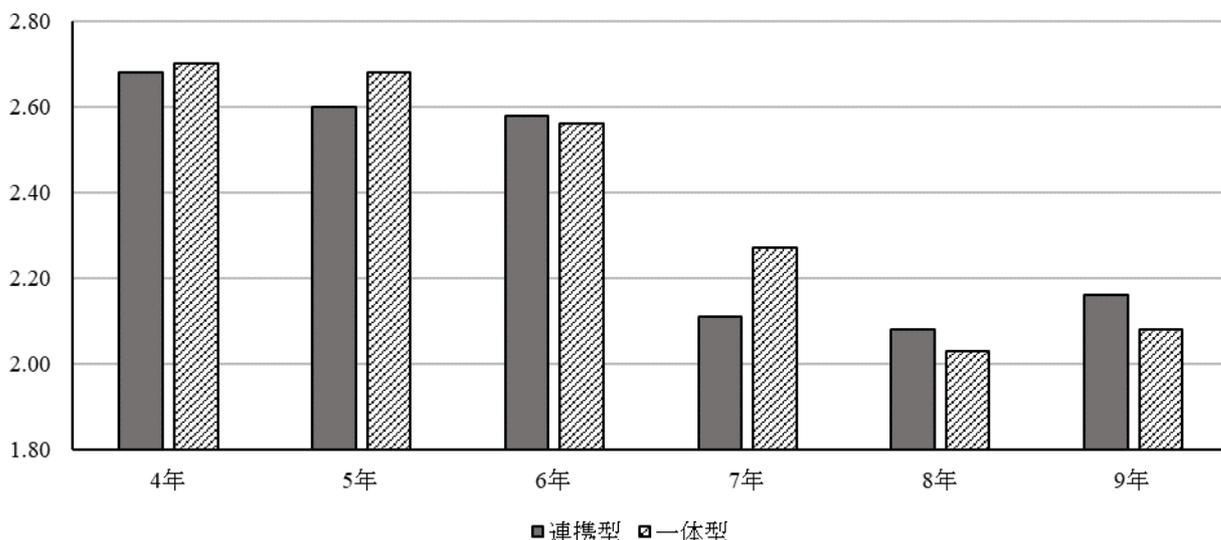
意欲的活動性、内面的共有性、楽観性いずれにおいても、全般的に一体型校よりも、連携型校の方が高い結果が出た。また、楽観性においては、5年生が、7、8年生よりも高い結果が出た。

3 コンピテンスについて

コンピテンスとは、「私はそのことができる、そのことについて自信がある」といった児童・生徒の積極的な感情を表すものである。本調査では、(1) 勉強、(2) 友人関係、(3) 運動、(4) 自信、(5) 英語、(6) PC の5つの指標を用いている。(5) 英語および(6) PCについては、つくば市の特色教科である「つくばスタイル科」の効果について評価しようとするものである。

(1) 勉強のコンピテンス（私は勉強について自信がある）：

「勉強は、クラスの中で、できる方ですか」「勉強は、苦手ですか※」「頭は、よい方だと思いますか」「成績は、悪い方だと思いますか※」の4項目への回答の平均を用いている。



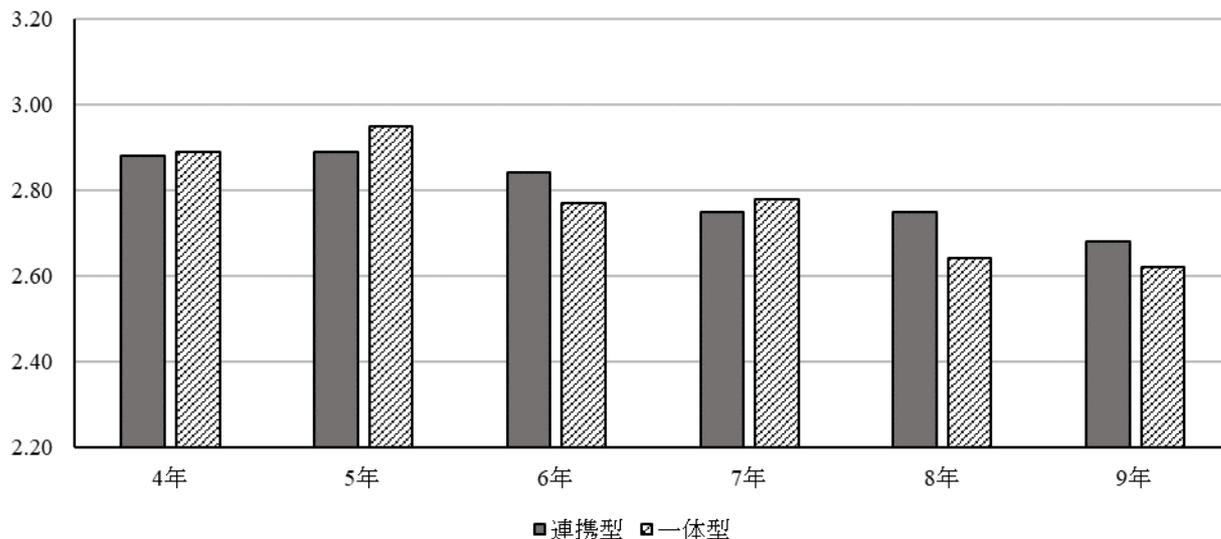
制度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	2.39 (0.88)	2.68 (0.85)	2.60 (0.86)	2.58 (0.83)	2.11 (0.85)	2.08 (0.80)	2.16 (0.83)	0.38(1, 3958)	57.86(5, 3958)***	1.27(5, 3958)
一体型	2.46 (0.88)	2.70 (0.82)	2.68 (0.89)	2.56 (0.89)	2.27 (0.81)	2.03 (0.79)	2.08 (0.82)			
合計	2.41 (0.88)	2.69 (0.84)	2.63 (0.87)	2.58 (0.85)	2.15 (0.84)	2.07 (0.80)	2.15 (0.82)	7年・8年・9年<4年・5年・6年		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・中学生よりも小学生の方が「勉強のコンピテンス」すなわち「私は勉強ができる」という傾向が高い。
- ・一体型校と連携型校の有意差は見られない。

(2) 友人関係（私は友人関係についてうまくいっている、自信がある）：

「友だちは、たくさんいますか」「クラスの中では、人気者だと思いますか」「友だちに、よくいじわるをされますか※」「新しい友だちをつくるのは、かんたんですか」の4項目への回答の平均を用いている。



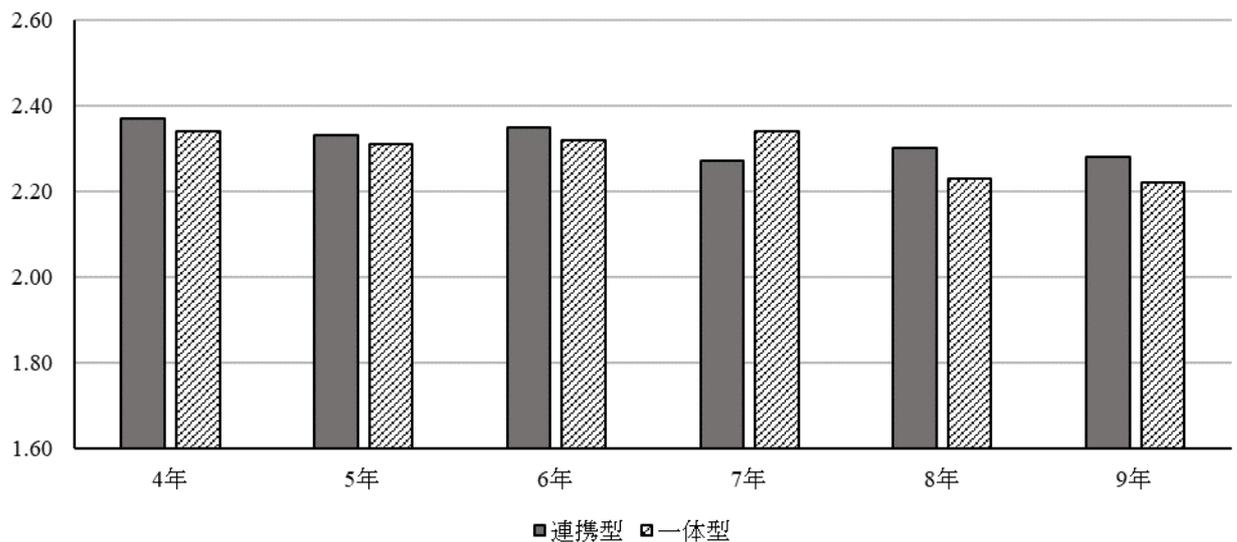
制 度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	2.81 (0.62)	2.88 (0.62)	2.89 (0.60)	2.84 (0.64)	2.75 (0.61)	2.75 (0.60)	2.68 (0.64)	1.07(1, 3957)	14.86(5, 3957)***	1.50(5, 3957)
一体型	2.81 (0.63)	2.89 (0.61)	2.95 (0.62)	2.77 (0.65)	2.78 (0.64)	2.64 (0.54)	2.62 (0.62)			
合計	2.81 (0.62)	2.89 (0.61)	2.91 (0.61)	2.82 (0.64)	2.76 (0.62)	2.73 (0.59)	2.67 (0.64)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・ 4、5年生の方が、中学生よりも「私は友達とうまくいっている」とする傾向が高い。
- ・ 5年生が6年生より高い。一体型校と連携型校の有意差は見られない。

(3) 運動のコンピテンス（私は運動に自信がある）：

「運動は得意な方ですか」「はじめてのスポーツでも、うまくできる自信がありますか」
 「運動の大会では、よく選手にえらばれますか」「運動は参加するよりも、みている方がす
 きですか※」の4項目への回答の平均を用いている。



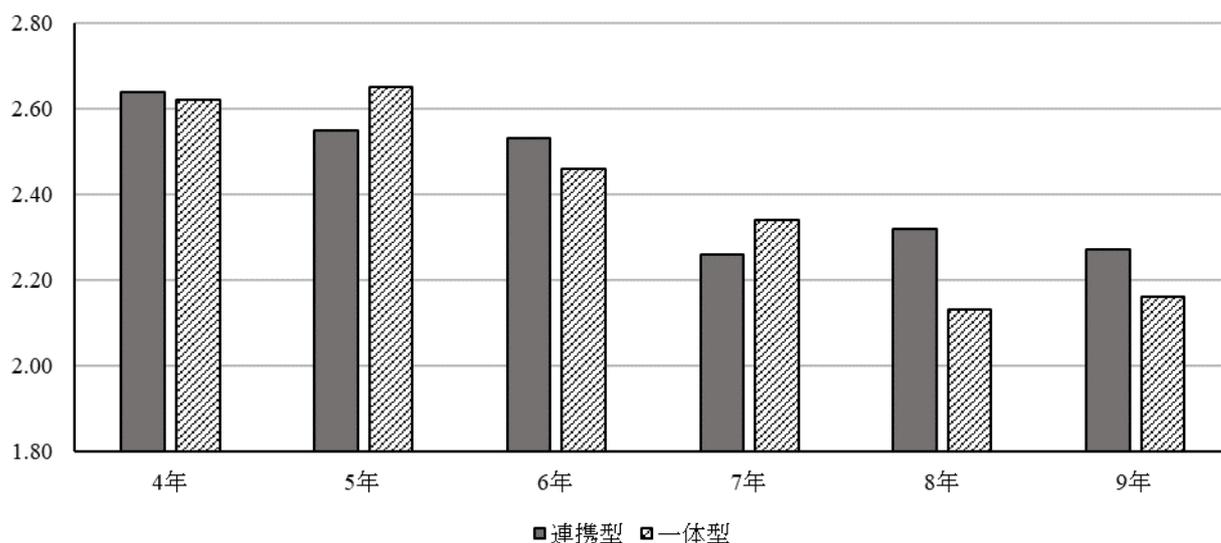
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用	
		4年	5年	6年	7年	8年	9年				
制 度	連携型	2.32 (0.62)	2.37 (0.60)	2.33 (0.66)	2.35 (0.63)	2.27 (0.57)	2.30 (0.58)	2.28 (0.64)	0.95(1, 3952)	1.96(5, 3952)†	0.80(5, 3952)
	一体型	2.30 (0.63)	2.34 (0.61)	2.31 (0.59)	2.32 (0.69)	2.34 (0.64)	2.23 (0.60)	2.22 (0.65)			
合計		2.31 (0.62)	2.36 (0.60)	2.32 (0.64)	2.34 (0.65)	2.29 (0.59)	2.29 (0.58)	2.27 (0.64)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・運動のコンピテンス、すなわち「私は運動ができる」とする傾向について一体型校と連携型校の有意差は見られない。

(4) 自信（自分に自信がある、うまくいっている）：

「自分に自信がありますか」「たいていのことは、人よりもうまくできると思いますか」「何をやってもうまくいかないような気がしますか※」「自分には、人に自慢できるところがたくさんあると思いますか」の4項目への回答の平均を用いている。



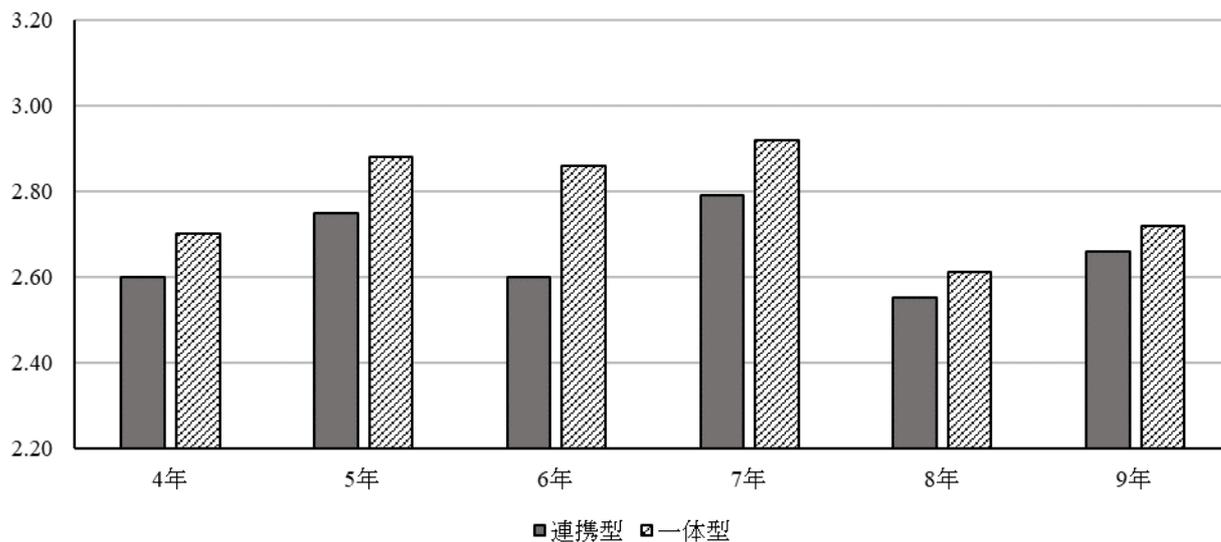
制度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	2.44 (0.75)	2.64 (0.74)	2.55 (0.72)	2.53 (0.74)	2.26 (0.72)	2.32 (0.75)	2.27 (0.77)	1.57(1, 3954)	33.05(5, 3954)***	2.90(5, 3954)*
一体型	2.45 (0.76)	2.62 (0.75)	2.65 (0.77)	2.46 (0.80)	2.34 (0.73)	2.13 (0.61)	2.16 (0.70)			
合計	2.44 (0.76)	2.64 (0.74)	2.58 (0.74)	2.51 (0.76)	2.28 (0.72)	2.27 (0.72)	2.25 (0.75)	8年：一体型<連携型 連携型：7年 8年 9年<4年 5年 6年 一体型：7年 8年<4年 5年 6年 9年<4年 5年		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・「自信」については、8年生で連携型校の方が一体型校よりも高い傾向が見られる。
- ・連携型校では、小学校の方が中学校よりも「自信」が高い。一体型校では、小学校の方が7、8年生よりも「自信」が高い。

(5) 英語のコンピテンス（私は英語に自信がある）：

「外国語(英語)活動・科の授業の内容が理解できていますか」「英語は得意な方だと思いますか」の2項目への回答の平均を用いている。



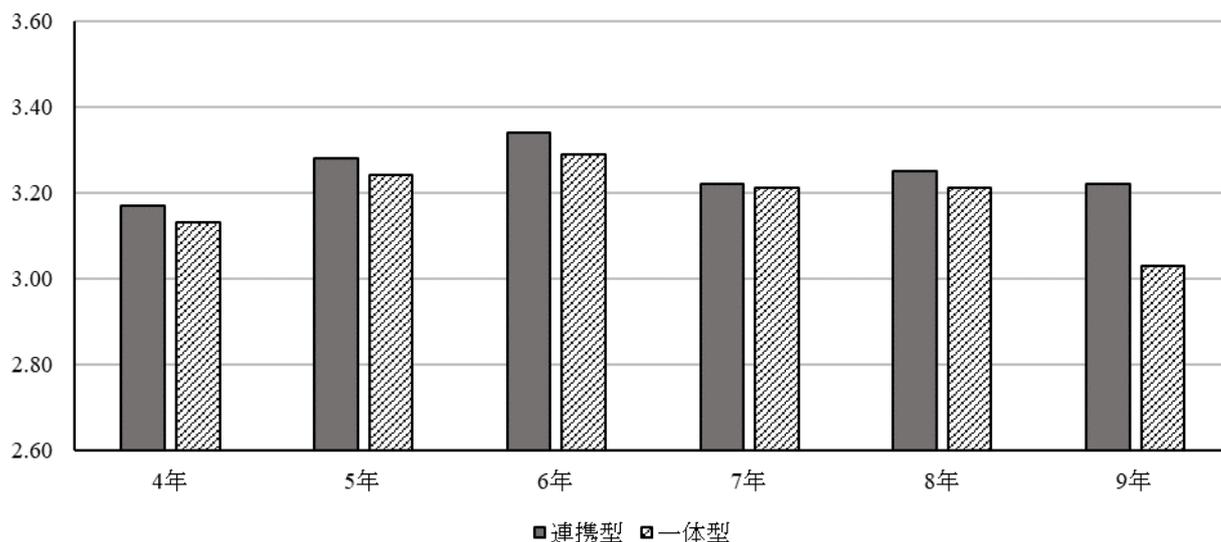
制度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	2.66 (0.99)	2.60 (1.02)	2.75 (0.95)	2.60 (0.97)	2.79 (0.95)	2.55 (1.01)	2.66 (1.01)	11.02(1, 3933)** 5.41(5, 3933)*** 0.71(5, 3933)		
一体型	2.79 (1.00)	2.70 (1.07)	2.88 (0.98)	2.86 (0.97)	2.92 (0.95)	2.61 (0.95)	2.72 (1.04)			
合計	2.70 (0.99)	2.63 (1.03)	2.79 (0.96)	2.67 (0.98)	2.82 (0.95)	2.56 (1.00)	2.67 (1.02)	連携型<一体型 4年<8年<5年<7年		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・一体型校の方が連携型校よりも「私は英語ができる」という英語のコンピテンスが高い傾向がみられる。

(6) PCのコンピテンス（私はパソコンやインターネットに自信がある）：

「インターネットを使って、知りたいことを調べられますか」「パソコンをうまく使える自信がありますか」の2項目への回答の平均を用いている。



制 度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
携帯型	3.24 (0.75)	3.17 (0.86)	3.28 (0.79)	3.34 (0.73)	3.22 (0.69)	3.25 (0.69)	3.22 (0.70)	4.30(1, 3947)* 一体型<携帯型 4年・9年<6年	4.21(5, 3947)**	0.62(5, 3947)
一体型	3.19 (0.82)	3.13 (0.91)	3.24 (0.82)	3.29 (0.86)	3.21 (0.71)	3.21 (0.71)	3.03 (0.81)			
合計	3.23 (0.77)	3.16 (0.88)	3.26 (0.80)	3.33 (0.77)	3.22 (0.69)	3.24 (0.70)	3.18 (0.73)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「私はパソコンができる」パソコンのコンピテンスについては、携帯型校の方が一体型校よりも高い傾向がある。また、6年生が4年生や9年生よりも高い傾向がある。

2) コンピテンス全体の結果

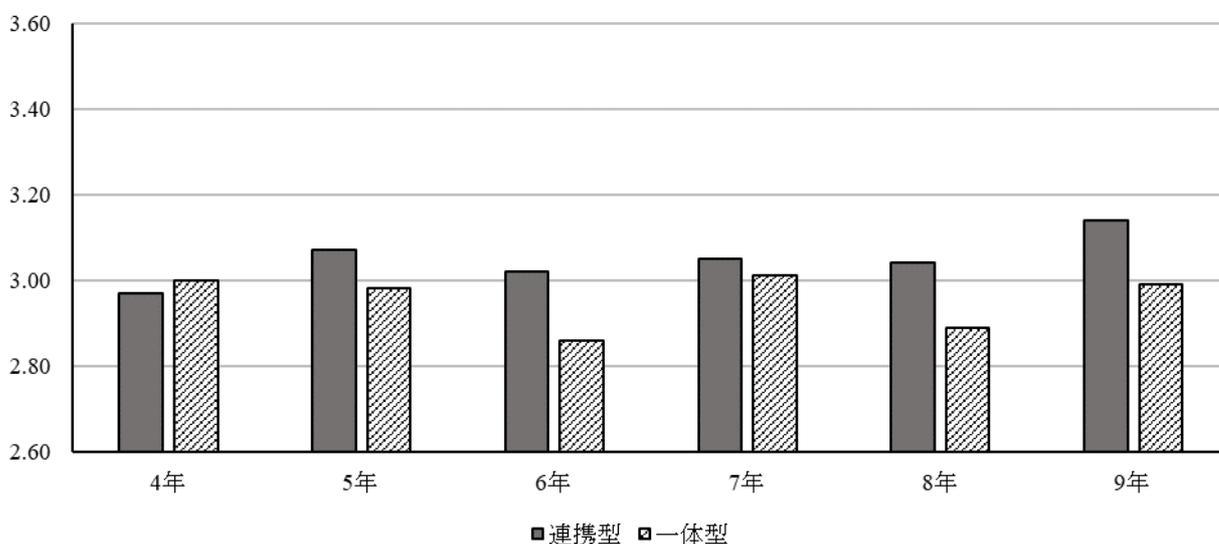
英語のコンピテンス（私が英語ができる）については、一体型校が携帯型校よりも高い傾向が見られた、逆にパソコンのコンピテンス（私はパソコンができる）については携帯型校の方が一体型校よりも全体的に高い傾向が見られる。また、自信（私は自信がある）については、8年生で携帯型が一体型よりも高い傾向が見られる。また学年があがるごとに「自信」は低下していくが、携帯型の方がやや低下が抑制されている。

4 ソーシャルサポート

学校での児童・生徒に対するソーシャルサポートについて（１）友人からのソーシャルサポート、（２）教師からのソーシャルサポートの２つの指標について調査している。

(1) 友人からのソーシャル・サポート：

「あなたに元気がないと、すぐにきづいてはげましてくれる」「あなたがなやみや不満をいってもいやな顔をしないで聞いてくれる」「あなたが何か失敗しても、そっと助けてくれる」「ふだんからあなたの気持ちをよくわかってくれる」「あなたが何かなやんでいるときにどうしたらよいか教えてくれる」の５項目への回答の平均を用いている。



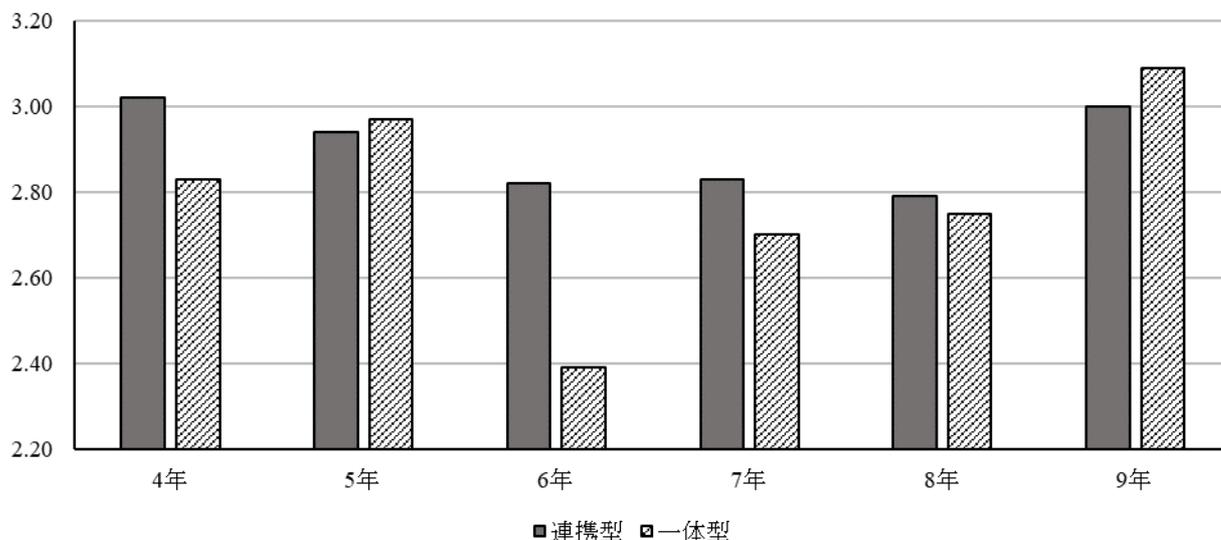
制度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	3.05 (0.73)	2.97 (0.78)	3.07 (0.73)	3.02 (0.77)	3.05 (0.69)	3.04 (0.66)	3.14 (0.73)	11.71(1, 3926)**	1.71(5, 3926)	1.33(5, 3926)
一体型	2.96 (0.78)	3.00 (0.89)	2.98 (0.82)	2.86 (0.80)	3.01 (0.57)	2.89 (0.71)	2.99 (0.74)			
合計	3.02 (0.75)	2.98 (0.82)	3.04 (0.76)	2.98 (0.78)	3.04 (0.67)	3.01 (0.68)	3.11 (0.73)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・友人からのソーシャルサポートについては、連携型校の方が一体型校よりも高い傾向が見られる。

(2) 教師からのソーシャルサポート：

「あなたに元気がないと、すぐにきづいてはげましてくれる」「あなたがなやみや不満をいってもいやな顔をしないで聞いてくれる」「あなたが何か失敗しても、そっと助けてくれる」「ふだんからあなたの気持ちをよくわかってくれる」「あなたが何かなやんでいるときにどうしたらよいか教えてくれる」の5項目への回答の平均を用いている。



制 度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	3.05 (0.73)	3.02 (0.80)	2.94 (0.81)	2.82 (0.83)	2.83 (0.83)	2.79 (0.80)	3.00 (0.77)	14.26(1, 3953)*** 18.19(5, 3953)*** 6.51(5, 3953)***	4年・7年：一体型<連携型 連携型：6年・7年・8年<4年・9年 一体型：6年<4年・5年・7年・8年・9年 7年<5年・9年	
一体型	2.79 (0.83)	2.83 (0.88)	2.97 (0.81)	2.39 (0.88)	2.70 (0.66)	2.75 (0.70)	3.09 (0.79)			
合計	2.87 (0.82)	2.96 (0.83)	2.95 (0.81)	2.71 (0.88)	2.79 (0.79)	2.78 (0.78)	3.02 (0.78)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・教師からのソーシャルサポートについては、4年生と7年生で連携型校の方が一体型校よりも高い傾向が見られる。連携型校では4年生と9年生が、6、7、8年生より高い傾向が見られる。

・他方、一体型校では6年生が他のどの学年よりも教師からのソーシャルサポートが低い傾向が見られる。

2) ソーシャルサポートについての分析

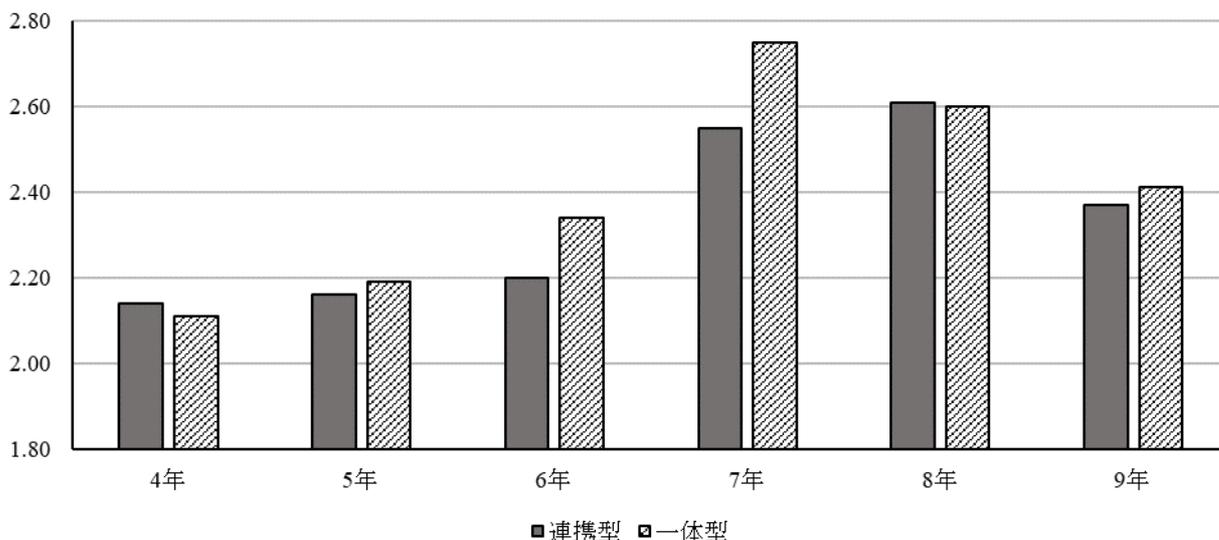
友人からのソーシャルサポートについては、全体的に連携型校の方が一体型校よりも高い結果が見られる。また、教師からのソーシャルサポートについても、4年生と7年生で

は連携型校の方が一体型校よりも高い傾向が見られる。一体型校において6年生が極端に教師からのソーシャルサポートが低いのが特徴的である。

4 環境負荷

1) 学校における様々な面でのストレスや負荷（授業や規則、自由の無さなど）について問うている。

「いまの学校は時間におわれていそがしい」「いまの学校の授業はむずかしい」「いまの学校では多くのことがもとめられている」「いまの学校には自由がない」「いまの学校はきまりがきびしい」の5項目への回答の平均を用いて分析している



制 度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	2.33 (0.69)	2.14 (0.68)	2.16 (0.68)	2.20 (0.66)	2.55 (0.63)	2.61 (0.62)	2.37 (0.68)	6.51(1, 3960)*	59.30(5, 3960)*** 6年・7年：連携型<一体型 連携型：4年・5年・6年<9年<7年・8年 一体型：4年・5年・6年・9年<7年・8年 4年<6年・9年	2.28(5, 3960)*
一体型	2.35 (0.68)	2.11 (0.67)	2.19 (0.61)	2.34 (0.66)	2.75 (0.64)	2.60 (0.63)	2.41 (0.68)			
合計	2.33 (0.69)	2.13 (0.68)	2.17 (0.66)	2.24 (0.66)	2.60 (0.64)	2.61 (0.62)	2.38 (0.68)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

2) 環境負荷の結果

6年生と7年生で、一体型校の方が連携型校において負荷が高い傾向が見られる。連携型の場合、6年生から7年生、すなわち小学校から中学校への移行において大幅な上昇がみられるが、一体型の場合も同様に、6年生から7年生の間で大幅な上昇がみられる。

5 学級適応感

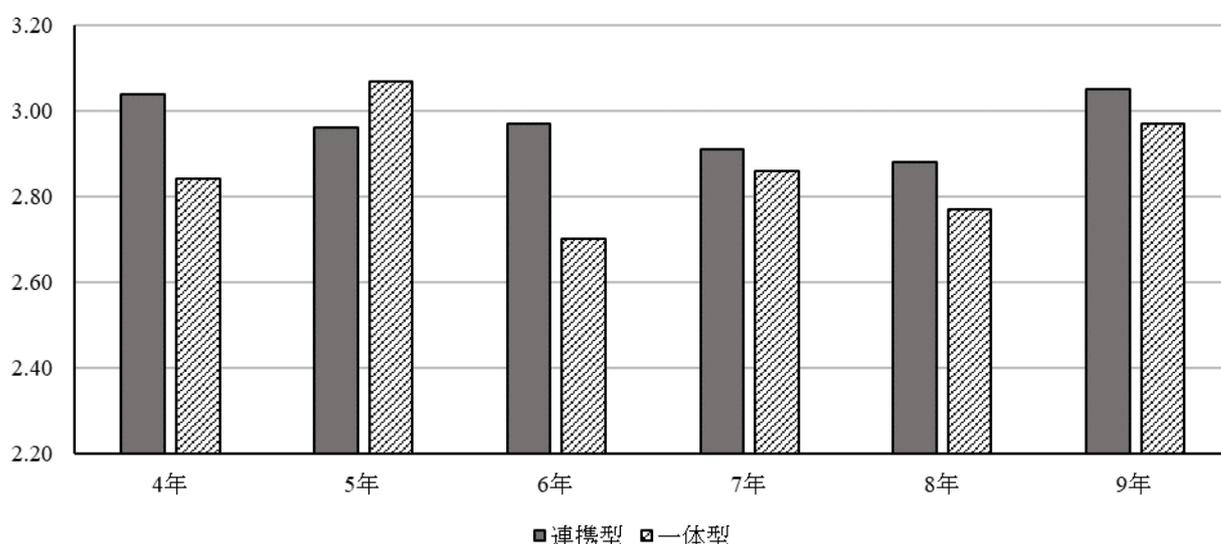
児童・生徒が学級にどれだけ適応しているのか、居場所があると感じているのかを問うている。

(1) 学級適応、(2) 対教師関係、(3) ルールへの意識、の3つの指標を用いている。

(3) ルールへの意識は、児童・生徒が、内面的に自ら積極的にルールを守っていこうとする意識を評価しようとするものである。

(1) 学級適応：

「クラスの中にいると、ほっとしたり、明るいきぶんになる」「クラスで行事に参加したり、活動するのはたのしい」「自分もクラスの活動にやくだっていると思う」「自分のクラスはなかのよいクラスだと思う」の4項目への回答の平均を用いている。



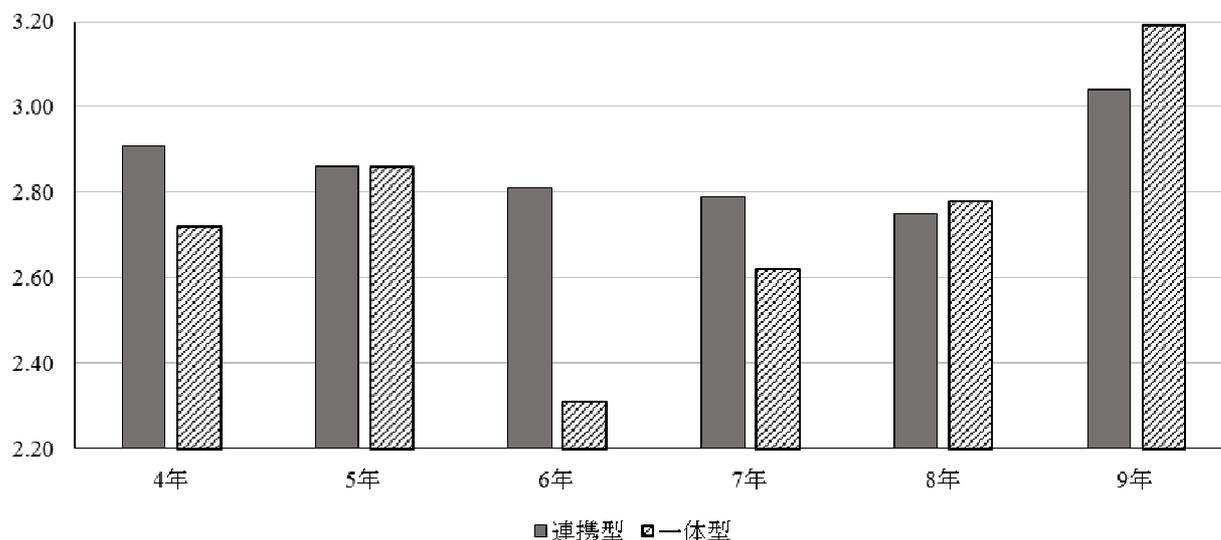
学級適応感	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	2.97 (0.70)	3.04 (0.72)	2.96 (0.71)	2.97 (0.69)	2.91 (0.71)	2.88 (0.69)	3.05 (0.68)	14.72(1, 3957)***	6.85(5, 3957)***	5.09(5, 3957)***
一体型	2.88 (0.74)	2.84 (0.78)	3.07 (0.66)	2.70 (0.82)	2.86 (0.66)	2.77 (0.65)	2.97 (0.77)			
合計	2.94 (0.71)	2.98 (0.74)	2.99 (0.69)	2.89 (0.74)	2.90 (0.70)	2.85 (0.68)	3.03 (0.70)	一体型：4年・6年・8年<5年 6年<9年		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・4、6年生では、連携型校の方が一体型校よりも学級適応感が高い。
- ・連携型校では、4年生、9年生が8年生よりも適応感が高く、一体型校においては、4、6、8年生より5年生は適応感が高く、6年生より9年生が高い。すなわち一体型校では6年生の適応感が低いのが特徴的である。

(2) 対教師関係：

「先生にしたしみをかんじる」「学校にはきがるによくはなしをする先生がいる」「自分をみとめてくれる先生がいる」「たんになの先生とはうまくいっていると思う」の4項目への回答の平均を用いている。



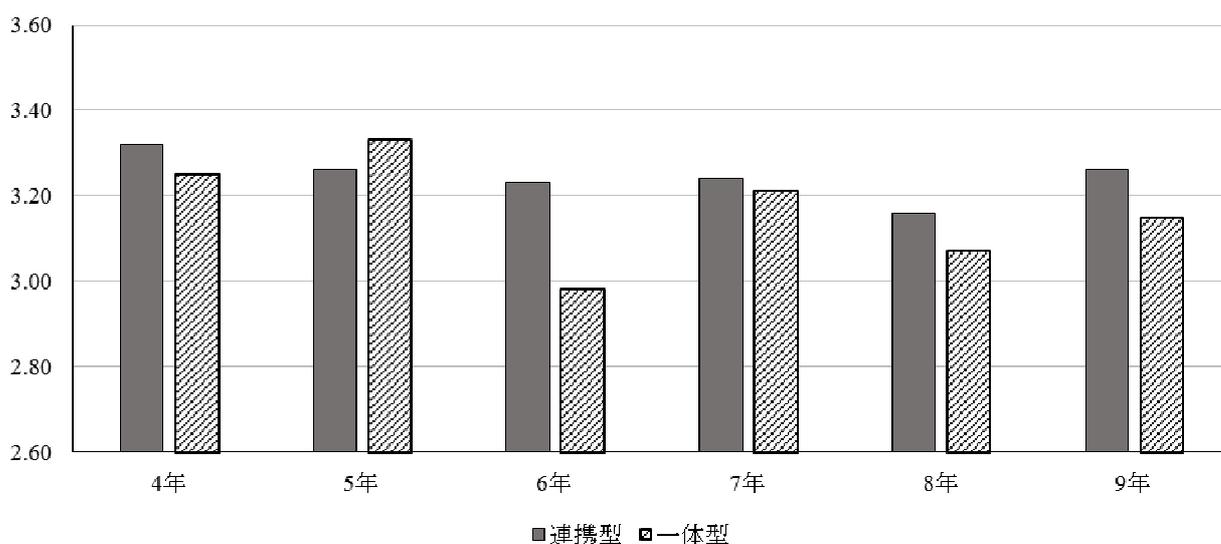
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
制度	連携型	2.86 (0.78)	2.91 (0.76)	2.86 (0.78)	2.81 (0.79)	2.79 (0.81)	2.75 (0.77)	3.04 (0.70)	15.77(1, 3954)*** 23.63(5, 3954)*** 10.54(5, 3954)***	4年・6年・7年：一体型<連携型 連携型：5年・6年・7年・8年<9年 8年<4年 一体型：6年<4年・5年・7年・8年<9年 7年<5年
	一体型	2.73 (0.81)	2.72 (0.80)	2.86 (0.78)	2.31 (0.87)	2.62 (0.66)	2.78 (0.71)	3.19 (0.77)		
	合計	2.82 (0.79)	2.85 (0.78)	2.86 (0.78)	2.67 (0.84)	2.75 (0.78)	2.76 (0.75)	3.07 (0.72)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「対教師関係」では、4、6、7年生で連携型校の方が1体型校よりも高い傾向が見られる。連携型校では9年生が、5、6、7、8年生よりも高い傾向が見られる。一方、一体型校では6年生が他のどの学年よりも低い傾向が見られる。

(3) ルールへの意識：

「学校のルールはやぶってもいいと思う※」「学校のルールはひつようだと思う」「学校のルールには気をつけている」「学校のルールはちゃんと守っている」の4つの平均を用いている。



制 度	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
連携型	3.25 (0.62)	3.32 (0.64)	3.26 (0.64)	3.23 (0.63)	3.24 (0.60)	3.16 (0.61)	3.26 (0.56)	12.60(1, 3949)*** 6年：一体型<連携型 連携型：8年<4年 一体型：6年<4年 5年・7年 8年<5年	8.74(5, 3949)***	3.95(5, 3949)**
一体型	3.18 (0.68)	3.25 (0.72)	3.33 (0.66)	2.98 (0.79)	3.21 (0.56)	3.07 (0.63)	3.15 (0.58)			
合計	3.23 (0.64)	3.30 (0.66)	3.28 (0.65)	3.16 (0.69)	3.23 (0.59)	3.14 (0.62)	3.23 (0.56)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・6年生では、連携型校の方が一体型校よりも「ルールへの意識」が高い。連携型校では、4年生が8年生より高く、一体型校では6年生が4年、5年、7年生よりも低い傾向が見られる。

2) 学級適応感の分析

4年生と6年生において、一体型校の学級適応感が連携型校よりも低い傾向がある。特に一体型校の6年生は3つの指標において、他の学年よりも大幅に低い適応感を示している。連携型校では、4年生と9年生が、学級適応感、対教師適応感において他の学年よりも高い傾向がある。

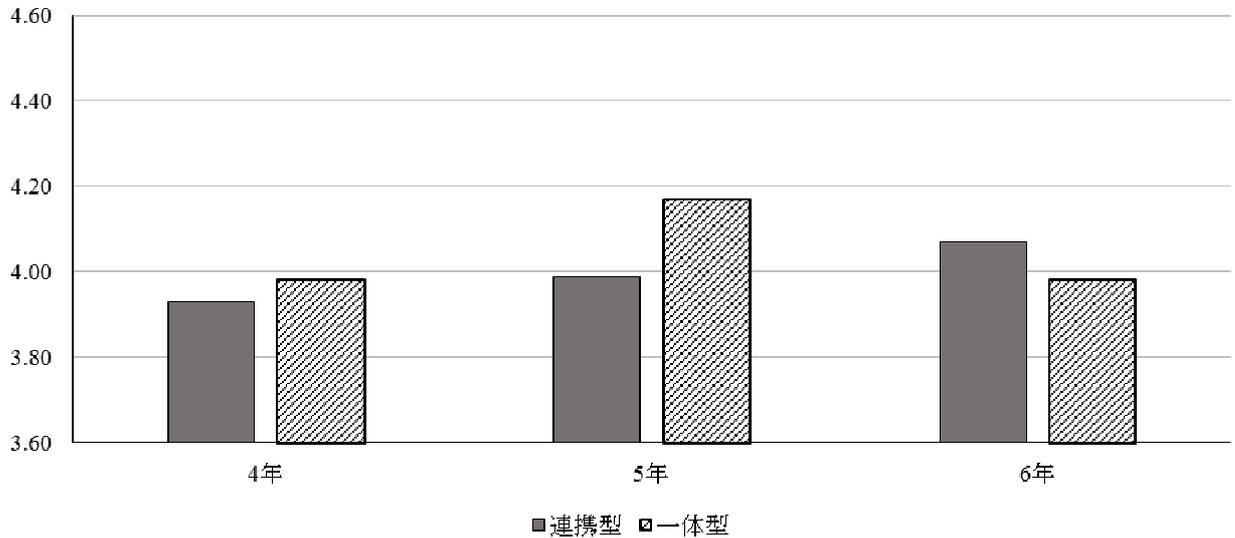
6 中学校生活への期待・不安

小学生と中学生それぞれに、中学校への不安・期待および、実際に中学校になってそれがどうなったのかについて検証している。小学生には、(1) 中学校への期待、(2) 中学校の心配、(3) 中学校の不安、(4) 中学校の生活が楽しみ、と4つの設問を用いている。

他方中学生には、実際に中学校に進学してからの期待や不安とのズレについて質問している。(1) 期待していたことができていない、(2) 不安なことは起きていない、(3) 心配していたことが起きている、(4) 入学前に楽しみにしていたよりも中学校生活が楽しくな

い、の4つの設問を用いている。

(1) 「中学校に入ったら、やってみたいと思って期待していることがある」(小学生のみ)

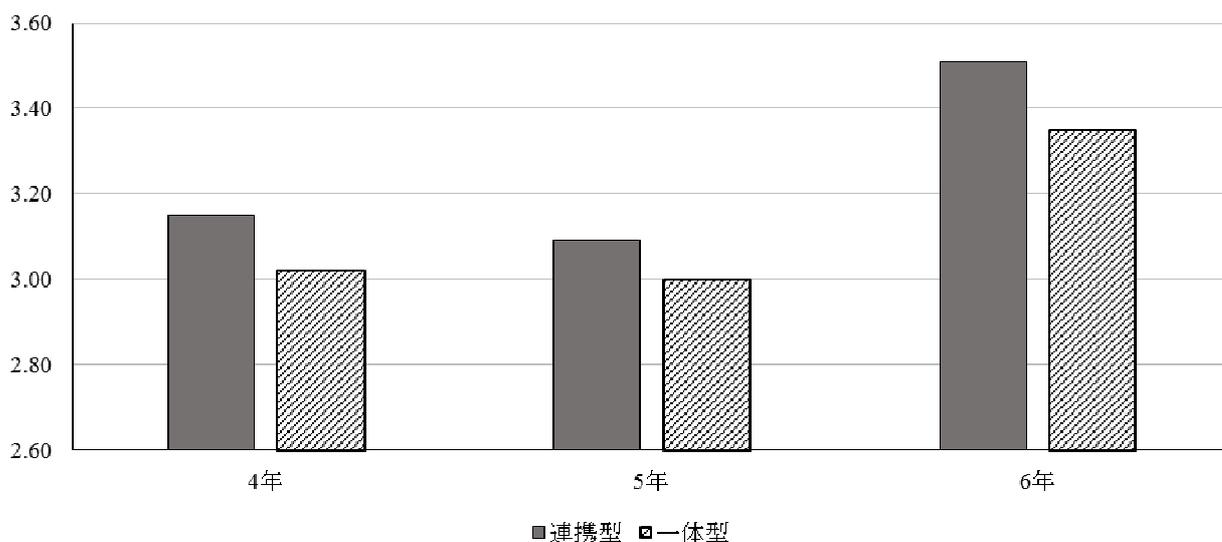


制度	合計	学年			学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年			
連携型	3.99 (1.28)	3.93 (1.32)	3.99 (1.27)	4.07 (1.22)	0.66(1, 2047)	1.50(2, 2047)	1.47(2, 2047)
一体型	4.05 (1.28)	3.98 (1.32)	4.17 (1.17)	3.98 (1.37)			
合計	4.01 (1.28)	3.94 (1.32)	4.04 (1.24)	4.04 (1.27)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「中学に入ったらやってみたいことがある」において、一体型校と連携型校の差は見られない。

「中学校でちゃんとやっていけるか不安に思っている」(小学生のみ)

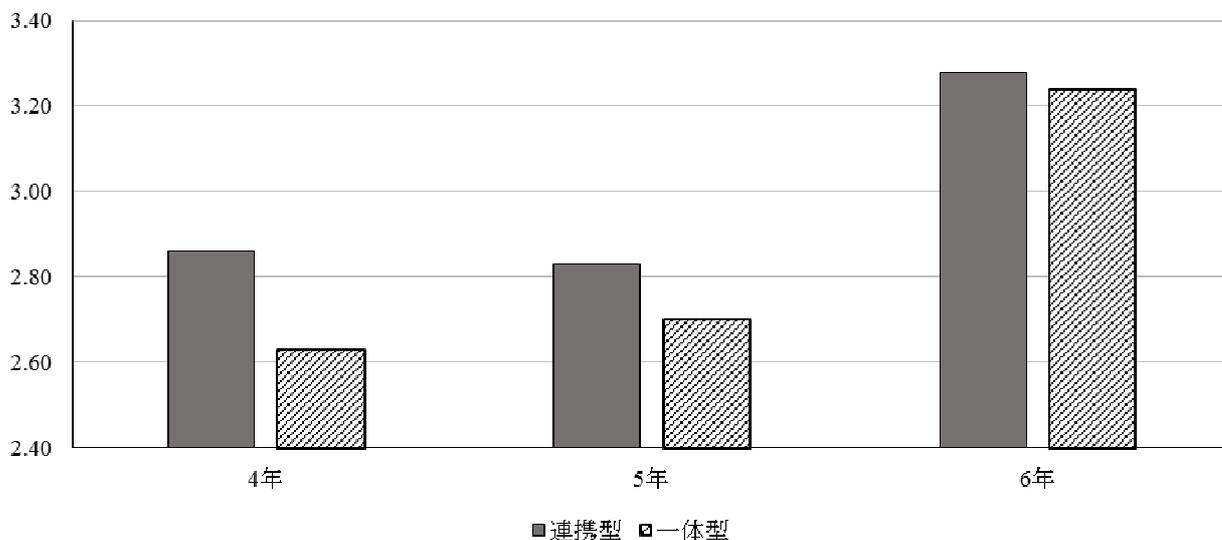


制度		合計	学年			F値 学年	交互作用
			4年	5年	6年		
連携型	合計	3.22 (1.44)	3.15 (1.47)	3.09 (1.42)	3.51 (1.39)	3.56(1, 2039)†	11.14(2, 2039)***
	4年	3.10 (1.40)	3.02 (1.41)	3.00 (1.36)	3.35 (1.42)		
一体型	合計	3.18 (1.43)	3.11 (1.45)	3.07 (1.40)	3.46 (1.40)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・ 6年生の方が、4、5年生よりも中学校でちゃんとやっていけるか不安に思っている。

(3) 「中学校での生活について心配に思っていることがたくさんある」(小学生のみ)

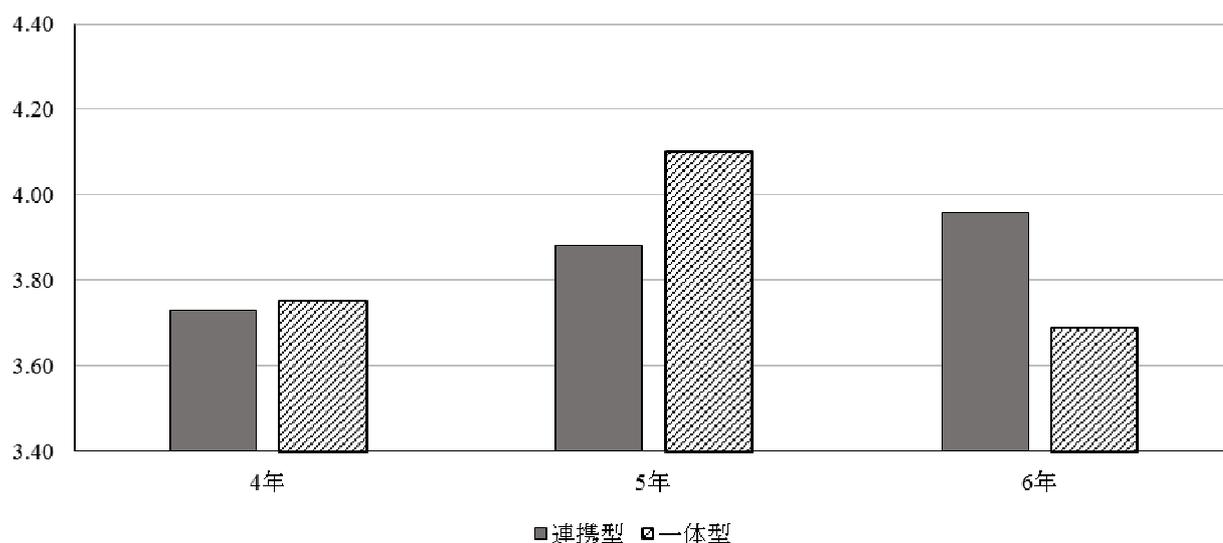


		合計	4年	5年	6年	学園	F値 学年	交互作用
制度	連携型	2.95 (1.40)	2.86 (1.43)	2.83 (1.36)	3.28 (1.38)	3.82(1, 2030)† 4年 < 5年 < 6年	22.46(2, 2030)***	0.62(2, 2030)
	一体型	2.82 (1.40)	2.63 (1.38)	2.70 (1.35)	3.24 (1.41)			
合計		2.91 (1.40)	2.79 (1.42)	2.79 (1.36)	3.27 (1.39)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・6年生の方が、4、5年生よりも、中学校での生活で不安に思っていることがたくさんある。

(4) 「中学校での生活がいまからのしみだ」(小学生のみ)



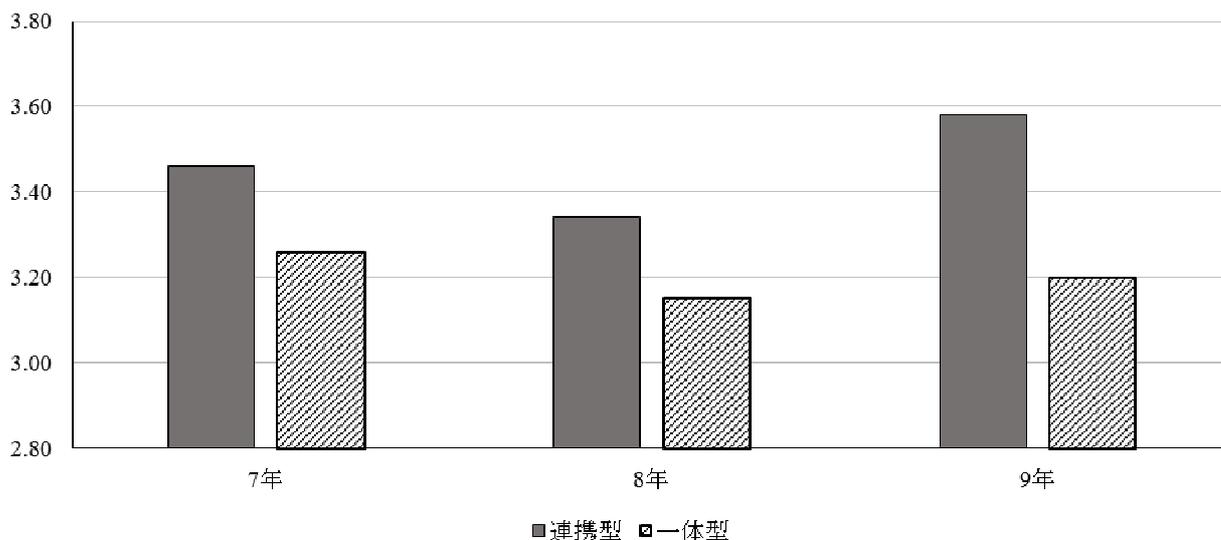
		合計	4年	5年	6年	学園	F値 学年	交互作用
制度	連携型	3.84 (1.32)	3.73 (1.40)	3.88 (1.28)	3.96 (1.24)	0.02(1, 2026) 5年 連携型 < 一体型 6年 一体型 < 連携型	6.19(2, 2026)**	4.83(2, 2026)**
	一体型	3.87 (1.30)	3.75 (1.38)	4.10 (1.11)	3.69 (1.41)			
合計		3.85 (1.31)	3.73 (1.39)	3.95 (1.23)	3.87 (1.30)	連携型 : 4年 < 6年 一体型 : 4年 < 6年		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・5年生で一体型校の方が連携型校よりも、中学校での生活が今から楽しみだと答えているが、6年生では連携型校の方が高くなる。
- ・連携型校では、6年生が4年生より、中学校での生活を楽しみにしているが、一体型校では5年生の方が楽しみにしている。

【中学校生活への期待・不安と現実のズレ】 ※中学生のみ

(1) 「中学校に入ったら、やってみたいと思って期待していることができる」

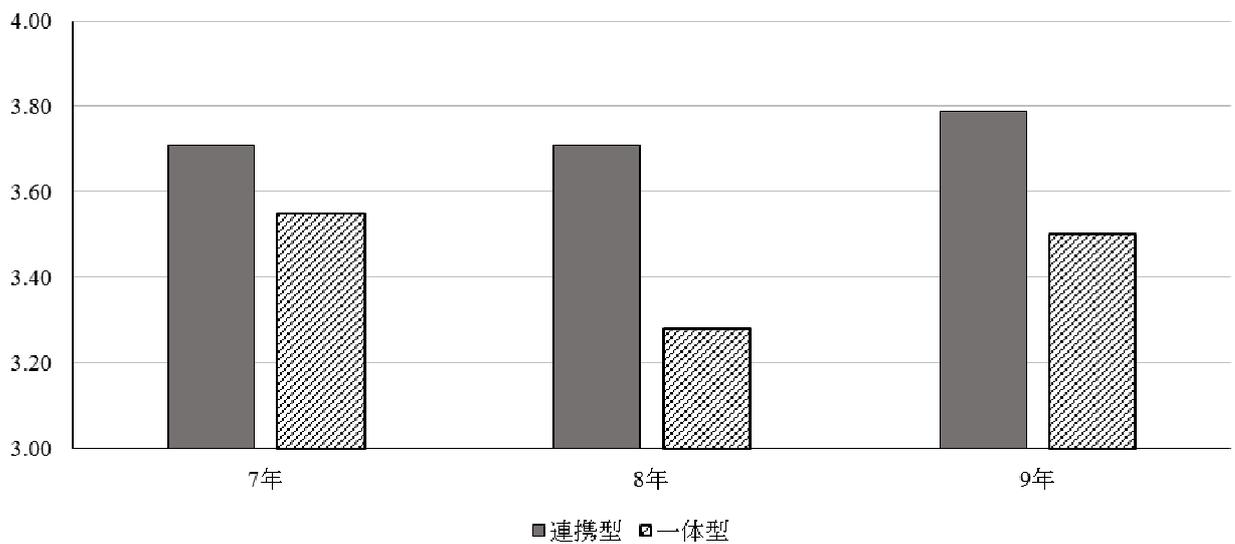


制度	合計	学年			学園	F値 学年	交互作用
		7年	8年	9年			
連携型	3.46 (1.19)	3.46 (1.25)	3.34 (1.17)	3.58 (1.14)	14.02(1, 1664)*** 一体型<連携型	1.70(2, 1664)	0.75(2, 1664)
一体型	3.20 (1.16)	3.26 (1.15)	3.15 (1.17)	3.20 (1.16)			
合計	3.40 (1.19)	3.41 (1.23)	3.29 (1.17)	3.51 (1.15)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・連携校の子どもの方が一体校よりも、「中学に入ってからやりたいと思ったことができる」と感じている。

(2) 「中学校に入る前に不安に思っていたことは、今の中学校生活では起こっていない」

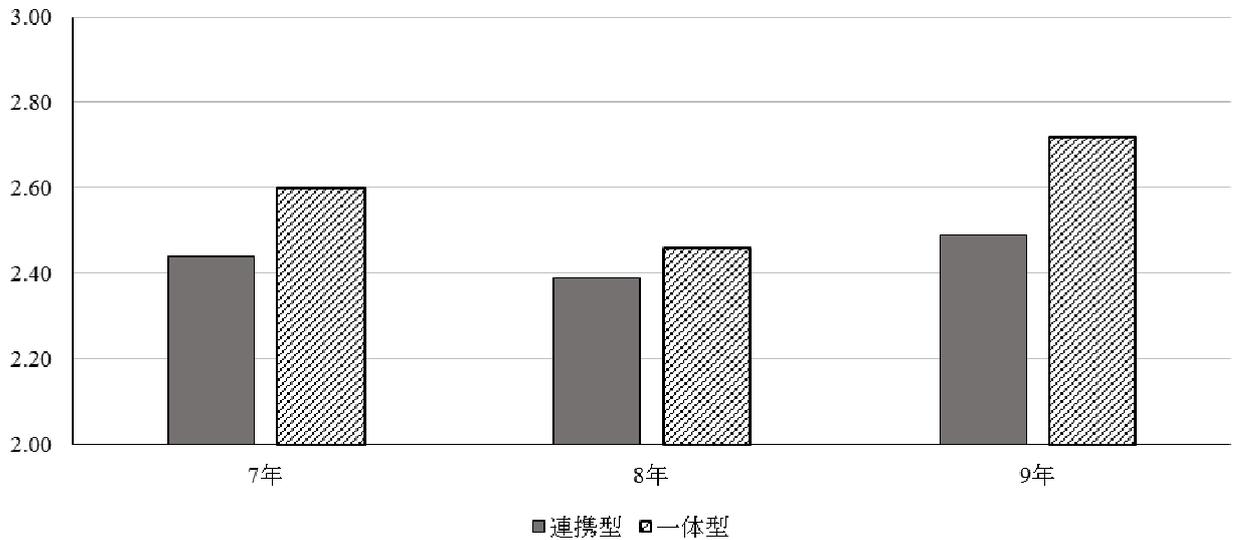


制度	合計	学年			学園	F値 学年	交互作用
		7年	8年	9年			
連携型	3.74 (1.21)	3.71 (1.27)	3.71 (1.14)	3.79 (1.21)	16.95(1, 1663)*** 一体型<連携型	1.66(2, 1663)	1.24(2, 1663)
一体型	3.44 (1.28)	3.55 (1.23)	3.28 (1.29)	3.50 (1.30)			
合計	3.67 (1.23)	3.67 (1.26)	3.61 (1.19)	3.73 (1.23)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・連携型校の方が一体型校よりも、「中学校に入る前に不安に思っていたことが起きていない」と感じている。

(3) 「中学校での生活について心配に思っていたことが、今の中学校生活で起こっている」

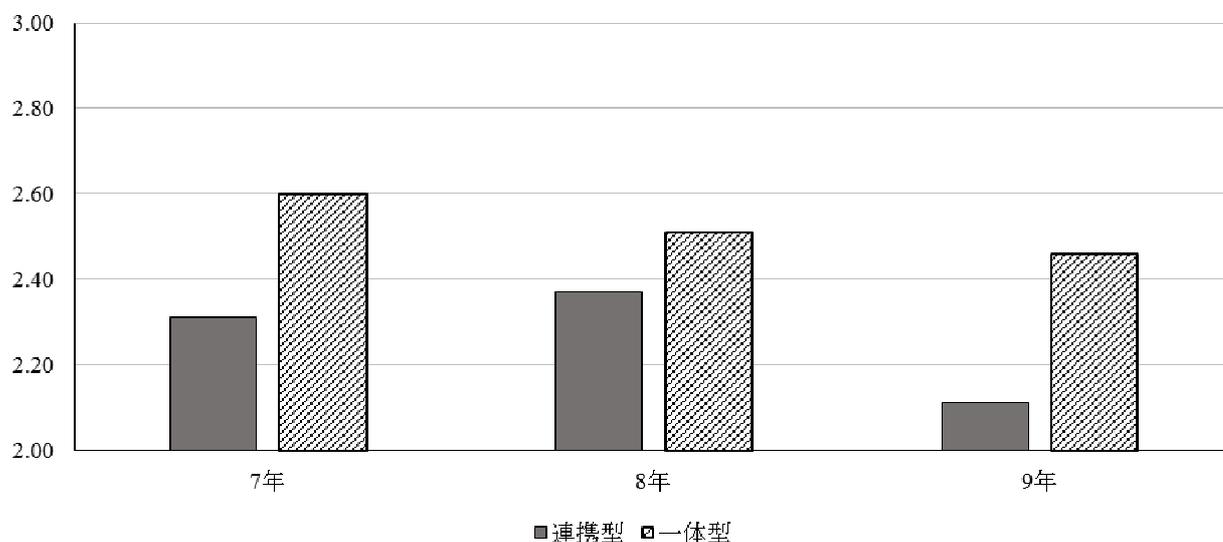


制度	合計	学年			学園	F値 学年	交互作用
		7年	8年	9年			
連携型	2.44 (1.29)	2.44 (1.30)	2.39 (1.25)	2.49 (1.31)	4.39(1, 1651)* 連携型<一体型	1.79(2, 1651)	0.37(2, 1651)
一体型	2.59 (1.25)	2.60 (1.28)	2.46 (1.17)	2.72 (1.29)			
合計	2.47 (1.28)	2.48 (1.29)	2.41 (1.23)	2.53 (1.31)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・一体型校の方が連携型校よりも、「中学校について心配していたことが現実に起こっている」と感じている。

(4) 「中学校に入る前に楽しみにしていたよりも、今の中学校生活は楽しくない」



	合計	学年			学園	F値 学年	交互作用
		7年	8年	9年			
制 度	連携型	2.27 (1.31)	2.31 (1.34)	2.37 (1.32)	2.11 (1.24)	11.18(1, 1657)**	1.85(2, 1657)
	一体型	2.53 (1.32)	2.60 (1.34)	2.51 (1.25)	2.46 (1.38)		
合計		2.33 (1.32)	2.38 (1.35)	2.41 (1.31)	2.18 (1.28)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・一体型校の方が連携型校よりも、「中学校生活は入る前に楽しみにしていたよりも楽しくない」と感じている。

2) 中学校生活への期待・不安とそのズレについて

一体型校では、5年生で高まった中学校生活への期待が6年生では低下している。他方、連携型校では一体型校に比べて6年生で中学校生活への期待が高まる。

また、連携型の方が、中学校に入って期待していることができている、不安に思っていたことは起きていないと考えている。一体型校は中学校に入って期待したことができず、心配していたことがおきており、入学前に楽しみにしていたよりも中学校生活は楽しくない、と答えている。

2 学園別分析

対象者一覧

		4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計
学園別	A学園	215	261	195	197	192	166	1226
	B学園	196	176	153	156	155	135	971
	C学園	48	55	53	45	37	66	304
	D学園	71	77	69	64	68	70	419
	E学園	236	258	178	155	138	110	1075
合計		766	827	648	617	590	547	3995

1 調査概要

児童・生徒の精神的健康度について、アンケート調査を行ったものを学園別に分析したものである。なお、B学園中が継続的に連携型であるのに対して、C学園とD学園は2018年度の一体型校、義務教育学校に統合への移行を直前に控えている。

分析方法について

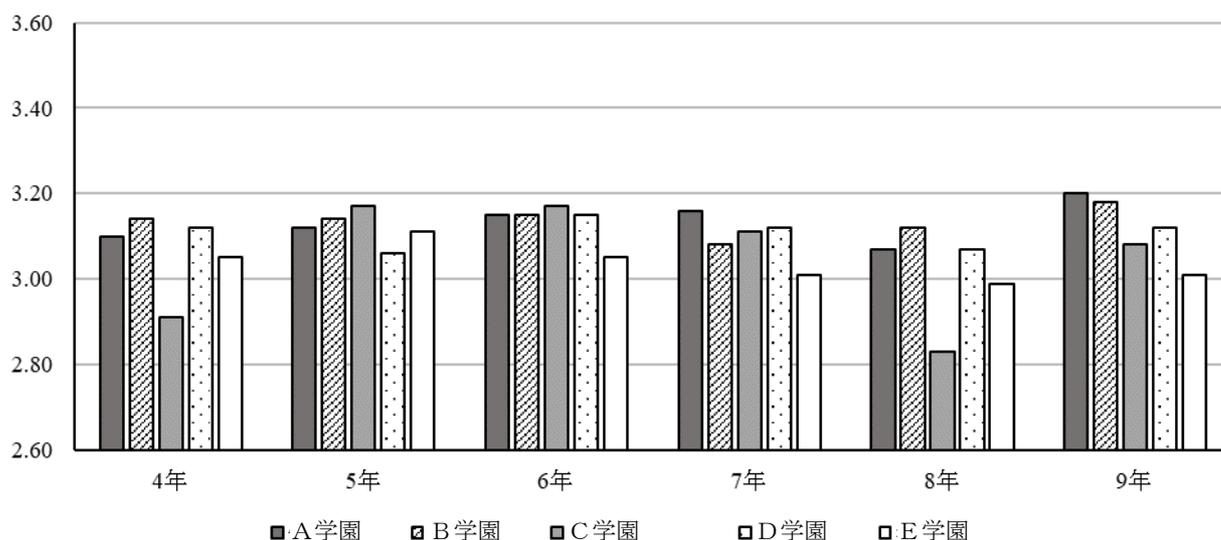
量的な変数(従属変数)に影響を与える要因(独立変数)が複数ある場合には、多要因分散分析が用いられる。本調査においては、学年(4～9年)と学園(5学園)が独立変数であると考えられるため、すべての従属変数に対して、2要因分散分析を行った。それにより、2つの要因の交互作用も明らかにすることができる。一方の要因を無視して、1要因分散分析を行った場合(例えば、「4年生について、学園ごとで比較を行う」)、“第1種の過誤”という統計的なエラーの生起率が全体として高まる。そのため、本データに対しては、2要因分散分析を行うことが妥当であると考えられる。

2 レジリエンス : 子どもの精神的健康度

1) 同様に、(1) 意欲的活動性、(2) 内面共有制、(3) 楽観性の3つの指標を用いている。

(1) 意欲的活動性：

「きめたら必ず実行する」「つらい経験からも、学ぶことがあると思う」「しっばいしてもあきらめずにもういちど挑戦する」「むずかしいことでも解決するために、いろいろな方法を考える」の4項目への回答の平均を求めたものである。



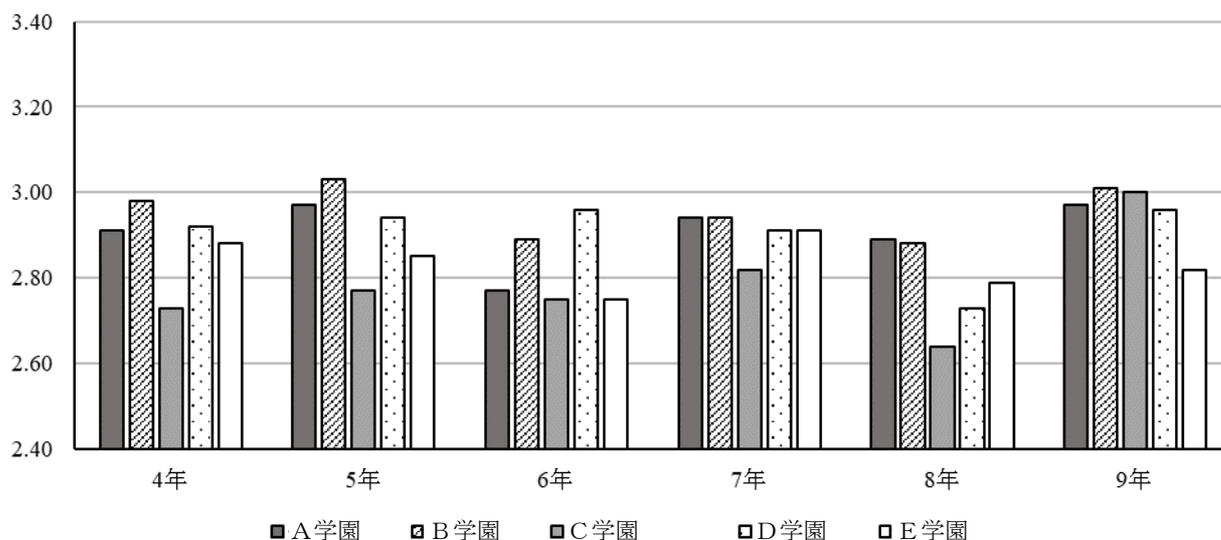
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
学園	A 学園	3.13 (0.52)	3.10 (0.52)	3.12 (0.51)	3.15 (0.54)	3.16 (0.52)	3.07 (0.52)	3.20 (0.54)	5.66(4, 3958)*** E 学園 > A 学園・B 学園 8年 < 6年	2.81(5, 3958)* 0.98(20, 3958)
	B 学園	3.13 (0.57)	3.14 (0.61)	3.14 (0.66)	3.15 (0.57)	3.08 (0.53)	3.12 (0.48)	3.18 (0.55)		
	C 学園	3.06 (0.63)	2.91 (0.69)	3.17 (0.67)	3.17 (0.58)	3.11 (0.55)	2.83 (0.69)	3.08 (0.55)		
	D 学園	3.11 (0.69)	3.12 (0.66)	3.06 (0.60)	3.15 (0.70)	3.12 (0.40)	3.06 (0.56)	3.12 (0.69)		
	E 学園	3.05 (0.56)	3.05 (0.56)	3.11 (0.54)	3.05 (0.62)	3.01 (0.49)	2.99 (0.49)	3.01 (0.62)		
合計	3.10 (0.56)	3.09 (0.59)	3.12 (0.57)	3.12 (0.59)	3.10 (0.51)	3.05 (0.52)	3.13 (0.59)			

*** $p < .001$ * $p < .05$

・「意欲的活動性」については、A 学園、B 学園がE 学園よりも高い傾向が見られる。

(2) 内面共有性：

「自分の考えを人に聞いてもらいたいと思う」「うれしくてたまらないときは自分の気持ちを人に話したいと思う」「つらいときやなやんでいるときは自分の気持ちを人に聞いてもらいたいと思う」「さみしいときや悲しいときは自分の気持ちを人に聞いてもらいたいと思う」の4項目への回答の平均を求めている。



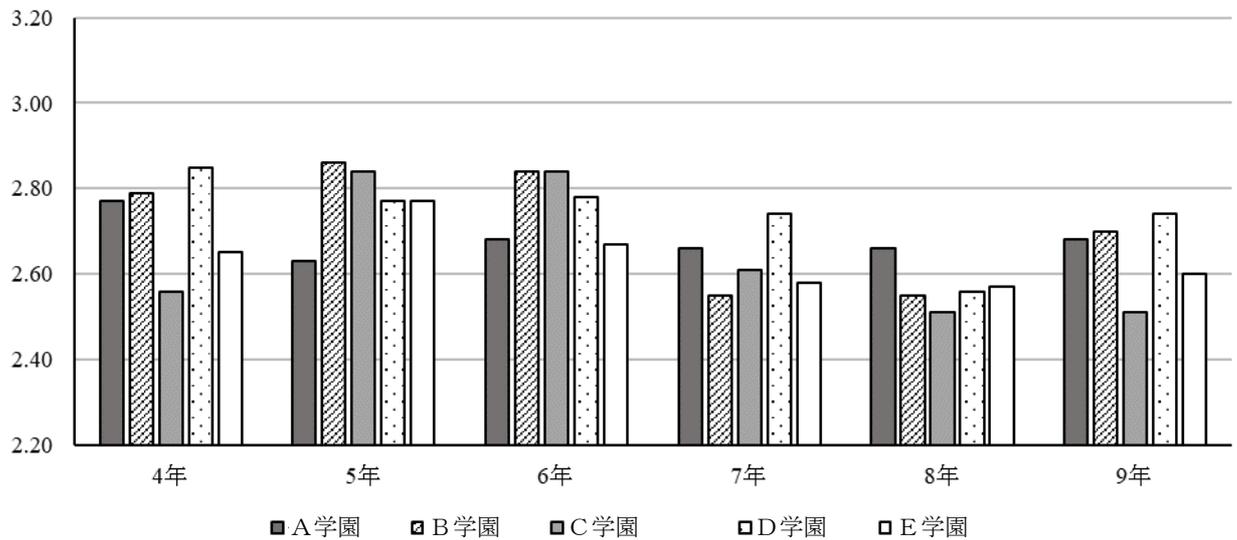
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
学園	A 学園	2.91 (0.74)	2.97 (0.68)	2.77 (0.79)	2.94 (0.74)	2.89 (0.76)	2.97 (0.71)	4.70(4, 3951)** C 学園 ・ E 学園 > B 学園 6 年 < 5 年 ・ 9 年	2.89(5, 3951)*	0.66(20, 3951)
	B 学園	2.96 (0.75)	3.03 (0.80)	2.89 (0.70)	2.94 (0.74)	2.88 (0.68)	3.01 (0.79)			
	C 学園	2.80 (0.81)	2.77 (0.87)	2.75 (0.72)	2.82 (0.79)	2.64 (0.87)	3.00 (0.70)			
	D 学園	2.90 (0.71)	2.94 (0.70)	2.96 (0.75)	2.91 (0.63)	2.73 (0.68)	2.96 (0.73)			
	E 学園	2.84 (0.77)	2.85 (0.81)	2.75 (0.77)	2.91 (0.68)	2.79 (0.76)	2.82 (0.82)			
合計	2.89 (0.76)	2.93 (0.76)	2.81 (0.75)	2.92 (0.72)	2.83 (0.74)	2.95 (0.75)				

** $p < .01$ * $p < .05$

・ B 学園が、E 学園と C 学園よりも「内面共有性」が高い傾向が見られる。

(3) 楽観性：

「こまったことがおきても、よい方向にもっていく」「こまったとき、考えるだけ考えたらもうなやまない」「なにごとともよい方に考える」の3項目への回答の平均を求めている。



	合計	学年						F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年		
A 学園	2.68 (0.72)	2.77 (0.72)	2.63 (0.70)	2.68 (0.77)	2.66 (0.74)	2.66 (0.67)	2.68 (0.71)	2.24(4, 3945)† 5.94(5, 3945)*** 5年：A 学園 < B 学園 B 学園：7年・8年 < 4年・5年・6年	1.62(20, 3945)*
B 学園	2.72 (0.73)	2.79 (0.74)	2.86 (0.80)	2.84 (0.72)	2.55 (0.65)	2.55 (0.65)	2.70 (0.77)		
C 学園	2.65 (0.73)	2.56 (0.78)	2.84 (0.70)	2.84 (0.63)	2.61 (0.79)	2.51 (0.67)	2.51 (0.67)		
D 学園	2.74 (0.71)	2.85 (0.76)	2.77 (0.67)	2.78 (0.82)	2.74 (0.57)	2.56 (0.65)	2.74 (0.76)		
E 学園	2.66 (0.73)	2.65 (0.74)	2.77 (0.73)	2.67 (0.77)	2.58 (0.63)	2.60 (0.80)	2.66 (0.73)		
合計	2.69 (0.73)	2.73 (0.74)	2.75 (0.73)	2.74 (0.76)	2.62 (0.68)	2.59 (0.67)	2.66 (0.75)		

*** $p < .001$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「楽観性」については、5年生で、B 学園がA 学園で高い傾向が見られる。

B 学園では、小学校の方が、7, 8年生よりも高い傾向が見られる。

2) 学園別レジリエンスの調査分析結果

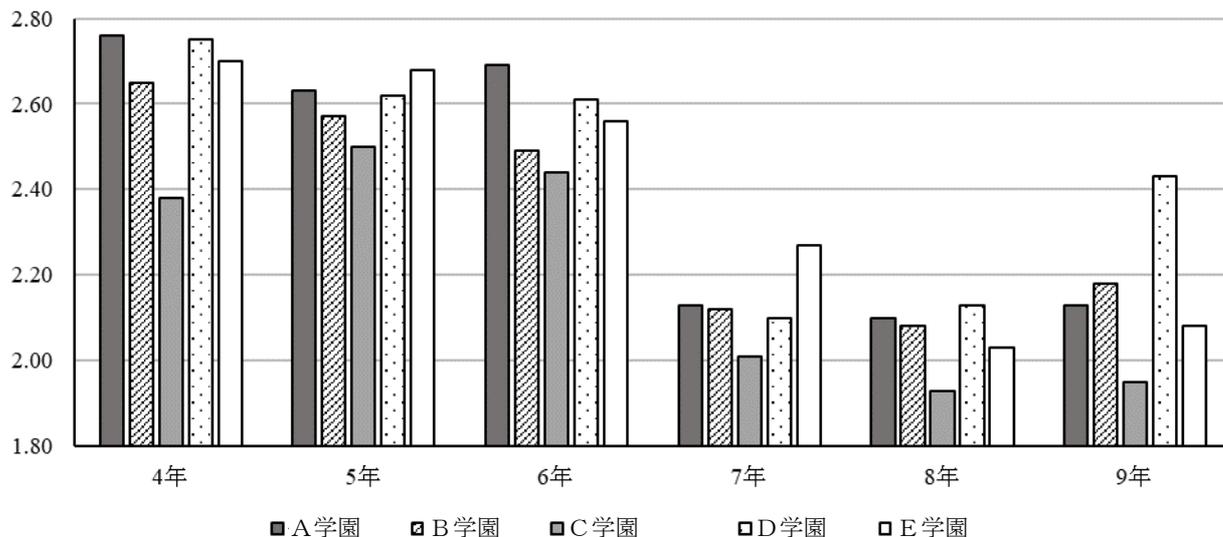
B 学園が3つの指標において全般的にレジリエンスが高い。ただし楽観性においては7、8年で低い傾向が見られる。A 学園は、意欲活動性は高いが、5年生において楽観性が低い。D 学園は全般的に中程度である。C 学園、E 学園は、内面的共有性が全般的に低い傾

向がある。

3 コンピテンス

(1) 勉強のコンピテンス：

「勉強は、クラスの中で、できる方ですか」「勉強は、苦手ですか※」「頭は、よい方だと思いますか」「成績は、悪い方だと思いますか※」の4項目への回答の平均をもとめている。



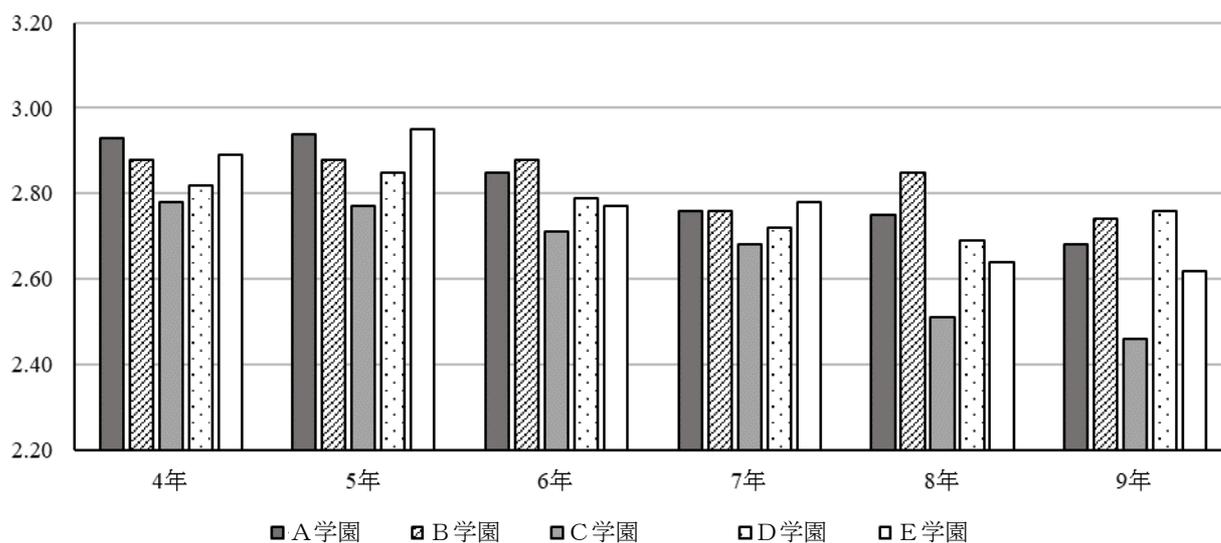
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
学園	A学園	2.43 (0.88)	2.76 (0.84)	2.63 (0.84)	2.69 (0.83)	2.13 (0.87)	2.10 (0.81)	2.13 (0.80)	4.43(4, 3940)** 50.47(5, 3940)*** 0.92(20, 3940) C学園 < A学園・B学園・D学園・E学園 7年・8年・9年 < 4年・5年・6年	
	B学園	2.37 (0.90)	2.65 (0.87)	2.57 (0.95)	2.49 (0.84)	2.12 (0.89)	2.08 (0.85)	2.18 (0.83)		
	C学園	2.21 (0.87)	2.38 (0.97)	2.50 (0.82)	2.44 (0.78)	2.01 (0.85)	1.93 (0.84)	1.95 (0.84)		
	D学園	2.45 (0.79)	2.75 (0.71)	2.62 (0.76)	2.61 (0.84)	2.10 (0.67)	2.13 (0.72)	2.43 (0.81)		
	E学園	2.46 (0.88)	2.70 (0.82)	2.68 (0.89)	2.56 (0.89)	2.27 (0.81)	2.03 (0.79)	2.08 (0.82)		
合計	2.41 (0.88)	2.69 (0.84)	2.63 (0.87)	2.58 (0.85)	2.15 (0.84)	2.07 (0.80)	2.15 (0.82)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「私は勉強ができる」という「勉強のコンピテンス」は、C学園が他より低い傾向が見られる。

(2) 友人関係のコンピテンス :

「友だちは、たくさんいますか」「クラスの中では、人気者だと思いますか」「友だちに、よくいじわるをされますか※」「新しい友だちをつくるのは、かんたんですか」の4項目への回答の平均を求めている。



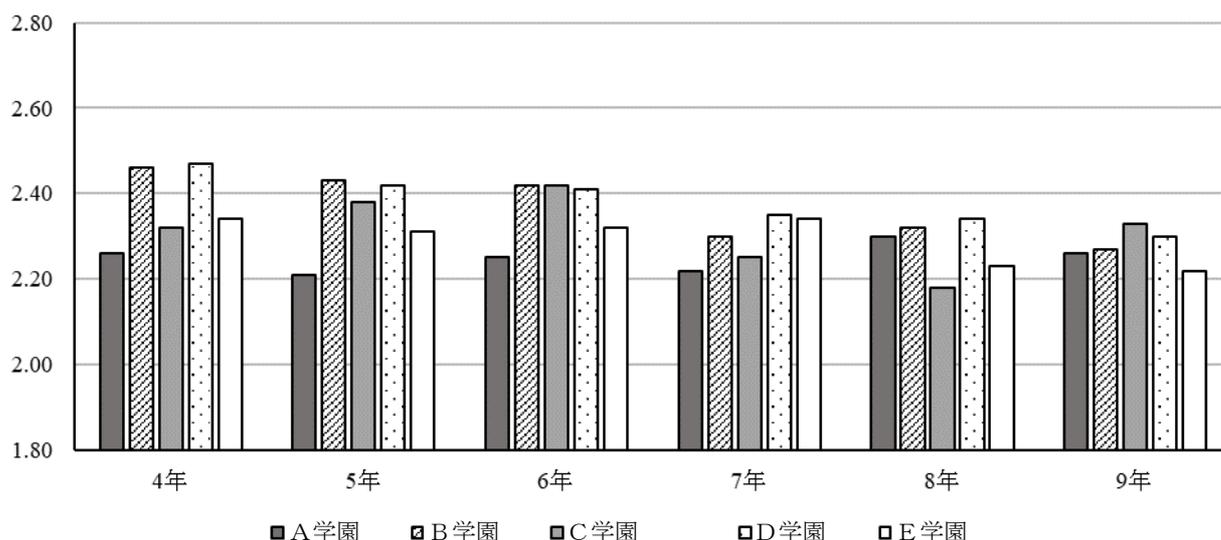
	合計	学年						F値	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年		
A 学園	2.83 (0.62)	2.93 (0.61)	2.94 (0.59)	2.85 (0.65)	2.76 (0.58)	2.75 (0.59)	2.68 (0.64)	5.77(4, 3939)*** 11.07(5, 3939)*** 0.94(20, 3939) C 学園 < A 学園・B 学園・E 学園 7年・8年・9年 < 4年・5年 9年 < 6年 < 5年	
B 学園	2.84 (0.63)	2.88 (0.62)	2.88 (0.65)	2.88 (0.63)	2.76 (0.67)	2.85 (0.59)	2.74 (0.62)		
C 学園	2.65 (0.63)	2.78 (0.61)	2.77 (0.59)	2.71 (0.63)	2.68 (0.59)	2.51 (0.66)	2.46 (0.65)		
D 学園	2.77 (0.58)	2.82 (0.60)	2.85 (0.49)	2.79 (0.60)	2.72 (0.55)	2.69 (0.57)	2.76 (0.65)		
E 学園	2.81 (0.63)	2.89 (0.61)	2.95 (0.62)	2.77 (0.65)	2.78 (0.64)	2.64 (0.54)	2.62 (0.62)		
合計	2.81 (0.62)	2.89 (0.61)	2.91 (0.61)	2.82 (0.64)	2.76 (0.62)	2.73 (0.59)	2.67 (0.64)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「友人関係のコンピテンス」は、A 学園、B 学園、E 学園よりも C 学園が低い傾向が見られる。

(3) 運動のコンピテンス :

「運動は得意な方ですか」「はじめてのスポーツでも、うまくできる自信がありますか」「運動の大会では、よく選手にえられますか」「運動は参加するよりも、みている方が好きですか※」の4項目への回答の平均を求めている。



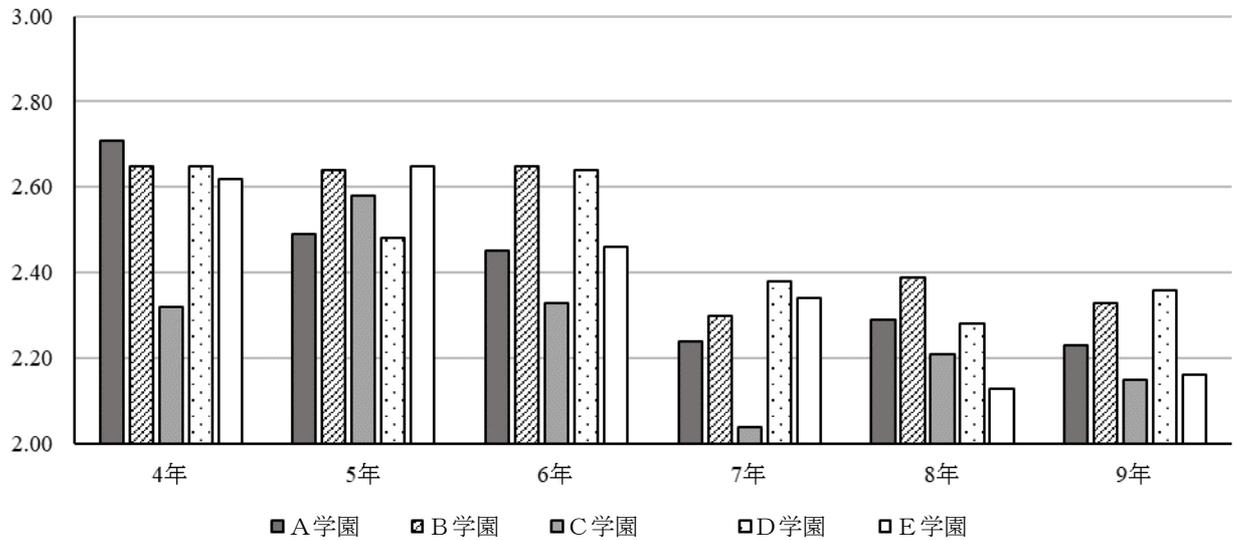
	合計	学年						F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年		
A学園	2.25 (0.62)	2.26 (0.58)	2.21 (0.67)	2.25 (0.59)	2.22 (0.58)	2.30 (0.63)	2.26 (0.67)	6.63(4, 3934)*** A学園 < B学園・D学園 ※単純主効果の検定の結果、学年間の有意差はみられ なかった	0.90(20, 3934)
B学園	2.38 (0.61)	2.46 (0.62)	2.43 (0.64)	2.42 (0.63)	2.30 (0.54)	2.32 (0.56)	2.27 (0.66)		
C学園	2.33 (0.62)	2.32 (0.67)	2.38 (0.65)	2.42 (0.65)	2.25 (0.61)	2.18 (0.58)	2.33 (0.56)		
D学園	2.38 (0.58)	2.47 (0.53)	2.42 (0.61)	2.41 (0.70)	2.35 (0.56)	2.34 (0.47)	2.30 (0.60)		
E学園	2.30 (0.63)	2.34 (0.61)	2.31 (0.59)	2.32 (0.69)	2.34 (0.64)	2.23 (0.60)	2.22 (0.65)		
合計	2.31 (0.62)	2.36 (0.60)	2.32 (0.64)	2.34 (0.65)	2.29 (0.59)	2.29 (0.58)	2.27 (0.64)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「私は運動ができる」という「運動のコンピテンス」は、B学園、D学園がA学園よりも高い傾向が見られる。

(4) 自信 :

「自分に自信がありますか」「たいていのことは、人よりもうまくできると思いますか」「何をやってもうまくいかないような気がしますか※」「自分には、人に自慢できるところがたくさんあると思いますか」の4項目への回答の平均を求めている。



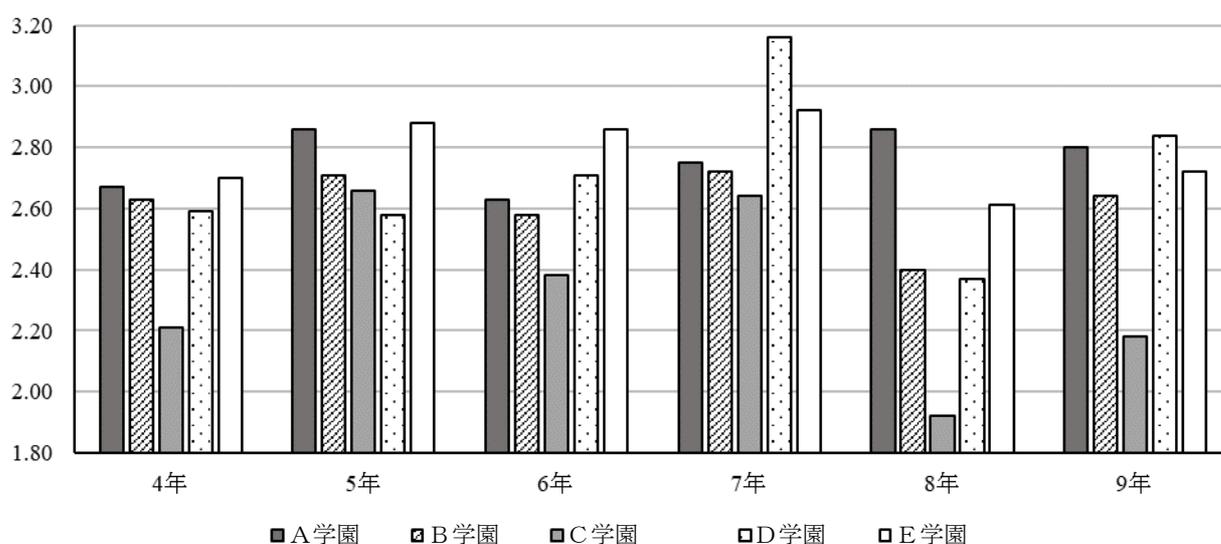
	合計	学年						F値	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年		
A学園	2.42 (0.75)	2.71 (0.74)	2.49 (0.70)	2.45 (0.75)	2.24 (0.68)	2.29 (0.77)	2.23 (0.73)	6.21(4, 3936)*** 24.88(5, 3936)*** 1.65(20, 3936)* 4年：C学園 < A学園 8年：E学園 < B学園 A学園：5年・6年・7年・8年・9年<4年 7年・9年<5年 B学園：7年・8年・9年<4年・5年・6年 C学園：7年・9年<5年 E学園：7年・8年・9年<4年・5年 8年・9年<6年	
B学園	2.51 (0.77)	2.65 (0.75)	2.64 (0.75)	2.65 (0.70)	2.30 (0.79)	2.39 (0.76)	2.33 (0.77)		
C学園	2.28 (0.78)	2.32 (0.86)	2.58 (0.76)	2.33 (0.73)	2.04 (0.76)	2.21 (0.72)	2.15 (0.76)		
D学園	2.47 (0.70)	2.65 (0.57)	2.48 (0.67)	2.64 (0.76)	2.38 (0.62)	2.28 (0.68)	2.36 (0.84)		
E学園	2.45 (0.76)	2.62 (0.75)	2.65 (0.77)	2.46 (0.80)	2.34 (0.73)	2.13 (0.61)	2.16 (0.70)		
合計	2.44 (0.76)	2.64 (0.74)	2.58 (0.74)	2.51 (0.76)	2.28 (0.76)	2.28 (0.72)	2.25 (0.75)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「自信」のコンピテンスは、4年でA学園がC学園よりも高く、8年でB学園がE学園よりも高い傾向が見られる。

(5) 英語のコンピテンス：

「外国語(英語)活動・科の授業の内容が理解できていますか」「英語は得意な方だと思いますか」の2項目への回答の平均を求めている。



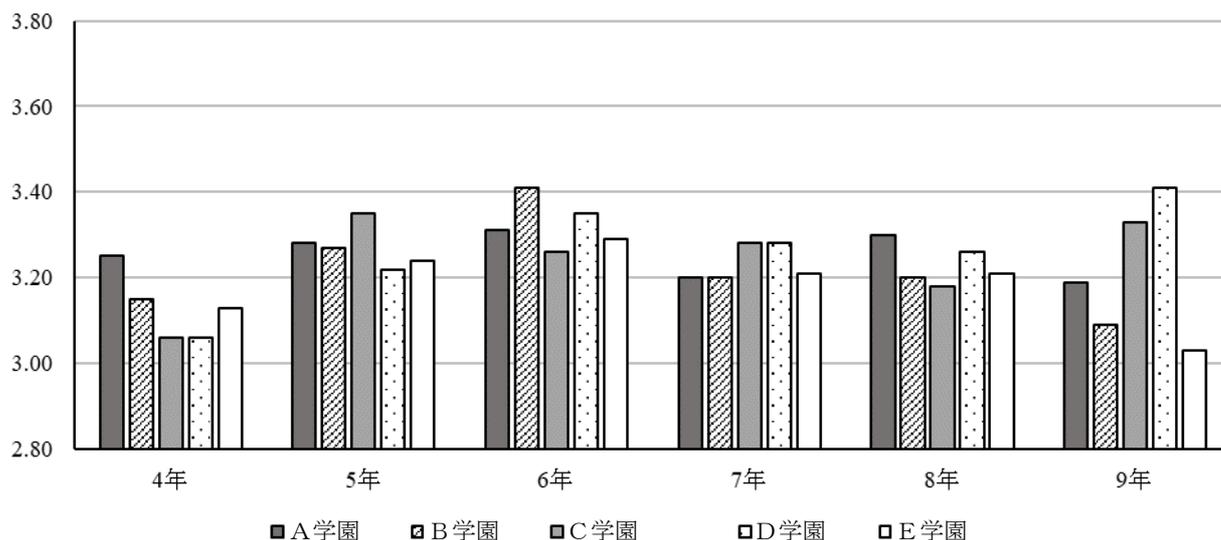
	合計	学年						F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年		
A学園	2.76 (0.97)	2.67 (1.03)	2.86 (0.93)	2.63 (1.00)	2.75 (0.95)	2.86 (0.97)	2.80 (0.92)	14.68(4,3915)*** 9.12(5, 3915)*** 2.38(20,3915)** 4年: C学園 < A学園・E学園 6年: C学園 < E学園 7年: A学園・B学園 < D学園 8年: B学園・C学園・D学園 < A学園 C学園 < E学園 9年: C学園 < A学園・B学園・D学園・E学園 C学園: 8年 < 5年・7年 D学園: 4年・5年・8年 < 7年	
B学園	2.62 (0.98)	2.63 (1.00)	2.71 (0.98)	2.58 (0.93)	2.72 (0.97)	2.40 (0.99)	2.64 (1.00)		
C学園	2.34 (1.05)	2.21 (1.01)	2.66 (1.00)	2.38 (1.04)	2.64 (1.01)	1.92 (1.00)	2.18 (1.07)		
D学園	2.70 (0.96)	2.59 (0.99)	2.58 (0.89)	2.71 (0.89)	3.16 (0.80)	2.37 (0.94)	2.84 (1.07)		
E学園	2.79 (1.00)	2.70 (1.07)	2.88 (0.98)	2.86 (0.97)	2.92 (0.95)	2.61 (0.95)	2.72 (1.04)		
合計	2.70 (0.99)	2.63 (1.03)	2.79 (0.96)	2.67 (0.98)	2.82 (0.95)	2.56 (1.00)	2.67 (1.02)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「英語のコンピテンス」は、4、6、8、9年生でC学園が低い傾向が見られる。

(6) PCのコンピテンス：

「インターネットを使って、知りたいことを調べられますか」「パソコンをうまく使える自信がありますか」の2項目への回答の平均を求めている。



	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
A学園	3.26 (0.76)	3.25 (0.86)	3.28 (0.78)	3.31 (0.76)	3.20 (0.72)	3.30 (0.71)	3.19 (0.69)	1.38(4, 3929) 4年 9年<6年	3.57(5, 3929)**	1.10(20, 3929)
B学園	3.22 (0.77)	3.15 (0.85)	3.27 (0.84)	3.41 (0.68)	3.20 (0.72)	3.19 (0.68)	3.09 (0.76)			
C学園	3.25 (0.74)	3.06 (0.98)	3.35 (0.72)	3.26 (0.74)	3.28 (0.64)	3.18 (0.80)	3.33 (0.60)			
D学園	3.26 (0.71)	3.06 (0.84)	3.22 (0.76)	3.35 (0.77)	3.28 (0.55)	3.26 (0.60)	3.41 (0.67)			
E学園	3.19 (0.82)	3.13 (0.91)	3.24 (0.82)	3.29 (0.86)	3.21 (0.71)	3.21 (0.71)	3.03 (0.81)			
合計	3.23 (0.77)	3.16 (0.88)	3.26 (0.80)	3.33 (0.77)	3.22 (0.69)	3.24 (0.70)	3.18 (0.73)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「パソコンのコンピテンス」については学園ごとの有意差は見られない。6年生が、4年生や9年生よりも高い傾向が見られる。

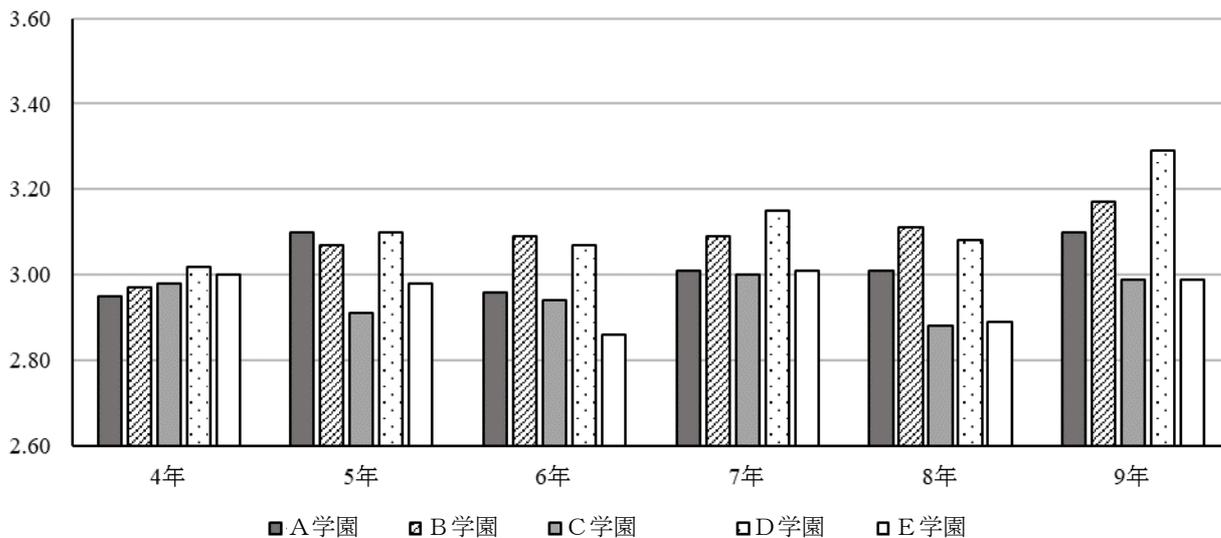
2) コンピテンスの分析結果

C学園が全般的に低い傾向が見られる。他方、B学園は、勉強、友人関係、運動が全般的に高い。A学園は勉強と友人関係は高いが、運動は全般的に低く、D学園は勉強と運動が全般的に高いが、英語は7学年以外中程度と相違が見られる。E学園は、友人関係と英語が全般的に高いが、自信は学年が上がるにつれて低下し、特に8年生で低くなっている。

4 ソーシャル・サポート

(1) 友人からのソーシャル・サポート：

「あなたに元気がないと、すぐにきづいてはげましてくれる」「あなたがなやみや不満をいってもいやな顔をしないで聞いてくれる」「あなたが何か失敗しても、そっと助けてくれる」「ふだんからあなたの気持ちをよくわかってくれる」「あなたが何か悩んでいるときにどうしたらよいか教えてくれる」の5項目への回答の平均を求めている。



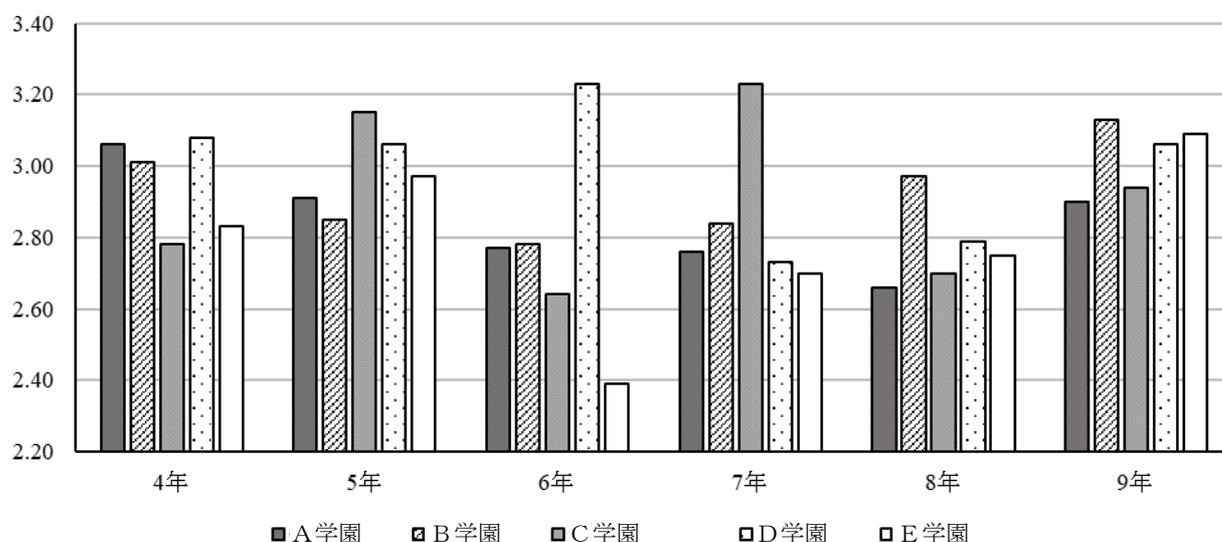
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
A学園	3.02 (0.72)	2.95 (0.79)	3.10 (0.64)	2.96 (0.84)	3.01 (0.68)	3.01 (0.67)	3.10 (0.68)	6.03(4, 3908)*** E 学園 < B 学園・D 学園 C 学園 < D 学園	2.08(5, 3908)†	0.70(20, 3908)
B学園	3.08 (0.75)	2.97 (0.77)	3.07 (0.84)	3.09 (0.70)	3.09 (0.74)	3.11 (0.67)	3.17 (0.75)			
C学園	2.95 (0.78)	2.98 (0.88)	2.91 (0.89)	2.94 (0.80)	3.00 (0.68)	2.88 (0.71)	2.99 (0.73)			
D学園	3.12 (0.68)	3.02 (0.76)	3.10 (0.62)	3.07 (0.70)	3.15 (0.62)	3.08 (0.61)	3.29 (0.77)			
E学園	2.96 (0.78)	3.00 (0.89)	2.98 (0.82)	2.86 (0.80)	3.01 (0.57)	2.89 (0.71)	2.99 (0.74)			
合計	3.02 (0.75)	2.98 (0.82)	3.04 (0.76)	2.98 (0.78)	3.04 (0.67)	3.01 (0.68)	3.11 (0.73)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「友人からのソーシャルサポート」は、B学園、D学園がE学園よりも高く、D学園がC学園よりも高い傾向が見られる。

(2) 教師からのソーシャルサポート：

「あなたに元気がないと、すぐにきづいてはげましてくれる」「あなたがなやみや不満をいってもいやな顔をしないで聞いてくれる」「あなたが何か失敗しても、そっと助けてくれる」「ふだんからあなたの気持ちをよくわかってくれる」「あなたが何かなやんでいるときにどうしたらよいか教えてくれる」の5項目への回答の平均を求めている。



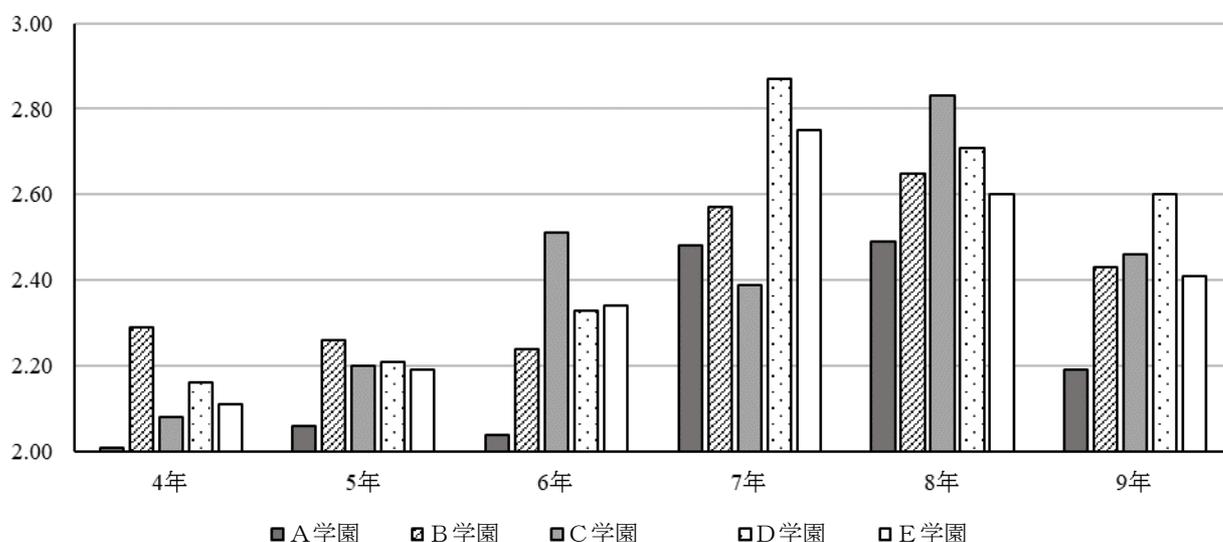
学園	合計	学年						F値	学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
A学園	2.85 (0.81)	3.06 (0.79)	2.91 (0.75)	2.77 (0.85)	2.76 (0.84)	2.66 (0.84)	2.90 (0.75)	6.79(4, 3935)*** 9.19(5, 3935)*** 4.52(20,3935)*** 4年：E学園<A学園 6年：E学園<A学園・B学園<D学園 C学園<D学園 7年：A学園・B学園・D学園・E学園<C学園 8年：A学園<B学園 A学園：6年・7年・8年<4年 8年<5年 B学園：5年・6年・7年<9年 C学園：6年<5年・7年 8年<7年 D学園：7年・8年<6年 E学園：6年<4年・5年・7年・8年・9年 7年<5年・9年, 8年<9年		
B学園	2.93 (0.83)	3.01 (0.74)	2.85 (0.97)	2.78 (0.87)	2.84 (0.84)	2.97 (0.71)	3.13 (0.77)			
C学園	2.91 (0.81)	2.78 (0.88)	3.15 (0.72)	2.64 (0.86)	3.23 (0.69)	2.70 (0.79)	2.94 (0.78)			
D学園	3.00 (0.79)	3.08 (0.89)	3.06 (0.65)	3.23 (0.69)	2.73 (0.78)	2.79 (0.85)	3.06 (0.79)			
E学園	2.79 (0.83)	2.83 (0.88)	2.97 (0.81)	2.39 (0.88)	2.70 (0.66)	2.75 (0.70)	3.09 (0.79)			
合計	2.87 (0.82)	2.96 (0.83)	2.95 (0.81)	2.71 (0.88)	2.79 (0.79)	2.78 (0.78)	3.02 (0.78)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「教師からのソーシャルサポート」は4、6、7年生でE学園が低く竹園、D学園で高い傾向がみられる。7年生ではC学園が高く、8年生でB学園が竹園より高い傾向が見られる。

(3) 環境負荷：

「いまの学校は時間におわれていそがしい」「いまの学校の授業はむずかしい」「いまの学校では多くのことがもとめられている」「いまの学校には自由がない」「いまの学校はきまりがきびしい」の5項目への回答の平均を求めている。



	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
A学園	2.20 (0.64)	2.01 (0.62)	2.06 (0.58)	2.04 (0.62)	2.48 (0.61)	2.49 (0.59)	2.19 (0.65)	21.41(4, 3942)*** 53.07(5, 3942)*** 2.36(20, 3942)** 4年：A学園・E学園<B学園 5年：A学園<B学園 6年：A学園<B学園・C学園・D学園・E学園 7年：A学園・C学園<D学園・E学園 B学園<D学園 8年：A学園<C学園 9年：A学園<B学園・C学園・D学園 A学園：4年・5年・6年・9年<7年・8年 B学園：4年・5年・6年<7年・8年 C学園：4年・5年・7年<8年 4年<6年・9年 D学園：4年・5年・6年<7年・8年 4年・5年<9年 E学園：4年・5年・6年<7年・8年 4年<6年	53.07(5, 3942)***	2.36(20, 3942)**
B学園	2.40 (0.71)	2.29 (0.72)	2.26 (0.77)	2.24 (0.65)	2.57 (0.64)	2.65 (0.67)	2.43 (0.65)			
C学園	2.39 (0.71)	2.08 (0.70)	2.20 (0.75)	2.51 (0.64)	2.39 (0.55)	2.83 (0.67)	2.46 (0.70)			
D学園	2.47 (0.69)	2.16 (0.67)	2.21 (0.69)	2.33 (0.69)	2.87 (0.64)	2.71 (0.52)	2.60 (0.65)			
E学園	2.35 (0.68)	2.11 (0.67)	2.19 (0.61)	2.34 (0.66)	2.75 (0.64)	2.60 (0.63)	2.41 (0.68)			
合計	2.33 (0.69)	2.13 (0.68)	2.17 (0.66)	2.24 (0.66)	2.60 (0.64)	2.61 (0.62)	2.38 (0.68)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「環境負荷」に関しては、全般的にA学園が低い傾向が見られる。

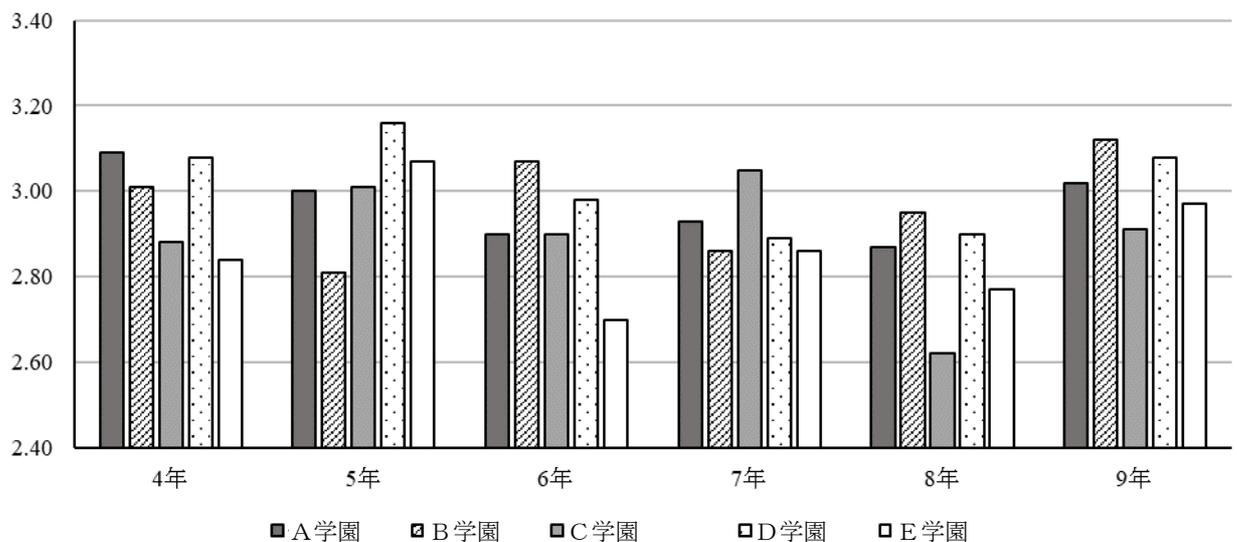
2) 学園別の環境負荷の分析について

全般的に、小学校から中学校に向けて環境負荷は高まる。A学園は、全般的に環境負荷が低い傾向が見られる。B学園は、4、5年では高いが6年以降は中程度になる。他の学園は、C学園では4～7年では低いが、8、9年で高めになる。D学園は小学校では中程度だが、7、9年生で高まる。E学園も4年は低いが学年が上がるにつれて高まっていく。特に、4年生より6年生で環境負荷が高まる。

5 学級適応感

(1) 学級適応：

「クラスの中にいると、ほっとしたり、明るいきぶんになる」「クラスで行事に参加したり、活動するのはたのしい」「自分もクラスの活動にやくだっていると思う」「自分のクラスはなかのよいクラスだと思う」の4項目への回答の平均を求めている。



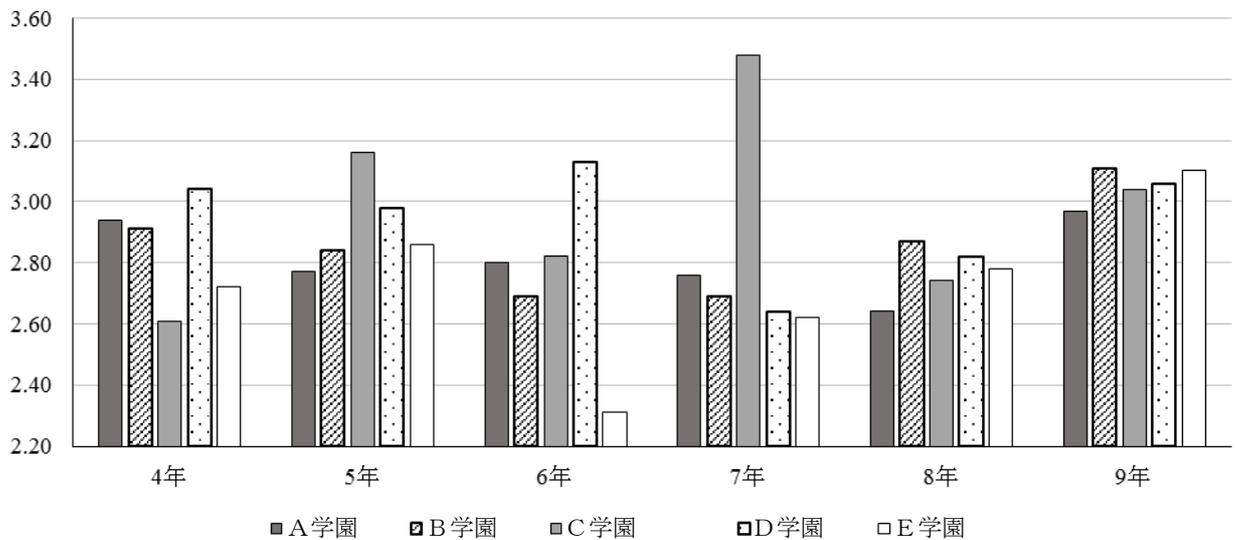
学園	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
A学園	2.97 (0.67)	3.09 (0.70)	3.00 (0.61)	2.90 (0.71)	2.93 (0.70)	2.87 (0.65)	3.02 (0.65)	4年：E学園 < A学園 5年：B学園 < D学園・E学園 6年：E学園 < B学園 A学園：4年 < 8年 B学園：5年 < 6年・9年 7年 < 9年 E学園：4年・6年・8年 < 5年 6年 < 9年	2.93(20, 3939)***	
B学園	2.97 (0.73)	3.01 (0.72)	2.81 (0.84)	3.07 (0.64)	2.86 (0.78)	2.95 (0.68)	3.12 (0.66)			
C学園	2.91 (0.74)	2.88 (0.78)	3.01 (0.69)	2.90 (0.75)	3.05 (0.66)	2.62 (0.85)	2.91 (0.73)			
D学園	3.02 (0.69)	3.08 (0.73)	3.16 (0.63)	2.98 (0.71)	2.89 (0.61)	2.90 (0.69)	3.08 (0.73)			
E学園	2.88 (0.74)	2.84 (0.78)	3.07 (0.66)	2.70 (0.82)	2.86 (0.66)	2.77 (0.65)	2.97 (0.77)			
合計	2.94 (0.71)	2.98 (0.74)	2.9 (0.69)	2.89 (0.74)	2.90 (0.70)	2.85 (0.68)	3.03 (0.70)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「学級適応感」については、4、6年生でE学園が低く、5年生ではD学園、E学園の方がB学園よりも高い傾向が見られる。

(2) 対教師関係：

「先生にしたしみをかんじる」「学校にはきがるによくなしをする先生がいる」「自分をみとめてくれる先生がいる」「たんじんの先生とはうまくいっていると思う」の4項目への回答の平均を求めている。



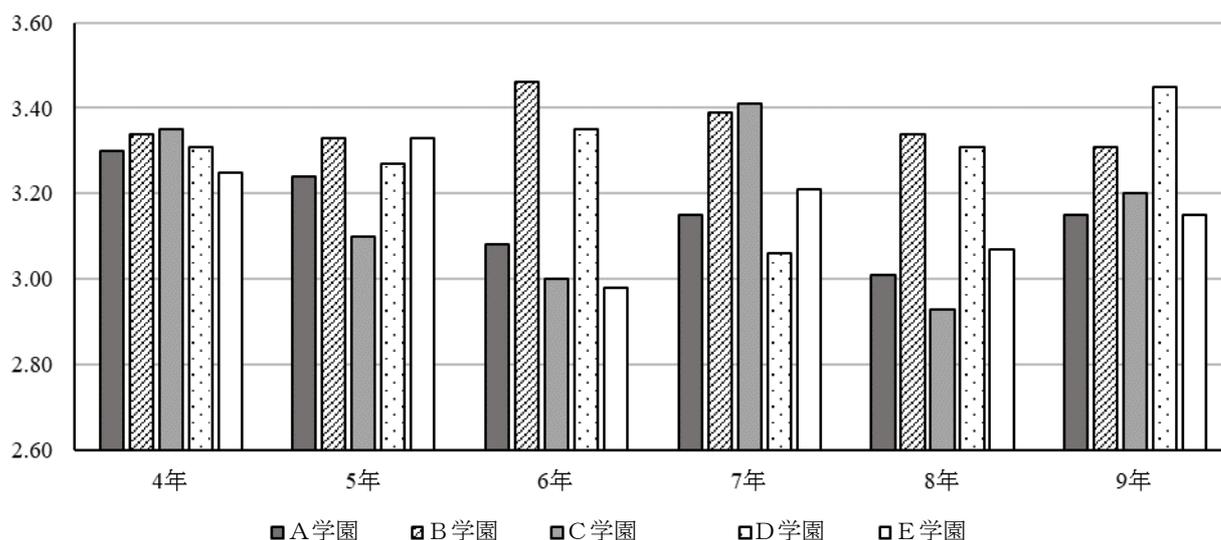
	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
A学園	2.81 (0.76)	2.94 (0.75)	2.77 (0.71)	2.80 (0.80)	2.76 (0.83)	2.64 (0.79)	2.97 (0.67)	8.21(4, 3936)*** 11.42(5, 3936)*** 6.48(20, 3936)*** 4年：E学園 < A学園・D学園 C学園 < D学園 5年：A学園 < C学園 6年：E学園 < A学園・B学園・C学園・D学園 A学園・B学園 < D学園 7年：A学園・B学園・D学園・E学園 < C学園 A学園：8年 < 4年・9年 B学園：5年・6年・7年 < 9年 C学園：4年・6年・8年・9年 < 7年 4年 < 5年・9年 D学園：7年 < 4年・6年・9年 E学園：6年 < 4年・5年・7年・8年 < 9年 7年 < 5年		
B学園	2.85 (0.80)	2.91 (0.72)	2.84 (0.94)	2.69 (0.79)	2.69 (0.84)	2.87 (0.72)	3.11 (0.72)			
C学園	2.99 (0.76)	2.61 (0.88)	3.16 (0.68)	2.82 (0.81)	3.48 (0.45)	2.74 (0.71)	3.04 (0.64)			
D学園	2.95 (0.74)	3.04 (0.80)	2.98 (0.63)	3.13 (0.69)	2.64 (0.67)	2.82 (0.79)	3.06 (0.77)			
E学園	2.73 (0.81)	2.72 (0.80)	2.86 (0.78)	2.31 (0.87)	2.62 (0.66)	2.78 (0.71)	3.19 (0.77)			
合計	2.82 (0.79)	2.85 (0.78)	2.86 (0.78)	2.67 (0.84)	2.75 (0.78)	2.76 (0.75)	3.07 (0.72)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・「対教師関係」については4、6年生でE学園が低い傾向が見られる。

(3) ルールへの意識：

「学校のルールはやぶってもいいと思う※」「学校のルールはひつようだと思う」「学校のルールには気をつけている」「学校のルールはちゃんと守っている」の4項目の平均を求めている。



学園	合計	学年						学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年	7年	8年	9年			
A 学園	3.16 (0.61)	3.30 (0.65)	3.24 (0.58)	3.08 (0.68)	3.15 (0.57)	3.01 (0.59)	3.15 (0.52)	19.06(4, 3931)***	4.70(5, 3931)***	3.68(20, 3931)***
B 学園	3.36 (0.61)	3.34 (0.65)	3.33 (0.71)	3.46 (0.49)	3.39 (0.57)	3.34 (0.58)	3.31 (0.59)	6年：A 学園・C 学園・E 学園<B 学園・D 学園 7年：A 学園<B 学園 D 学園<B 学園・C 学園		
C 学園	3.17 (0.63)	3.35 (0.63)	3.10 (0.58)	3.00 (0.64)	3.41 (0.62)	2.93 (0.69)	3.20 (0.56)	8年：A 学園・C 学園・E 学園<B 学園 A 学園・C 学園<D 学園		
D 学園	3.29 (0.61)	3.31 (0.62)	3.27 (0.68)	3.35 (0.58)	3.06 (0.66)	3.31 (0.56)	3.45 (0.52)	9年：A 学園・E 学園<D 学園 A 学園：6年・8年<4年, 8年<5年 C 学園：8年<4年・7年, 6年<7年		
E 学園	3.18 (0.68)	3.25 (0.72)	3.33 (0.66)	2.98 (0.79)	3.21 (0.56)	3.07 (0.63)	3.15 (0.58)	D 学園：7年<9年 E 学園：6年<4年・5年・7年, 8年<5年		
合計	3.23 (0.64)	3.30 (0.66)	3.28 (0.65)	3.16 (0.69)	3.23 (0.59)	3.14 (0.62)	3.23 (0.56)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・「ルールへの意識」については、6、7、8、9年生でA 学園が低く、6、8、9年生でE 学園が低く、6、8年生でC 学園が低い傾向が見られる。

2) 学級適応感

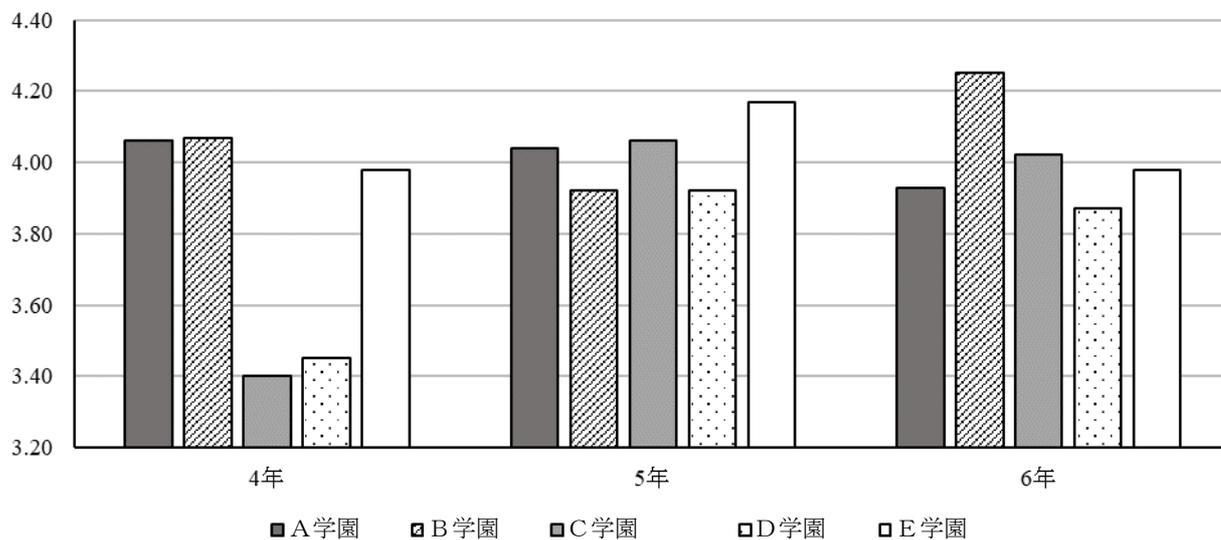
D 学園は全般的に適応感が高い。4、6年生の教師適応、5年の学級適応、6、9年生のルールへの意識が高くなっている。C 学園も5年、7年の対教師適応が顕著に高いが、6

年、8年のルールへの適応が低くなっている。B学園は、5年の学級適応が低いが6年は高く、ルールへの意識が6年以降高くなっている。

E学園は、5年の学級適応以外は全般的に中程度か低く、特に4年、6年の学級適応、教師への適応が顕著に低くなっている。6年はルールへの適応も低い。全体的にE学園の4年、6年にはネガティブな傾向が見られる。

6 中学校への期待。不安と現実のズレ

(1) 「中学校に入ったら、やってみたいと思って期待していることがある」(小学校のみ)

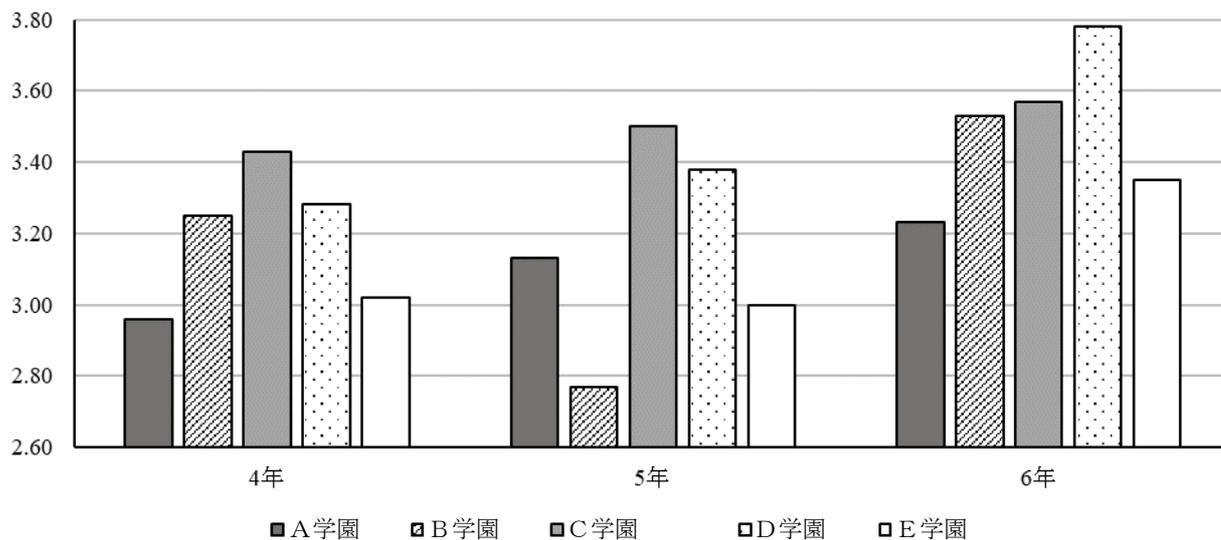


	合計	学年			学園	F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年			
A学園	4.03 (1.24)	4.06 (1.22)	4.04 (1.21)	3.93 (1.39)	3.46(4, 2038)** 4年 : C学園・D学園 < A学園・B学園・E学園 C学園 : 4年 < 5年	4.95(2,2038)**	2.42(8, 2038)*
B学園	4.08 (1.25)	4.07 (1.24)	3.92 (1.41)	4.25 (1.06)			
C学園	3.84 (1.37)	3.40 (1.60)	4.06 (1.17)	4.02 (1.27)			
D学園	3.76 (1.35)	3.45 (1.49)	3.92 (1.27)	3.87 (1.24)			
E学園	4.05 (1.28)	3.98 (1.32)	4.17 (1.17)	3.98 (1.37)			
合計	4.01 (1.28)	3.94 (1.32)	4.04 (1.24)	4.04 (1.27)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・4年でC学園、D学園が、「中学校に入ったら期待していることがある」が低くなっている。

(2) 「中学校でちゃんとやっていけるか不安に思っている」(小学校のみ)

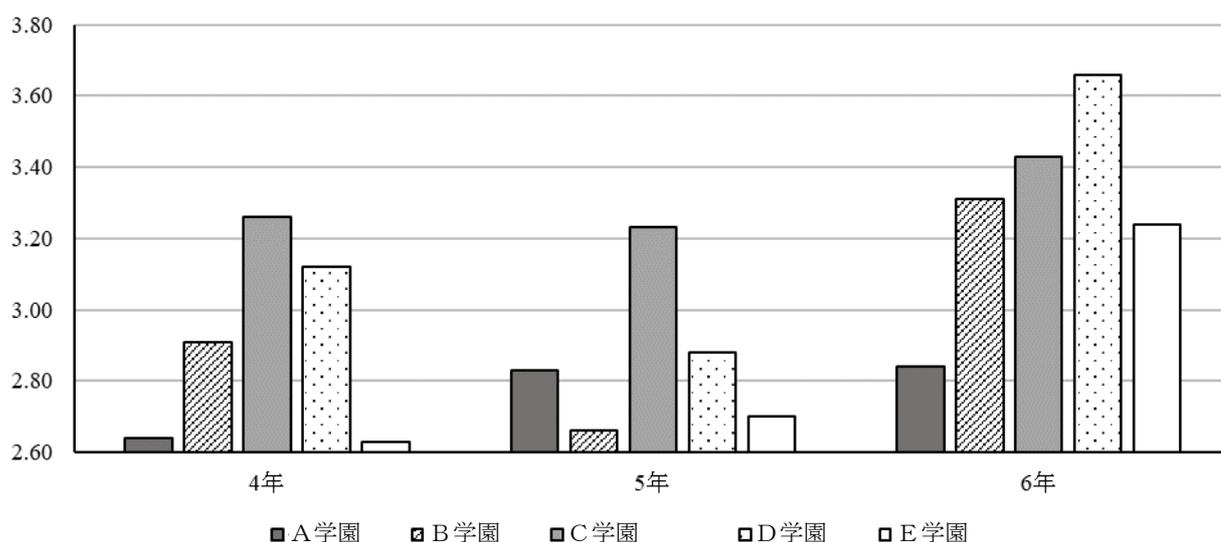


	合計	学年			F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年		
A学園	3.08 (1.43)	2.96 (1.48)	3.13 (1.36)	3.23 (1.50)	4.73(4, 2030)** 7.75(2, 2030)*** A学園・E学園 < C学園・D学園 4年・5年 < 6年	1.92(8, 2030)†
B学園	3.17 (1.49)	3.25 (1.46)	2.77 (1.50)	3.53 (1.41)		
C学園	3.51 (1.36)	3.43 (1.57)	3.51 (1.32)	3.57 (1.20)		
D学園	3.48 (1.35)	3.28 (1.39)	3.38 (1.37)	3.78 (1.28)		
E学園	3.10 (1.40)	3.02 (1.41)	3.00 (1.36)	3.35 (1.42)		
合計	3.18 (1.43)	3.11 (1.45)	3.07 (1.40)	3.46 (1.40)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・C学園、D学園が、「中学校に入ってから不安に思っていることがある」が高く、また6年生の方が、4、5年生よりも高くなっている。

(3) 「中学校での生活について心配に思っていることがたくさんある」(小学校のみ)



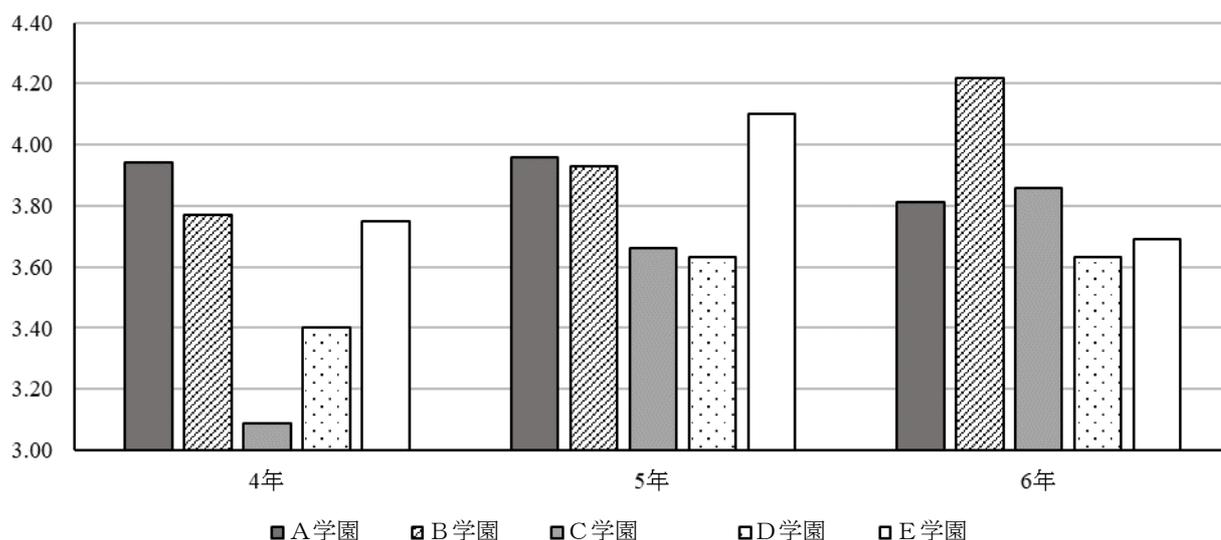
	合計	学年			F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年		
A学園	2.76 (1.37)	2.64 (1.36)	2.83 (1.33)	2.84 (1.49)	7.08(4, 2021)*** 13.60(2, 2021)*** 1.84(8, 2021)† A学園・E学園 < C学園・D学園 B学園 < C学園 4年・5年 < 6年	
B学園	2.94 (1.45)	2.91 (1.44)	2.66 (1.42)	3.31 (1.42)		
C学園	3.30 (1.32)	3.26 (1.52)	3.23 (1.28)	3.43 (1.17)		
D学園	3.21 (1.36)	3.12 (1.43)	2.88 (1.37)	3.66 (1.18)		
E学園	2.82 (1.40)	2.63 (1.38)	2.70 (1.35)	3.24 (1.41)		
合計	2.91 (1.40)	2.79 (1.42)	2.79 (1.36)	3.27 (1.39)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・C学園、D学園の方が、A学園、E学園よりも「中学校での生活について心配に思っていることがある」。

またC学園は、B学園よりもその傾向が高く、6年生の方が、4、5年生より高い。

(4) 「中学校での生活がいまからのしみだ」(小学校のみ)

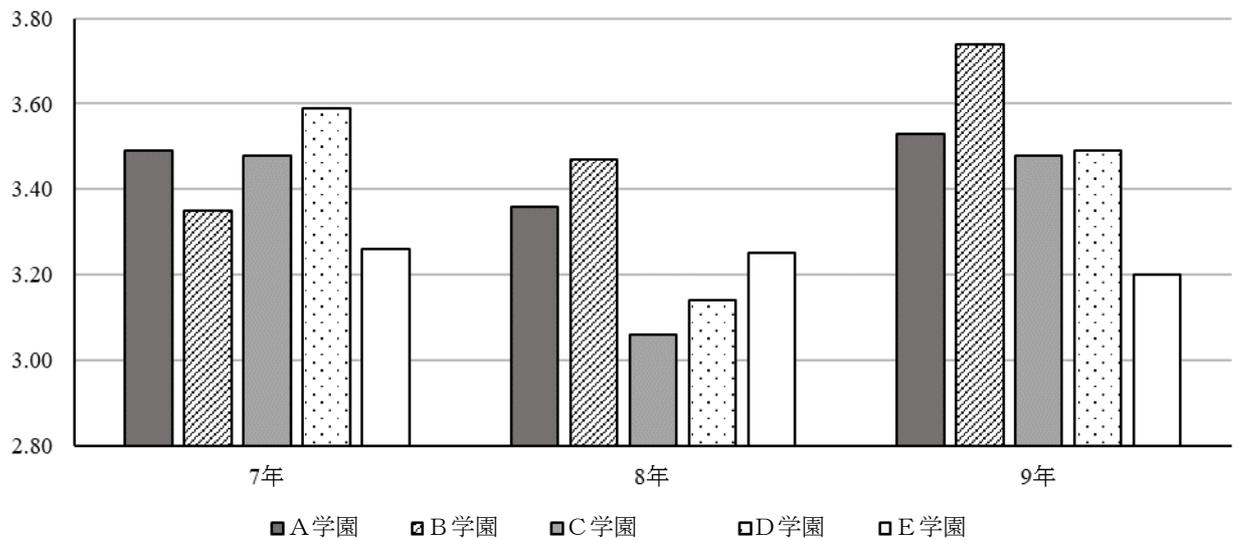


学園	合計	学年			F値 学年	交互作用
		4年	5年	6年		
A学園	3.93 (1.26)	3.94 (1.31)	3.96 (1.18)	3.81 (1.37)	6.15(4, 2017)*** 6.55(2, 2017)** 2.94(8, 2017)**	4年：C学園 < A学園・B学園・E学園 D学園 < A学園 6年：D学園・E学園 < B学園 B学園・C学園：4年 < 6年 E学園：4年・6年 < 5年
B学園	3.96 (1.31)	3.77 (1.40)	3.93 (1.36)	4.22 (1.09)		
C学園	3.55 (1.44)	3.09 (1.57)	3.66 (1.34)	3.86 (1.31)		
D学園	3.56 (1.33)	3.40 (1.40)	3.63 (1.35)	3.63 (1.24)		
E学園	3.87 (1.30)	3.75 (1.38)	4.10 (1.11)	3.69 (1.41)		
合計	3.85 (1.31)	3.73 (1.39)	3.95 (1.23)	3.87 (1.30)		

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・4年生で、C学園よりもA学園、B学園、E学園の方が「中学校が楽しみだ」としている。
- ・6年生では、D学園、E学園よりも、B学園の方が「中学校が楽しみだ」としている。
- ・B学園、C学園では6年生で、E学園では5年生でその傾向が高い。

(5) 「中学校に入ったら、やってみたいと思って期待していることができる」
(中学校のみ)

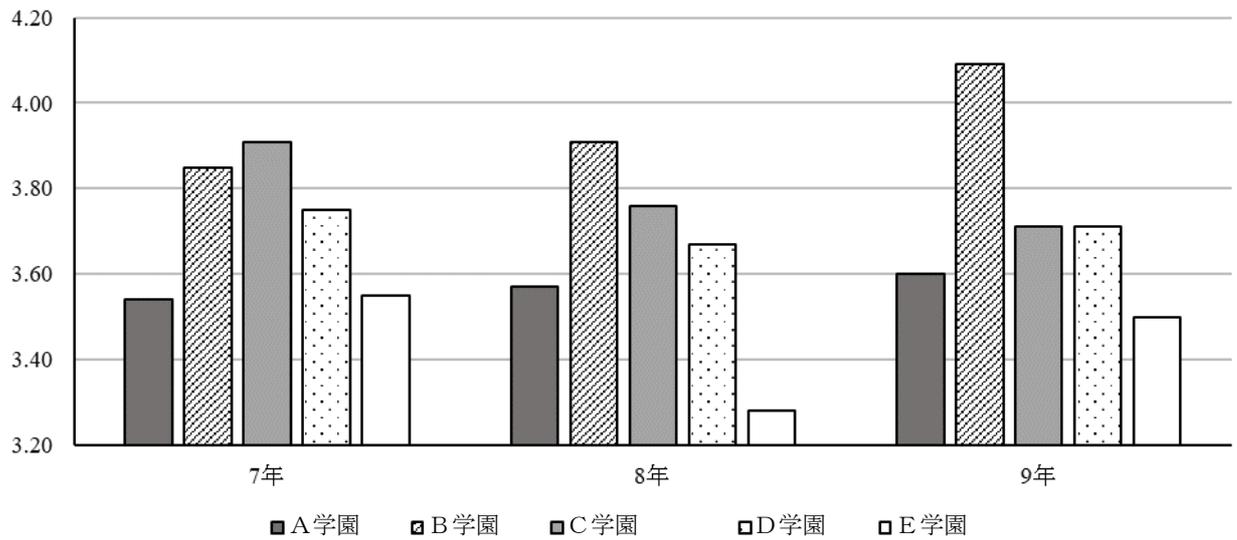


	合計	学年			F値 学園	F値 学年	交互作用
		7年	8年	9年			
A学園	3.46 (1.19)	3.49 (1.22)	3.36 (1.17)	3.53 (1.17)	4.24(4, 1655)** E学園 < A学園・B学園 8年 < 9年	5.13(2, 1655)**	1.30(8, 1655)
B学園	3.51 (1.24)	3.35 (1.34)	3.47 (1.20)	3.74 (1.13)			
C学園	3.38 (1.14)	3.48 (1.17)	3.06 (1.24)	3.48 (1.04)			
D学園	3.41 (1.14)	3.59 (1.15)	3.14 (1.05)	3.49 (1.18)			
E学園	3.20 (1.16)	3.26 (1.15)	3.15 (1.17)	3.20 (1.16)			
合計	3.40 (1.19)	3.41 (1.23)	3.29 (1.17)	3.51 (1.15)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・E学園の方が、A学園、B学園よりも「中学校でやってみたいと思って期待していたことができている」と思っていない。

(6) 「中学校に入る前に不安に思っていたことは、今の中学校生活では起こっていない」(中学校のみ)

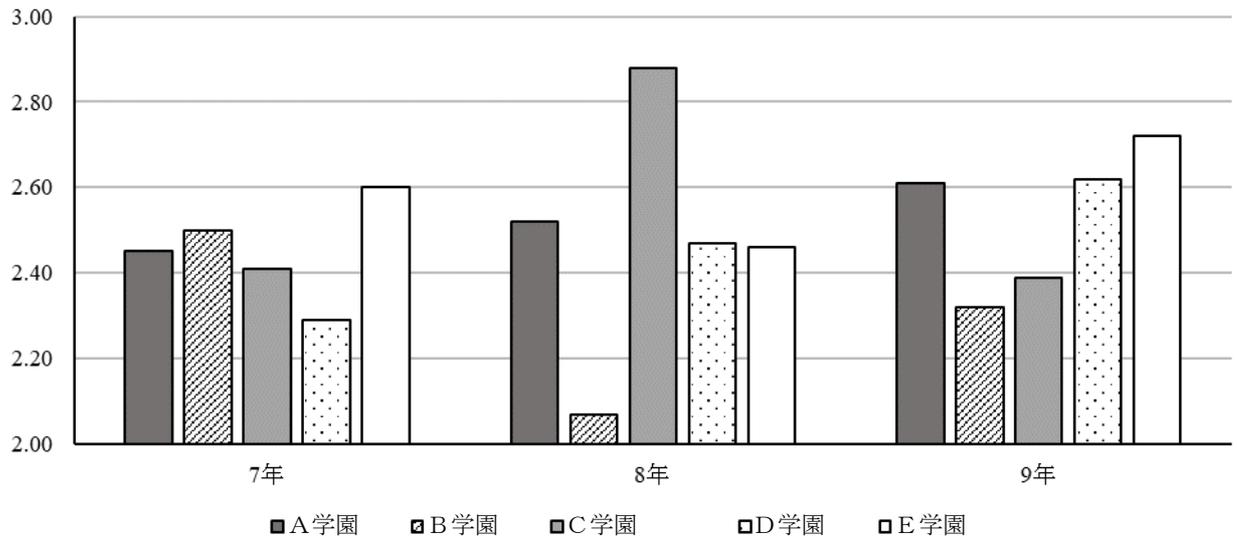


学園	合計	学年			F値 学園	F値 学年	交互作用
		7年	8年	9年			
A学園	3.57 (1.23)	3.54 (1.34)	3.57 (1.11)	3.60 (1.23)	10.06(4, 1654)*** E学園 < B学園・C学園 A学園 < B学園	0.59(2, 1654)	0.72(8, 1654)
B学園	3.94 (1.17)	3.85 (1.24)	3.91 (1.12)	4.09 (1.13)			
C学園	3.79 (1.19)	3.91 (1.24)	3.76 (1.16)	3.71 (1.19)			
D学園	3.71 (1.19)	3.75 (1.13)	3.67 (1.21)	3.71 (1.23)			
E学園	3.44 (1.28)	3.55 (1.23)	3.28 (1.29)	3.50 (1.30)			
合計	3.67 (1.23)	3.67 (1.26)	3.61 (1.19)	3.73 (1.23)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

- ・B学園、C学園の方が、E学園よりも「中学校で不安に思っていたことが起きていない」と思っている。
- ・また、A学園よりもB学園の方がその傾向が高い。

(7) 「中学校での生活について心配に思っていたことが、今の中学校生活で起きている」(中学校のみ)

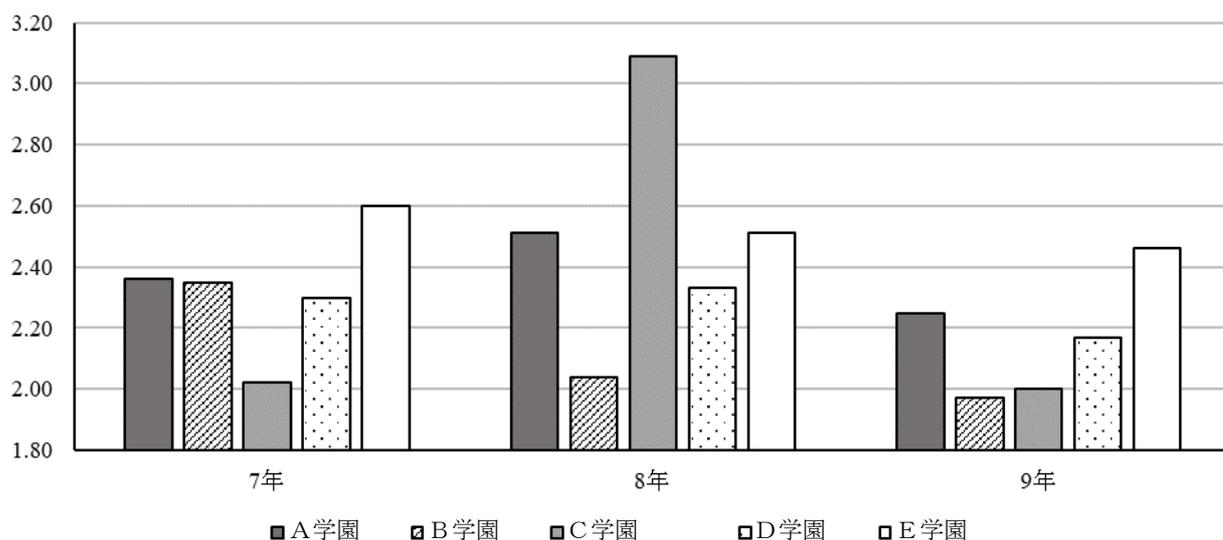


学園	合計	学年			F値 学園	F値 学年	交互作用
		7年	8年	9年			
A学園	2.52 (1.27)	2.45 (1.31)	2.52 (1.20)	2.61 (1.28)	3.27(4, 1642)* B学園 < E学園	0.50(2, 1642)	1.88(8, 1642)†
B学園	2.30 (1.34)	2.50 (1.37)	2.07 (1.22)	2.32 (1.38)			
C学園	2.52 (1.30)	2.41 (1.28)	2.88 (1.37)	2.39 (1.26)			
D学園	2.46 (1.20)	2.29 (1.08)	2.47 (1.23)	2.62 (1.27)			
E学園	2.59 (1.25)	2.60 (1.28)	2.46 (1.17)	2.72 (1.29)			
合計	2.47 (1.28)	2.48 (1.29)	2.41 (1.23)	2.53 (1.31)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・E学園はB学園よりも「中学校に入って心配に思っていたことが起きている」と感じている。

(8) 「中学校に入る前に楽しみにしていたよりも、今の中学校生活は楽しくない」
(中学校のみ)



学園	合計	学年			F値 学園	F値 学年	交互作用
		7年	8年	9年			
A学園	2.37 (1.28)	2.36 (1.33)	2.51 (1.26)	2.25 (1.25)	5.01(4, 1648)**	6.56(2, 1648)**	2.61(8, 1648)**
B学園	2.13 (1.33)	2.35 (1.41)	2.04 (1.29)	1.97 (1.25)			
C学園	2.27 (1.41)	2.02 (1.34)	3.09 (1.58)	2.00 (1.19)			
D学園	2.27 (1.23)	2.30 (1.24)	2.33 (1.22)	2.17 (1.25)			
E学園	2.53 (1.32)	2.60 (1.34)	2.51 (1.25)	2.46 (1.38)			
合計	2.33 (1.32)	2.38 (1.35)	2.41 (1.31)	2.18 (1.28)			

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

・8年生で、A学園、C学園、E学園は、B学園よりも「中学校は期待していたよりも楽しくない」と感じている。

・9年生では、E学園が、B学園よりもその傾向が高い。

2) 中学校への期待と不安、現実の中学校生活とのズレの分析

B学園では、中学校生活への不安は低めで、6年生の中学校生活への期待は高い。実際の中学校生活でも期待通りの生活が送れており、不安に思っていたことはあまり起こっていないと感じている。A学園では、中学校生活への不安が低めだが、実際の中学校生活は中程度と感じている。

2018年度に統合を控えたC学園では、4年は中学校生活への期待がもてず、5年では中学校生活への不安が高まるが、6年では中程度となっている。実際の中学校生活では、不安に思っていたことは起こっていないが、8年は中学校生活があまり期待通りにはなっていないと感じている。同じく統合を控えたD学園では、全般的に、中学校生活への期待が低く、特に6年で不安が高い。しかし、実際の中学校生活は中程度であり、期待していたとおりに過ごせてもいるが、不安に思っていたこともそれなりに起こっていると感じている。

一体型のE学園は、連携型校とは異なって傾向が見られる。4年は中学校生活への期待が高いが、5年・6年では中程度になる。実際の中学校生活では、期待して楽しみにしていたことはできておらず、不安・心配に思っていたことは生じていると感じている。

3 考察

アンケート結果およびヒアリング調査などから、つくば市の小中一貫教育について特徴と思われる点を挙げてみる。

(1) 一体型校における子どものレジリエンス、友人、教師からのソーシャル・サポートなどの低さ

制度別、学園別分析の結果から傾向として、一体型校において、子どもの「レジリエンス」全般および、友人および教師による「ソーシャル・サポート」、「ルールへの適用」について低い傾向が見られる。

「レジリエンス」に関しては、一体型校において子どもの内面的共有性が全般的に低く、「ソーシャル・サポート」では友人関係の適応が低くなっている。特に、「教師からのソーシャル・サポート」「学級適応感」「対教師関係」などで小学校4年生と6年生に低い傾向が見られるが、6年生で顕著である。「ルールへの適用」は、自発的、積極的に内面からルールに従う、精神的にポジティブな傾向を示す指標であるが、これも一体型校でやや低く、特に6年生で低い傾向が見られた。

このような、一体型校にネガティブな結果が出る傾向の要因としていくつかの点が推測される。

第1に、一体型校が大規模である点があげられる。ヒアリング調査からも、一体型校が急速に2千人規模の大規模校になっていったこと、その背景として、当初学区割を廃止したこと、および予想を超えた以上に急激な人口流入があったことがあげられる。そしてそ

の結果が、学校運営、学級運営、行事など特別活動に影響を及ぼしていることが指摘されている。また、人数増により施設が手狭になり、休み時間の校庭の使用制限がかかるなど、子どもたちの学校生活にも制限がかけられる事態が生じていることがあげられている。大規模校であることが、ソーシャルサポートなど関係性の問題に影響を与えていることが推測される。

第2に、教員配置数の不足の問題があげられる。その結果もあり、教師の多忙な状況が生じていた。様々な新しい取り組みを行うモデル校であるがゆえに、「子どもたちも先生たちも落ち着かない中で一体何を見に来ているのだろう」という保護者の意見が出るほど、一時期は全国から視察者が多かったとされる。特に2014年度は毎月視察があったことが記録されている。このような状況の中で、一体型校では教職員が多忙であったことが推測される。

さらに、特色教科である「つくばスタイル科」についても「6種12の力」としてマニュアル化された新しいタイプの教育内容や「思考ツール」といった新しい方式の教育課程を行っていくことが、トータルで見るとそれを最も全般的に取り入れている一体型校において、教師の教科指導面の負担を大きくしていった可能性がある。そのことが子どもへの生活指導面での働きかけを若干控えさせた傾向があることも推測される。ただし、「つくばスタイル科」自体が、基礎部分と応用部分から構成されていて学校の裁量部分が大きく、一律に多忙化につながるものではない、とする教職員の意見も見られた。

第3に、一貫校が施設一体型であることによる制度的な課題が推測される。アンケート結果では、教師の「ソーシャル・サポート」、「教師適応」、「学級適応」など多くの指標で、一体校の6年生にネガティブな傾向が見られた。またそれに類似する傾向が4年生でも一定程度見られた。ただし5年生には、そのような傾向が見られなかった。

また、保護者へのヒアリング調査からは一体校の6年生には課題があることを指摘する意見があげられた。

「ずっと見てきていると6年生がしっかりしないっていうのが顕著—何か問題が起きるのは6年生だし、意欲があまり感じられない」「(6年生は)体力とか気力が充実しているようなところに、リーダーも任せられない、任せてもらえない」、「6年生で私立中学受験をする子どもはピリピリしているけれど、同じ施設に行く子どもはボヤーンとしている」といった意見が出された。

それに対して、アンケート実施学年の6年生は、特別に生徒指導上の課題を有した学年であり、この傾向は一般化できるものではない、とする意見も教職員側から指摘されている。

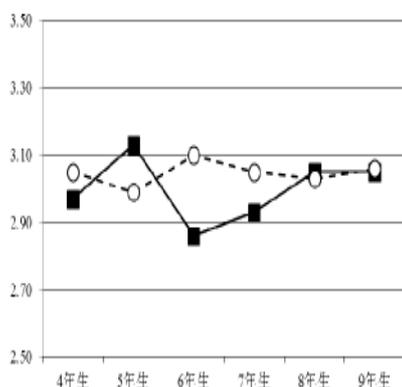
一般的な施設一体校の傾向を見ると、従来であれば児童会や行事において最高学年、リーダーとして大きく成長する時期に、さらに上級生の中学生がいるためにその役割を期待されず、任せられないことによる成長・発達の課題が生じることが指摘される。このような小中一貫校制度の小学校「高学年」の課題については、制度化を提唱した中央教育審議会答申(2014年)においても「小学校高学年のリーダー性、主体性の育成」が「児童・生徒の課題」として指摘されている

小学校高学年は、発達段階的には「有用感」(エリクソンによる。自分ではできる、やれるという気持)を獲得する時期であるとされる。類似した概念として「自己効力感」(バンデューラによる。)があげられるが、これは豊かな達成体験などによって習得できるもので

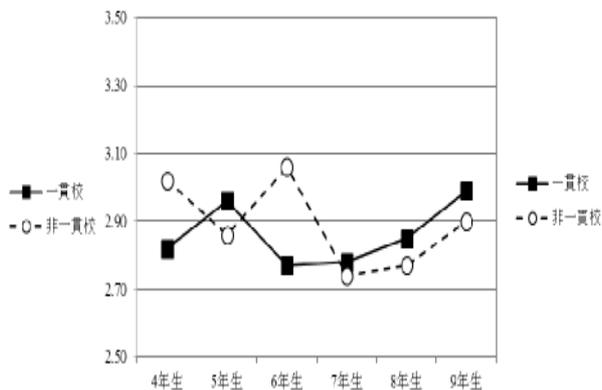
あるとされる。従来の小学校であれば最高学年としてリーダー体験などにより獲得できる「有用感」や「自己効力感」を獲得できないことが、自らの「自信」や「適応感」、「他者との関係性」などさまざまな面におけるネガティブな傾向につながると思われる。すなわち、自分に自信がなく「～ができる・やれる」という感覚が低いことが、他者との関係やさまざまな活動の消極性につながるというのである。

一貫校と非一貫校の子どもの意識について同一条件で比較した大規模な全国アンケート調査（2015年・資料1・2参照）において、複数の指標で、小学校段階において4年生と6年生の意識にネガティブな傾向が見られた。特に6年生で顕著な傾向が出ている。これは小中一貫校の中でも、小学校で統廃合を実施しておらず、開設後数年以上を経ている中規模以上の対象に多く見られた傾向である。ここにはつくば市の一体校のデータ結果と類似した傾向が見られる。なぜ、4年生と6年生でこのような傾向が出るのかについては更なる論証が必要である。特に6年生という高学年で、ネガティブな結果が生じることについて制度に起因する傾向があることが推測される。

資料1



資料2



一貫校・非一貫校子どもの精神的健康についての比較調査、「学級適応」(左)「対教師関係」(右)

(2015年・全国調査 梅原利夫代表 科学研究費研究 基盤(B)「小中一貫教育に見る総合的研究」) 「一貫校」は施設一体型で小中一貫カリキュラムを導入している学校

2015年9月～12月実施。施設一体型小中一貫校6校に在籍する4年生から9年生1163名(男子624名, 女子528名, 不明11名), 公立小学校15校・中学校5校に在籍する4年生から中学3年生3931名(男子2026名, 女子1845名, 不明60名)を調査対象者としている。

また、この傾向は子どもたちの成長・発達にどのような影響を及ぼすのか、どのようにしたらこの課題を克服できるのかについても同様に今後の検証が求められる。

さらに、この6年生の課題に関連すると思われるが、小中一貫教育における「6・3制」区分から「4・3・2制」区分への移行についての課題を指摘する意見もあげられた。

ヒアリング調査では、「中1ギャップ」をなくすという「理由」のために、「小学校6年生から中学に行く際の環境の変化を経験しないこと、それは逆に高校進学時に『衝撃』と

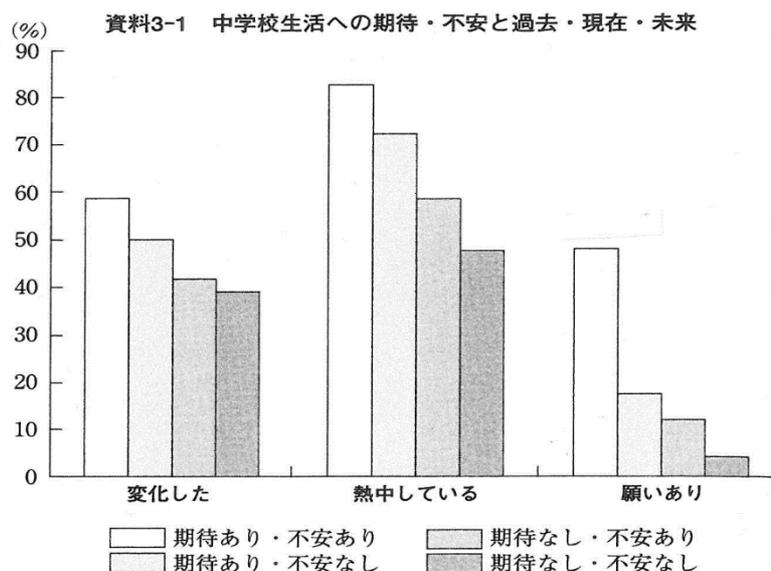
なるのではないか」それによって、「小中一貫よりも中高一貫にメリットを感じて受験をさせる傾向があるのではないか」とする指摘があった。「4・3・2制」の持つ有効性については、よく実現できているという意見が連携型校の教職員にある一方で、他の教職員からやや実態に合っていない、形骸化している、といった意見も出されている。

このように、一体校における子どもの「レジリエンス」、「ソーシャル・サポート」等のネガティブな傾向については、急速な大規模校化、教職員の多忙化、および施設一体型の制度に起因する課題などさまざまな要因の可能性が推測される。しかしながら、これらの要因が、個別にどのように影響しているのかについての解明には、追加調査を行う必要があると思われる。

② 中学校への期待・不安の現実の中学校生活とのズレでは一体校にネガティブな結果

この点についても、制度別分析、学園別分析から一体校の課題が明らかになる。すなわち中学生が同一施設にある一体校では、5年生で高まった中学校生活への期待が6年生になるとむしろ低下してしまう。また実際の中学校生活になると、連携型に比べて一般的に期待していたことができず、不安に思っていることが生じている傾向が見られた。

小学生の中学校への「不安」を軽減し、段差を滑らかにする点が小中一貫校制度のメリットとして指摘されてきたが、むしろ同一空間にいることで日常的に中学生の姿が見えてしまい「期待」がしぼんでしまう、中学校生活においては、逆に「不安」が的中してしまう、という事態が起きていることが推測される。逆に中学生が同一空間にいない連携型校では、小学校時代に「期待」が高く、また中学校に移行し新たな場所で、「リセット」ができる、切り替えができる、といったメリットが中学校生活でのポジティブな意識に繋がっていることも推測される。



学校間移行の研究を専門領域としている発達心理学者の都築学は、小学校から中学校への大規模縦断調査（2001年 小6の2～3月、中1の6月、中1の11～12月の3回の

縦断調査)において、小学生が持っている中学校への不安や期待と実際の中学校生活での意識や活動との関連を検討している。それによると、小学校6年の時に、中学校に対して「期待」と「不安」の両方を有していた群が、中学校に入学してから「①自分が変化したことがある」「②今の生活で熱中していることがある」「③これから先の中学生活で願っていることがある」の評定で最も高い結果を示した。すなわち、小学校6年で中学校生活に「期待」と「不安」の両面感情を持つ子どもが、実際の中学校生活では、積極的、意欲的に過ごしているというのである。都筑は、このような小学生の中学校に対する「不安」は決してネガティブなものではなく「新しい中学校という環境での行動を動機づける」と評している。注1)

そのような点からみると、一体校6年生の中学校への「期待」の低さ、連携校6年の「期待」の高さが、中学校での意識の差に影響を与えている可能性もあるといえよう。また、一体校における6年生の中学校への「期待」を高める何らかの方策が求められるのかもしれない。

他方、2018年度にS学園に統合される予定であったD学園、C学園の小学生の中学校に対する5、6年生の「不安」が高く「期待」が低かった点も特徴的である。大規模統合によって新たな一貫校に移行するのに際して、ネガティブな傾向が強くみられる。

③ コンピテンスにみられる学園ごとの特色について

「コンピテンス(私はこれができる、自信があるという気持ち)」については、学園ごとの相違があることが明らかになった。つくば市では小中一貫教育の独自教科である「つくばスタイル科」が共通で行われている。一体型校については、英語のコンピテンスが高い傾向が見られたが、パソコンのコンピテンスについては連携型の方がむしろ高かった。パソコンなどのICT教育の条件整備や活用できる教職員の配置などにおいては、学園ごとに差があること、むしろ新設の一体型校ではICT教育に良好な条件整備があり、使いこなせる教職員も多いことが事前に指摘されていた。しかし、それはパソコンのコンピテンスの結果には直接的にはつながらなかった。一体型校の場合、最新の施設が整えられているものの、児童生徒数が多く一人当たりのパソコンの配置条件が悪いのではないかと、という意見がみられた。しかし、一体校には極端にパソコンの技能が高い児童生徒がいるため、他の生徒の相対的自己評価が低くなっているのではないかと、といった教職員の意見もあげられた。

つくば市の場合、校舎が分離した連携型校において、東京都三鷹市で行われている小中一貫教育のような、小・中教員の相互乗り入れ授業を日常的に行うタイプの縛りの強い小中一貫教育は実施していない。むしろ、学園ごとに特色のある緩やかな小・中連携の活動をしている点が特色と思われる。同じ「つくばスタイル科」を実施していても、重点を置く部分が学園ごとに異なり、例えば「本校はキャリア教育を重点的にやっている」といった発言が随所に見られた。全学年の縦割りを行うなど9年間の連続性を重視しているE学園以外は、きわめてゆるやかな小中一貫校教育を行っている。教育課程や活動の多様性が、学園ごとのコンピテンス結果の相違につながっているのではないだろうか。

注1) 都筑学「発達論から見た小中一貫教育」 佐貫浩・藤本文朗・山本由美編著『これでいいのか小中一貫校 ―その理論と実態』2011年 新日本出版社 pp.58-60
なお、アンケート分析については、高坂康雅（和光大学）が全体を担当した。

Ⅲ部 保護者の意識調査

「学校についてのアンケート（保護者調査）」の回答結果の分析

1. 調査概要

本調査は、つくば市の小中学校に通う児童生徒の保護者を対象として、つくば市の学校教育に対する意識や考え、期待やニーズなどを把握することを目的とした。

調査時期は 2018 年 3 月。A 学園・B 学園・C 学園・D 学園・E 学園の 5 つの地域の 5 年生と 7 年生の保護者に回答を依頼した。各学校を通して児童生徒に調査票を配布し、自宅にて保護者が自記式で回答した後に、児童生徒から学級担任への提出によって回収した。

回答者総数は 1,174 人であった。

2. 分析手法

調査結果の分析は、3. に示すように学園ごとに結果を表示するクロス集計によって行った。また学園ごとの特徴の違いを吟味するためには、カイ二乗検定と分散分析による統計的検定を行った。

カイ二乗検定では「無回答・回答不明瞭」の回答者を分析対象から外すことによって、調整済み残差による群間比較を行った。稿末の【資料 1】がその結果であり、5%水準で統計的に有意な結果を示した調査項目において、さらに 5%水準で統計的に有意であった学園ごとの違いを表示している。

分散分析では回答を尺度形式に合わせて数値化し、学園ごとの平均値の比較を行った。稿末の【資料 2】がその結果であり、5%水準で統計的に有意な結果を示した調査項目において、さらに 5%水準で統計的に有意であった学園ごとの違いを表示している。

3. 調査結果の分析

(1) あなたが現在の住所（現在の校区）に住み始めてから、どのくらいになりますか。およその年月を教えてください。

Q1 あなたが現在の住所（現在の校区）に住み始めてから、どのくらいになりますか。およその年月を教えてください。

		3年未満	3年以上、6年未満	6年以上、12年未満	12年以上、20年未満	20年以上	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	47	60	176	81	9	27	400
	%	11.8%	15.0%	44.0%	20.3%	2.3%	6.8%	100.0%
B学園	度数	6	23	89	80	50	13	261
	%	2.3%	8.8%	34.1%	30.7%	19.2%	5.0%	100.0%
C学園	度数	2	8	19	22	33	1	85
	%	2.4%	9.4%	22.4%	25.9%	38.8%	1.2%	100.0%
D学園	度数	4	10	33	44	45	2	138
	%	2.9%	7.2%	23.9%	31.9%	32.6%	1.4%	100.0%
E学園	度数	38	78	126	29	7	12	290
	%	13.1%	26.9%	43.4%	10.0%	2.4%	4.1%	100.0%
合計	度数	97	179	443	256	144	55	1174
	%	8.3%	15.2%	37.7%	21.8%	12.3%	4.7%	100.0%

保護者の居住年数はC学園で相対的に長く、A学園・E学園で相対的に短い。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、B学園・C学園・D学園で長く、A学園・E学園で短い結果となった。分散分析の群間比較では居住年数について、「C・D>B>A>E」という結果が得られた。

(2) お子さんとあなたの続柄を教えてください。

Q2 お子さんとあなたの続柄を教えてください。

		父親	母親	祖父	祖母	その他	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	25	346	1	0	0	28	400
	%	6.3%	86.5%	0.3%	0.0%	0.0%	7.0%	100.0%
B学園	度数	10	233	0	2	1	15	261
	%	3.8%	89.3%	0.0%	0.8%	0.4%	5.7%	100.0%
C学園	度数	11	69	0	1	3	1	85
	%	12.9%	81.2%	0.0%	1.2%	3.5%	1.2%	100.0%
D学園	度数	8	125	0	1	1	3	138
	%	5.8%	90.6%	0.0%	0.7%	0.7%	2.2%	100.0%
E学園	度数	13	263	0	0	0	14	290
	%	4.5%	90.7%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	100.0%
合計	度数	67	1036	1	4	5	61	1174
	%	5.7%	88.2%	0.1%	0.3%	0.4%	5.2%	100.0%

本調査への回答者の子どもとの続柄を尋ねた問いである。C学園において、本調査への回答者が父親である割合の高さに着目できる。

(3) お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

Q3-1 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。学校に行くことを楽しみにしている

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	341	47	12	400
	%	85.3%	11.8%	3.0%	100.0%
B学園	度数	213	36	12	261
	%	81.6%	13.8%	4.6%	100.0%
C学園	度数	77	7	1	85
	%	90.6%	8.2%	1.2%	100.0%
D学園	度数	121	15	2	138
	%	87.7%	10.9%	1.4%	100.0%
E学園	度数	262	20	8	290
	%	90.3%	6.9%	2.8%	100.0%
合計	度数	1014	125	35	1174
	%	86.4%	10.6%	3.0%	100.0%

子どもが「学校に行くことを楽しみにしている」と回答する保護者の割合はどの学園においても総じて高く、とくにC学園とE学園で90%以上となった。クロス集計のカイ二乗検定では学園間に有意な差は見られなかったが、分散分析では「E>B」の差が統計的に有意という結果が得られた。

Q3-2 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。家庭学習(宿題も含む)が習慣化されている

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	317	70	13	400
	%	79.3%	17.5%	3.3%	100.0%
B学園	度数	190	59	12	261
	%	72.8%	22.6%	4.6%	100.0%
C学園	度数	54	31	0	85
	%	63.5%	36.5%	0.0%	100.0%
D学園	度数	103	34	1	138
	%	74.6%	24.6%	0.7%	100.0%
E学園	度数	224	59	7	290
	%	77.2%	20.3%	2.4%	100.0%
合計	度数	888	253	33	1174
	%	75.6%	21.6%	2.8%	100.0%

子どもの「家庭学習(宿題を含む)が習慣化されている」と回答する保護者の割合は、A学園とE学園でほかの学園よりもやや高い。都市型の地域の性格という共通性を指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園での割合が高く、C学園での割合が低い結果となった。分散分析の群間比較では「A・E>C」という結果が得られた。

Q3-3 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。授業がわかると言っている

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	326	59	15	400
	%	81.5%	14.8%	3.8%	100.0%
B学園	度数	176	72	13	261
	%	67.4%	27.6%	5.0%	100.0%
C学園	度数	56	28	1	85
	%	65.9%	32.9%	1.2%	100.0%
D学園	度数	101	34	3	138
	%	73.2%	24.6%	2.2%	100.0%
E学園	度数	248	31	11	290
	%	85.5%	10.7%	3.8%	100.0%
合計	度数	907	224	43	1174
	%	77.3%	19.1%	3.7%	100.0%

子どもが「授業がわかると言っている」と回答する保護者の割合は、A学園とE学園でほかの学園よりも高い。ここにも都市型の地域の共通性を指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・E学園での割合が高く、B学園・C学園での割合が低い結果となった。分散分析の群間比較では「A・E>B・C・D」という結果が得られた。

Q3-4 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。将来の夢や希望について話をよくする

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	224	162	14	400
	%	56.0%	40.5%	3.5%	100.0%
B学園	度数	144	104	13	261
	%	55.2%	39.8%	5.0%	100.0%
C学園	度数	45	40	0	85
	%	52.9%	47.1%	0.0%	100.0%
D学園	度数	82	55	1	138
	%	59.4%	39.9%	0.7%	100.0%
E学園	度数	171	112	7	290
	%	59.0%	38.6%	2.4%	100.0%
合計	度数	666	473	35	1174
	%	56.7%	40.3%	3.0%	100.0%

子どもと「将来の夢や希望について話をよくする」と回答する保護者の割合は、どの学園においても50%強であり、学園間で大きな差はない。統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q3-5 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。家庭や地域で進んであいさつをする

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	304	84	12	400
	%	76.0%	21.0%	3.0%	100.0%
B学園	度数	195	53	13	261
	%	74.7%	20.3%	5.0%	100.0%
C学園	度数	68	17	0	85
	%	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
D学園	度数	105	31	2	138
	%	76.1%	22.5%	1.4%	100.0%
E学園	度数	219	62	9	290
	%	75.5%	21.4%	3.1%	100.0%
合計	度数	891	247	36	1174
	%	75.9%	21.0%	3.1%	100.0%

子どもが「家庭や地域で進んであいさつをする」と回答する保護者の割合は、どの学園においても70%を越えており、C学園での割合が80%に達した。統計的に有意な学園間の差は見られない。

Q3-6 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。身だしなみや身の回りの整理・整頓がきちんとできている

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	210	173	17	400
	%	52.5%	43.3%	4.3%	100.0%
B学園	度数	146	102	13	261
	%	55.9%	39.1%	5.0%	100.0%
C学園	度数	49	34	2	85
	%	57.6%	40.0%	2.4%	100.0%
D学園	度数	84	53	1	138
	%	60.9%	38.4%	0.7%	100.0%
E学園	度数	157	123	10	290
	%	54.1%	42.4%	3.4%	100.0%
合計	度数	646	485	43	1174
	%	55.0%	41.3%	3.7%	100.0%

子どもが「身だしなみや身の回りの整理・整頓がきちんとできている」と回答する保護者の割合は、どの学園においても50%を越えており、D学園での割合が60%に達した。統計的に有意な学園間の差は見られない。

Q3-7 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。友達を傷つけるような言葉や行いをしないで、仲良くしている

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	374	12	14	400
	%	93.5%	3.0%	3.5%	100.0%
B学園	度数	238	9	14	261
	%	91.2%	3.4%	5.4%	100.0%
C学園	度数	76	9	0	85
	%	89.4%	10.6%	0.0%	100.0%
D学園	度数	126	10	2	138
	%	91.3%	7.2%	1.4%	100.0%
E学園	度数	274	7	9	290
	%	94.5%	2.4%	3.1%	100.0%
合計	度数	1088	47	39	1174
	%	92.7%	4.0%	3.3%	100.0%

子どもが「友達を傷つけるような言葉や行いをしないで、仲良くしている」と回答する保護者の割合は、どの学園においても総じて高い。A学園とE学園でやや高い。クロス集計のカイ二乗検定では学園間に統計的に有意な差は見られなかったが、分散分析の群間比較では「A・B・E>C」および「E>D」という結果が得られた。

Q3-8 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。自分の健康管理に気をつけて生活している

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	336	50	14	400
	%	84.0%	12.5%	3.5%	100.0%
B学園	度数	199	49	13	261
	%	76.2%	18.8%	5.0%	100.0%
C学園	度数	69	15	1	85
	%	81.2%	17.6%	1.2%	100.0%
D学園	度数	107	28	3	138
	%	77.5%	20.3%	2.2%	100.0%
E学園	度数	244	38	8	290
	%	84.1%	13.1%	2.8%	100.0%
合計	度数	955	180	39	1174
	%	81.3%	15.3%	3.3%	100.0%

子どもが「自分の健康管理に気をつけて生活している」と回答する保護者の割合は、どの学園においても総じて高い。A学園・C学園・E学園において80%を越えた。統計的に有意な学園間の差は見られない。

(4) あなたのご家庭では、お子さんと一緒に次の施設にどれくらい行きますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

Q4-1 あなたの家庭では、お子さんと一緒に次の施設にどれくらい行きますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。 美術館や劇場

		月に1回以上	2~3か月に1 回程度	半年に1回程 度	1年に1回程 度	2~3年に1回 程度	ほとんど行 かない	行ったことが ない	近所に施設が 無いため行く ことができない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	1	23	67	73	41	130	30	5	30	400
	%	0.3%	5.8%	16.8%	18.3%	10.3%	32.5%	7.5%	1.3%	7.5%	100.0%
B学園	度数	0	7	26	71	24	85	28	8	12	261
	%	0.0%	2.7%	10.0%	27.2%	9.2%	32.6%	10.7%	3.1%	4.6%	100.0%
C学園	度数	0	3	8	12	6	24	23	8	1	85
	%	0.0%	3.5%	9.4%	14.1%	7.1%	28.2%	27.1%	9.4%	1.2%	100.0%
D学園	度数	0	4	4	13	8	50	37	18	4	138
	%	0.0%	2.9%	2.9%	9.4%	5.8%	36.2%	26.8%	13.0%	2.9%	100.0%
E学園	度数	0	11	45	65	32	88	30	7	12	290
	%	0.0%	3.8%	15.5%	22.4%	11.0%	30.3%	10.3%	2.4%	4.1%	100.0%
合計	度数	1	48	150	234	111	377	148	46	59	1174
	%	0.1%	4.1%	12.8%	19.9%	9.5%	32.1%	12.6%	3.9%	5.0%	100.0%

子どもと一緒に「美術館や劇場」に行く頻度を尋ねた問いである。C学園とD学園で「行ったことがない」および「近所に施設がないため行くことができない」と回答する保護者の割合が高い。学園の地域特性を指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定では学園間に統計的に有意な差は見られなかったが、分散分析では「A・E>C・D」および「B>D」という結果が得られた。

Q4-2 あなたの家庭では、お子さんと一緒に次の施設にどれくらい行きますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。 博物館や科学館

		月に1回以上	2~3か月に1 回程度	半年に1回程 度	1年に1回程 度	2~3年に1回 程度	ほとんど行 かない	行ったことが ない	近所に施設が 無いため行く ことができない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	1	34	58	111	65	92	7	2	30	400
	%	0.3%	8.5%	14.5%	27.8%	16.3%	23.0%	1.8%	0.5%	7.5%	100.0%
B学園	度数	0	6	30	77	34	83	13	5	13	261
	%	0.0%	2.3%	11.5%	29.5%	13.0%	31.8%	5.0%	1.9%	5.0%	100.0%
C学園	度数	1	2	11	16	12	31	8	3	1	85
	%	1.2%	2.4%	12.9%	18.8%	14.1%	36.5%	9.4%	3.5%	1.2%	100.0%
D学園	度数	0	5	9	18	24	52	17	8	5	138
	%	0.0%	3.6%	6.5%	13.0%	17.4%	37.7%	12.3%	5.8%	3.6%	100.0%
E学園	度数	2	22	53	77	49	64	11	2	10	290
	%	0.7%	7.6%	18.3%	26.6%	16.9%	22.1%	3.8%	0.7%	3.4%	100.0%
合計	度数	4	69	161	299	184	322	56	20	59	1174
	%	0.3%	5.9%	13.7%	25.5%	15.7%	27.4%	4.8%	1.7%	5.0%	100.0%

子どもと一緒に「博物館や科学館」に行く頻度を尋ねた問いである。C学園とD学園で「ほとんど行かない」および「行ったことがない」と回答する保護者の割合が高い。ここにも学園の地域特性を指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定では学園間に統計的に有意な差は見られなかったが、分散分析では「A・E>B・C・D」および「B>D」という結果が得られた。

Q4-3 あなたの家庭では、お子さんと一緒に次の施設にどれくらい行きますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。 図書館

		月に1回以上	2~3か月に1 回程度	半年に1回程 度	1年に1回程 度	2~3年に1回 程度	ほとんど行 かない	行ったことが ない	近所に施設が 無いため行く ことができない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	72	91	52	35	29	80	13	0	28	400
	%	18.0%	22.8%	13.0%	8.8%	7.3%	20.0%	3.3%	0.0%	7.0%	100.0%
B学園	度数	18	25	34	42	23	81	18	7	13	261
	%	6.9%	9.6%	13.0%	16.1%	8.8%	31.0%	6.9%	2.7%	5.0%	100.0%
C学園	度数	7	19	9	8	4	31	7	0	0	85
	%	8.2%	22.4%	10.6%	9.4%	4.7%	36.5%	8.2%	0.0%	0.0%	100.0%
D学園	度数	9	16	20	13	14	47	12	3	4	138
	%	6.5%	11.6%	14.5%	9.4%	10.1%	34.1%	8.7%	2.2%	2.9%	100.0%
E学園	度数	43	60	42	49	9	63	13	2	9	290
	%	14.8%	20.7%	14.5%	16.9%	3.1%	21.7%	4.5%	0.7%	3.1%	100.0%
合計	度数	149	211	157	147	79	302	63	12	54	1174
	%	12.7%	18.0%	13.4%	12.5%	6.7%	25.7%	5.4%	1.0%	4.6%	100.0%

子どもと一緒に「図書館」に行く頻度を尋ねた問いである。全体的には図書館の利用が

広く行われていることが示されている。A学園・E学園での利用頻度がやや高い。クロス集計のカイ二乗検定では学園間に統計的に有意な差は見られなかったが、分散分析では「 $A \cdot E > B \cdot C \cdot D$ 」という結果が得られた。

(5) お子さんの将来のことについておたずねします。あなたは、お子さんにどの段階の学校まで進んでほしいと思っていますか。現在のお考えにもっとも近いものを1つ選択してください。

Q5 お子さんの将来のことについておたずねします。あなたは、お子さんにどの段階の学校まで進んでほしいと思っていますか。現在のお考えにもっとも近いものを1つ選択してください。

		中学校まで	高等学校・高等専修学校まで	専門学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	無回答・回答不明瞭	合計
		A学園	度数	2	4	5	10	292	47	10
	%	0.5%	1.0%	1.3%	2.5%	73.0%	11.8%	2.5%	7.5%	100.0%
B学園	度数	0	26	27	17	170	5	5	11	261
	%	0.0%	10.0%	10.3%	6.5%	65.1%	1.9%	1.9%	4.2%	100.0%
C学園	度数	0	19	8	10	40	0	4	4	85
	%	0.0%	22.4%	9.4%	11.8%	47.1%	0.0%	4.7%	4.7%	100.0%
D学園	度数	1	23	18	9	76	3	4	4	138
	%	0.7%	16.7%	13.0%	6.5%	55.1%	2.2%	2.9%	2.9%	100.0%
E学園	度数	0	2	10	8	219	33	9	9	290
	%	0.0%	0.7%	3.4%	2.8%	75.5%	11.4%	3.1%	3.1%	100.0%
合計	度数	3	74	68	54	797	88	32	58	1174
	%	0.3%	6.3%	5.8%	4.6%	67.9%	7.5%	2.7%	4.9%	100.0%

子どもに進んで欲しいと保護者が考える学校段階を尋ねた問いである。全体として、どの学園においても「大学まで」と回答する保護者の割合が高く、つくば市における教育期待の大きさが理解できる。A学園・E学園で「大学まで」とする回答の割合は高く、さらに「大学院まで」とする割合が10%を越えている点も両学園の特徴である。ここにも都市型の地域特性を指摘できる。C学園で「高等学校・高等専修学校まで」とした保護者の割合が20%を越えている点も着目できる。クロス集計のカイ二乗検定では学園間に統計的に有意な差は見られなかったが、分散分析では「A・E>B>C・D」という結果が得られた。

(6) あなたが(5)のようにお考えになる理由はなんですか。理由としてもっとも大きいものを1つ選択してください。

Q6 あなたが(5)のようにお考えになる理由はなんですか。理由としてもっとも大きいものを1つ選択してください。

		お子さんがそう希望しているから	一般的な進路だと思うから	お子さんの学力から考えて	保護者としての希望	家庭に経済的な余裕がないから	その他	無回答・回答不明瞭	合計
		A学園	度数	93	91	32	130	2	22
	%	23.3%	22.8%	8.0%	32.5%	0.5%	5.5%	7.5%	100.0%
B学園	度数	62	52	28	88	10	10	11	261
	%	23.8%	19.9%	10.7%	33.7%	3.8%	3.8%	4.2%	100.0%
C学園	度数	16	16	7	35	1	7	3	85
	%	18.8%	18.8%	8.2%	41.2%	1.2%	8.2%	3.5%	100.0%
D学園	度数	32	23	10	53	5	10	5	138
	%	23.2%	16.7%	7.2%	38.4%	3.6%	7.2%	3.6%	100.0%
E学園	度数	78	65	21	95	4	19	8	290
	%	26.9%	22.4%	7.2%	32.8%	1.4%	6.6%	2.8%	100.0%
合計	度数	281	247	98	401	22	68	57	1174
	%	23.9%	21.0%	8.3%	34.2%	1.9%	5.8%	4.9%	100.0%

子どもの進学する学校段階を考える際の根拠を尋ねた問いである。どの学園においても「保護者としての希望」を理由とする回答が30%を越え、次いで「お子さんがそう希望しているから」「一般的な進路だと思うから」が続く。C学園で「保護者としての希望」を理

由とする割合が40%を越えた点に着目できる。

(7) あなたは、次のことについて、どのように考えていますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

Q7-1 あなたは、次のことについて、どのように考えていますか。学校生活を楽しめれば、良い成績をとることはこだわらない

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	174	205	21	400
	%	43.5%	51.3%	5.3%	100.0%
B学園	度数	123	126	12	261
	%	47.1%	48.3%	4.6%	100.0%
C学園	度数	46	36	3	85
	%	54.1%	42.4%	3.5%	100.0%
D学園	度数	73	61	4	138
	%	52.9%	44.2%	2.9%	100.0%
E学園	度数	123	160	7	290
	%	42.4%	55.2%	2.4%	100.0%
合計	度数	539	588	47	1174
	%	45.9%	50.1%	4.0%	100.0%

学校教育に関して、「学校生活を楽しめれば、良い成績をとることはこだわらない」という意見に対してどう考えるかを尋ねた問いである。全体的に賛否が五分五分に分かれており、どの学園間においても同様の傾向を見ることができる。C学園・D学園において「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」とする回答者の割合がやや高い。クロス集計のカイ二乗検定では学園間に統計的に有意な差は見られなかったが、分散分析では「C>E」という結果が得られた。

Q7-2 あなたは、次のことについて、どのように考えていますか。お子さんにはできるだけ高い学歴を身につけさせたい

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	297	72	31	400
	%	74.3%	18.0%	7.8%	100.0%
B学園	度数	164	84	13	261
	%	62.8%	32.2%	5.0%	100.0%
C学園	度数	49	33	3	85
	%	57.6%	38.8%	3.5%	100.0%
D学園	度数	95	39	4	138
	%	68.8%	28.3%	2.9%	100.0%
E学園	度数	217	66	7	290
	%	74.8%	22.8%	2.4%	100.0%
合計	度数	822	294	58	1174
	%	70.0%	25.0%	4.9%	100.0%

「お子さんにはできるだけ高い学歴を身につけさせたい」という意見に対してどう考えるかを尋ねた問いである。全体的に「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」とする回答者の割合が高く、つくば市における教育期待の大きさが理解できる。A学園・E学園において「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」とする回答者の割合が70%を越え

ている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・E学園での割合が高く、B学園・C学園での割合が低い結果となった。分散分析の群間比較では「A>B・C」および「E>C」という結果が得られた。

(8) あなたのご家庭では、お子さんの教育について、次のことをどれくらい重視していますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

Q8-1 あなたのご家庭では、お子さんの教育について、次のことをどれくらい重視していますか。自分の考えをしっかりと伝えられるようになること

		重視している／どちらかといえば重視している	どちらかといえば重視していない／重視していない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	378	6	16	400
	%	94.5%	1.5%	4.0%	100.0%
B学園	度数	243	7	11	261
	%	93.1%	2.7%	4.2%	100.0%
C学園	度数	80	2	3	85
	%	94.1%	2.4%	3.5%	100.0%
D学園	度数	133	3	2	138
	%	96.4%	2.2%	1.4%	100.0%
E学園	度数	277	6	7	290
	%	95.5%	2.1%	2.4%	100.0%
合計	度数	1111	24	39	1174
	%	94.6%	2.0%	3.3%	100.0%

子どもの教育について、「自分の考えをしっかりと伝えられるようになること」を家庭で重視しているかを尋ねた問いである。重視する回答の割合が総じて高く、90%以上の保護者が「重視している／どちらかといえば重視している」と回答している。統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q8-2 あなたのご家庭では、お子さんの教育について、次のことをどれくらい重視していますか。地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になること

		重視している／どちらかといえば重視している	どちらかといえば重視していない／重視していない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	320	50	30	400
	%	80.0%	12.5%	7.5%	100.0%
B学園	度数	216	34	11	261
	%	82.8%	13.0%	4.2%	100.0%
C学園	度数	75	5	5	85
	%	88.2%	5.9%	5.9%	100.0%
D学園	度数	119	15	4	138
	%	86.2%	10.9%	2.9%	100.0%
E学園	度数	251	32	7	290
	%	86.6%	11.0%	2.4%	100.0%
合計	度数	981	136	57	1174
	%	83.6%	11.6%	4.9%	100.0%

子どもの教育について、「地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になること」を家庭で重視しているかを尋ねた問いである。重視する回答の割合が総じて高く、80%以上の保護者が「重視している／どちらかといえば重視している」と回答している。統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

(9) あなたは、お子さんが通われている学校の教育目標やその達成に向けた方策を知っていますか。

Q9 あなたは、お子さんが通われている学校の教育目標やその達成に向けた方策を知っていますか。

	知っている	知らない	無回答・回答不明瞭	合計	
A学園	度数	217	152	31	400
	%	54.3%	38.0%	7.8%	100.0%
B学園	度数	119	125	17	261
	%	45.6%	47.9%	6.5%	100.0%
C学園	度数	46	34	5	85
	%	54.1%	40.0%	5.9%	100.0%
D学園	度数	63	71	4	138
	%	45.7%	51.4%	2.9%	100.0%
E学園	度数	178	104	8	290
	%	61.4%	35.9%	2.8%	100.0%
合計	度数	623	486	65	1174
	%	53.1%	41.4%	5.5%	100.0%

子どもが通う学校の教育目標およびその達成に向けた方策を、保護者が知っているかを尋ねた問いである。E学園において「知っている」割合が60%を越え、A学園・C学園では50%を越えている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、E学園での「知っている」割合が高く、B学園・D学園での割合が低い結果となった。分散分析の群間比較では「E>B・D」という結果が得られた。

(10) 【(9)で「知っている」とした方にうかがいます。】学校の教育目標やその達成に向けた方策について、共感できていますか。

Q10 【(9)で「知っている」とした方にうかがいます。】学校の教育目標やその達成に向けた方策について、共感できていますか。

	共感できている／どちらかといえば、共感できている	どちらかといえば、共感できない／共感できない	無回答・回答不明瞭	合計	
A学園	度数	206	8	3	217
	%	94.9%	3.7%	1.4%	100.0%
B学園	度数	116	2	1	119
	%	97.5%	1.7%	0.8%	100.0%
C学園	度数	44	1	1	46
	%	95.7%	2.2%	2.2%	100.0%
D学園	度数	60	2	1	63
	%	95.2%	3.2%	1.6%	100.0%
E学園	度数	169	7	2	178
	%	94.9%	3.9%	1.1%	100.0%
合計	度数	595	20	8	623
	%	95.5%	3.2%	1.3%	100.0%

前の問いにおいて、子どもが通う学校の教育目標およびその達成に向けた方策を「知っている」とした保護者に対して、その目標・方策への共感の有無を尋ねた問いである。「共感できている／どちらかといえば、共感できている」とする回答の割合が95%前後となっており、総じて高い。つくば市における教育期待の大きさが理解できる。この点において

統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

(11) あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。(複数回答可)

Q11-1 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。教科の学力をのばす

		該当	非該当	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	165	233	2	400
	%	41.3%	58.3%	0.5%	100.0%
B学園	度数	96	165	0	261
	%	36.8%	63.2%	0.0%	100.0%
C学園	度数	17	68	0	85
	%	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
D学園	度数	59	78	1	138
	%	42.8%	56.5%	0.7%	100.0%
E学園	度数	98	192	0	290
	%	33.8%	66.2%	0.0%	100.0%
合計	度数	435	736	3	1174
	%	37.1%	62.7%	0.3%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として複数の項目を提示し、あてはまるものすべてを選択してもらう問いである。「教科の学力をのばす」ことが選択される割合は、総じて30%以上であるが、C学園でのその割合が低い。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、Aで高く、Cで低い結果となった。分散分析での群間比較では「A・B・D>C」という結果が得られた。A学園の都市型の地域特性を指摘できる。また Q7-1と同様に、C学園において学力や成績以外の事項が重視される傾向がある点に着目できる。

Q11-2 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。学習意欲を高める

		該当	非該当	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	271	128	1	400
	%	67.8%	32.0%	0.3%	100.0%
B学園	度数	163	98	0	261
	%	62.5%	37.5%	0.0%	100.0%
C学園	度数	53	32	0	85
	%	62.4%	37.6%	0.0%	100.0%
D学園	度数	98	39	1	138
	%	71.0%	28.3%	0.7%	100.0%
E学園	度数	201	89	0	290
	%	69.3%	30.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	786	386	2	1174
	%	67.0%	32.9%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「学習意欲を高める」ことが選択される割合は60%を越えており、総じて高い。D学園においてその割合が70%を越えている。統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q11-3 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。 他人とのコミュニケーション能力を高める

		該当	非該当	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	306	93	1	400
	%	76.5%	23.3%	0.3%	100.0%
B学園	度数	194	67	0	261
	%	74.3%	25.7%	0.0%	100.0%
C学園	度数	62	23	0	85
	%	72.9%	27.1%	0.0%	100.0%
D学園	度数	98	39	1	138
	%	71.0%	28.3%	0.7%	100.0%
E学園	度数	234	56	0	290
	%	80.7%	19.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	894	278	2	1174
	%	76.1%	23.7%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「他人とのコミュニケーション能力を高める」ことが選択される割合は70%を越えており、総じて高い。E学園においてその割合が80%を越えている。統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q11-4 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。 外国語を用いてコミュニケーションをとれる力を身に付ける

		該当	非該当	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	109	289	2	400
	%	27.3%	72.3%	0.5%	100.0%
B学園	度数	83	178	0	261
	%	31.8%	68.2%	0.0%	100.0%
C学園	度数	15	70	0	85
	%	17.6%	82.4%	0.0%	100.0%
D学園	度数	41	96	1	138
	%	29.7%	69.6%	0.7%	100.0%
E学園	度数	85	205	0	290
	%	29.3%	70.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	333	838	3	1174
	%	28.4%	71.4%	0.3%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「外国語を用いてコミュニケーションをとれる力を身に付ける」ことが選択される割合は30%弱であり、総じては高くはなかった。B学園でその割合が30%を越え、C学園で20%未満であったが、統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q11-5 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。規範意識や他人を思いやる心を育む

		該当	非該当	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	271	128	1	400
	%	67.8%	32.0%	0.3%	100.0%
B学園	度数	176	85	0	261
	%	67.4%	32.6%	0.0%	100.0%
C学園	度数	61	24	0	85
	%	71.8%	28.2%	0.0%	100.0%
D学園	度数	98	39	1	138
	%	71.0%	28.3%	0.7%	100.0%
E学園	度数	186	104	0	290
	%	64.1%	35.9%	0.0%	100.0%
合計	度数	792	380	2	1174
	%	67.5%	32.4%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「規範意識や他人を思いやる心を育む」ことが選択される割合は60%を越えており、総じて高い。C学園・D学園においてその割合が70%を越えている。統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q11-6 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。地域や社会に貢献する態度を育む

		該当	非該当	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	162	237	1	400
	%	40.5%	59.3%	0.3%	100.0%
B学園	度数	90	171	0	261
	%	34.5%	65.5%	0.0%	100.0%
C学園	度数	34	51	0	85
	%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
D学園	度数	55	82	1	138
	%	39.9%	59.4%	0.7%	100.0%
E学園	度数	122	168	0	290
	%	42.1%	57.9%	0.0%	100.0%
合計	度数	463	709	2	1174
	%	39.4%	60.4%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「地域や社会に貢献する態度を育む」ことが選択される割合は40%程度であった。A学園・C学園・E学園でその割合が40%を越えているが、統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q11-7 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。将来の進路や職業を考えさせる

		該当	非該当	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	176	223	1	400
	%	44.0%	55.8%	0.3%	100.0%
B学園	度数	97	164	0	261
	%	37.2%	62.8%	0.0%	100.0%
C学園	度数	35	50	0	85
	%	41.2%	58.8%	0.0%	100.0%
D学園	度数	57	80	1	138
	%	41.3%	58.0%	0.7%	100.0%
E学園	度数	127	163	0	290
	%	43.8%	56.2%	0.0%	100.0%
合計	度数	492	680	2	1174
	%	41.9%	57.9%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「将来の進路や職業を考えさせる」ことが選択される割合は40%程度であった。B学園においてその割合が40%を下回ったが、統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q11-8 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。体力やスポーツの能力を向上させる

		該当	非該当	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	156	243	1	400
	%	39.0%	60.8%	0.3%	100.0%
B学園	度数	92	169	0	261
	%	35.2%	64.8%	0.0%	100.0%
C学園	度数	34	51	0	85
	%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
D学園	度数	55	82	1	138
	%	39.9%	59.4%	0.7%	100.0%
E学園	度数	102	188	0	290
	%	35.2%	64.8%	0.0%	100.0%
合計	度数	439	733	2	1174
	%	37.4%	62.4%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「体力やスポーツの能力を向上させる」ことが選択される割合は40%弱であった。C学園でその割合が40%を越えているが、統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q11-9 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。健康や食について教える

		該当	非該当	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	110	289	1	400
	%	27.5%	72.3%	0.3%	100.0%
B学園	度数	47	214	0	261
	%	18.0%	82.0%	0.0%	100.0%
C学園	度数	11	74	0	85
	%	12.9%	87.1%	0.0%	100.0%
D学園	度数	32	105	1	138
	%	23.2%	76.1%	0.7%	100.0%
E学園	度数	55	235	0	290
	%	19.0%	81.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	255	917	2	1174
	%	21.7%	78.1%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「健康や食について教える」ことが選択される割合は30%を下回っており、総じては高くはなかった。A学園・D学園においてその割合が20%を越え、C学園でやや低かった。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、Aで高く、Cで低い結果となった。分散分析での群間比較では「A>B・C」という結果が得られた。

Q11-10 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。コンピュータを活用する能力を育てる

		該当	非該当	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	100	299	1	400
	%	25.0%	74.8%	0.3%	100.0%
B学園	度数	65	196	0	261
	%	24.9%	75.1%	0.0%	100.0%
C学園	度数	18	67	0	85
	%	21.2%	78.8%	0.0%	100.0%
D学園	度数	38	99	1	138
	%	27.5%	71.7%	0.7%	100.0%
E学園	度数	93	197	0	290
	%	32.1%	67.9%	0.0%	100.0%
合計	度数	314	858	2	1174
	%	26.7%	73.1%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「コンピュータを活用する能力を育てる」ことが選択される割合は30%弱であり、総じては高くはなかった。E学園でその割合が30%を越えており、D学園でもやや高いことから、新しい校舎・設備との親和的な回答傾向が推察できるが、統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q11-11 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。上記の項目以外

		該当	非該当	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	8	391	1	400
	%	2.0%	97.8%	0.3%	100.0%
B学園	度数	3	258	0	261
	%	1.1%	98.9%	0.0%	100.0%
C学園	度数	0	85	0	85
	%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
D学園	度数	2	135	1	138
	%	1.4%	97.8%	0.7%	100.0%
E学園	度数	4	286	0	290
	%	1.4%	98.6%	0.0%	100.0%
合計	度数	17	1155	2	1174
	%	1.4%	98.4%	0.2%	100.0%

子どもの通う学校に期待する教育や指導として「上記の項目以外」の選択肢も用意したが、総じて選択されることはほとんどなかった。統計的にも有意な学園間の差は見られなかった。

(12) (11) で選択したことについておたずねします。学校は、全体として期待に答えてくれていると思いますか。あてはまるものを選択してください。

Q12 (1)で選択したことについておたずねします。学校は、全体として期待に答えてくれていると思いますか。あてはまるものを選択してください。

		そう思う/どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない/そう思わない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	274	45	81	400
	%	68.5%	11.3%	20.3%	100.0%
B学園	度数	136	84	41	261
	%	52.1%	32.2%	15.7%	100.0%
C学園	度数	53	21	11	85
	%	62.4%	24.7%	12.9%	100.0%
D学園	度数	83	34	21	138
	%	60.1%	24.6%	15.2%	100.0%
E学園	度数	193	48	49	290
	%	66.6%	16.6%	16.9%	100.0%
合計	度数	739	232	203	1174
	%	62.9%	19.8%	17.3%	100.0%

前問で選択された、子どもの通う学校に期待する教育や指導に関して、学校が全体として期待に答えてくれていると思うかを尋ねた問いである。総じては60%の保護者が期待に答えてくれていると回答しており、割合が高い傾向が示されたが、B学園においてその割合は50%強にとどまった。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園で高く、B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「A>B・C・D・E」および「E>B」という結果が得られた。

(13) お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

Q13-1 お子さんが通われている学校の取り組みなど。学校や学級の教育活動に関する情報提供（学校のホームページ、「学校だより」や「学級だより」など）は役に立っている

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	331	35	34	400
	%	82.8%	8.8%	8.5%	100.0%
B学園	度数	202	41	18	261
	%	77.4%	15.7%	6.9%	100.0%
C学園	度数	75	7	3	85
	%	88.2%	8.2%	3.5%	100.0%
D学園	度数	117	15	6	138
	%	84.8%	10.9%	4.3%	100.0%
E学園	度数	225	51	14	290
	%	77.6%	17.6%	4.8%	100.0%
合計	度数	950	149	75	1174
	%	80.9%	12.7%	6.4%	100.0%

子どもが通っている学校の取組みについて、保護者の評価を尋ねた問いである。「学校や学級の教育活動に関する情報提供（学校のホームページ、「学校だより」や「学級だより」など）は役に立っている」に対して、「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合は総じて高く、80%程度となった。B学園・E学園においてその割外が80%を下回り、C学園でやや高い結果となった。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園で高く、E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q13-2 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、学力調査の結果などを使って、学校の学力の状況について説明してくれる

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	258	107	35	400
	%	64.5%	26.8%	8.8%	100.0%
B学園	度数	154	88	19	261
	%	59.0%	33.7%	7.3%	100.0%
C学園	度数	60	22	3	85
	%	70.6%	25.9%	3.5%	100.0%
D学園	度数	87	46	5	138
	%	63.0%	33.3%	3.6%	100.0%
E学園	度数	189	88	13	290
	%	65.2%	30.3%	4.5%	100.0%
合計	度数	748	351	75	1174
	%	63.7%	29.9%	6.4%	100.0%

「学校は、学力調査の結果などを使って、学校の学力の状況について説明してくれる」に対して、「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合は60%

程度であり、総じて高い。C学園でその割合が70%を越え、B学園では60%を下回ったが、統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

Q13-3 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。
学校は、いじめの未然防止や早期発見に取り組んでいる

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	254	98	48	400
	%	63.5%	24.5%	12.0%	100.0%
B学園	度数	138	102	21	261
	%	52.9%	39.1%	8.0%	100.0%
C学園	度数	53	26	6	85
	%	62.4%	30.6%	7.1%	100.0%
D学園	度数	101	30	7	138
	%	73.2%	21.7%	5.1%	100.0%
E学園	度数	177	91	22	290
	%	61.0%	31.4%	7.6%	100.0%
合計	度数	723	347	104	1174
	%	61.6%	29.6%	8.9%	100.0%

「学校は、いじめの未然防止や早期発見に取り組んでいる」に対して、「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合は総じては60%程度であったが、D学園ではその割合が70%を越え、B学園では50%強にとどまった。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・D学園で高く、B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「A・D・E>B」という結果が得られた。

Q13-4 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。
お子さんの教育について、学校の先生に相談したり、要望を伝えたりしやすい

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	274	89	37	400
	%	68.5%	22.3%	9.3%	100.0%
B学園	度数	149	91	21	261
	%	57.1%	34.9%	8.0%	100.0%
C学園	度数	59	22	4	85
	%	69.4%	25.9%	4.7%	100.0%
D学園	度数	98	34	6	138
	%	71.0%	24.6%	4.3%	100.0%
E学園	度数	174	98	18	290
	%	60.0%	33.8%	6.2%	100.0%
合計	度数	754	334	86	1174
	%	64.2%	28.4%	7.3%	100.0%

「お子さんの教育について、学校の先生に相談したり、要望を伝えたりしやすい」に対して、「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合は総じては60%程度であったが、D学園ではその割合が70%を越え、B学園では60%を下回った。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園で高く、B学園・E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「A・C・D>B」という結果が得られた。

Q13-5 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。
学校は、保護者や地域の要望に適切に対応してくれる

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	292	64	44	400
	%	73.0%	16.0%	11.0%	100.0%
B学園	度数	156	82	23	261
	%	59.8%	31.4%	8.8%	100.0%
C学園	度数	65	16	4	85
	%	76.5%	18.8%	4.7%	100.0%
D学園	度数	106	24	8	138
	%	76.8%	17.4%	5.8%	100.0%
E学園	度数	195	74	21	290
	%	67.2%	25.5%	7.2%	100.0%
合計	度数	814	260	100	1174
	%	69.3%	22.1%	8.5%	100.0%

「学校は、保護者や地域の要望に適切に対応してくれる」に対して、「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合は70%程度であり、総じて高い。B学園においてはその割合が60%を下回った。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園で高く、B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「A>B・E」および「D>B」という結果が得られた。

Q13-6 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。
学校は、子どもの安全を考えた取組を行っている（通学・防犯・防災等）

		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない	無回答・回答不明瞭	合計
A学園	度数	339	24	37	400
	%	84.8%	6.0%	9.3%	100.0%
B学園	度数	202	40	19	261
	%	77.4%	15.3%	7.3%	100.0%
C学園	度数	77	4	4	85
	%	90.6%	4.7%	4.7%	100.0%
D学園	度数	114	19	5	138
	%	82.6%	13.8%	3.6%	100.0%
E学園	度数	248	30	12	290
	%	85.5%	10.3%	4.1%	100.0%
合計	度数	980	117	77	1174
	%	83.5%	10.0%	6.6%	100.0%

「学校は、子どもの安全を考えた取組を行っている（通学・防犯・防災等）」に対して、「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合は80%を越えており、総じて高い。C学園においてはその割合が90%を越えており、B学園において80%を下回った。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園で高く、B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「A・E>B」という結果が得られた。

Q13-7 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。
学校は、清掃が行き届き、環境がきれいに整備されている

		あてはまる／どちらか かといえばあてはまる	どちらかといえばあ てはまらない／あて はまらない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	323	41	36	400
	%	80.8%	10.3%	9.0%	100.0%
B学園	度数	190	51	20	261
	%	72.8%	19.5%	7.7%	100.0%
C学園	度数	69	12	4	85
	%	81.2%	14.1%	4.7%	100.0%
D学園	度数	113	20	5	138
	%	81.9%	14.5%	3.6%	100.0%
E学園	度数	229	47	14	290
	%	79.0%	16.2%	4.8%	100.0%
合計	度数	924	171	79	1174
	%	78.7%	14.6%	6.7%	100.0%

「学校は、清掃が行き届き、環境がきれいに整備されている」に対して、「あてはまる／どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合は80%弱であり、総じて高い。A学園・C学園・D学園においてはその割合が80%を越えており、やや高い。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園で高く、B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

(14) お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。
以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

Q14-1 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。保護者と学校の協力関係がしっかりしている

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	314	51	35	400
	%	78.5%	12.8%	8.8%	100.0%
B学園	度数	170	73	18	261
	%	65.1%	28.0%	6.9%	100.0%
C学園	度数	73	9	3	85
	%	85.9%	10.6%	3.5%	100.0%
D学園	度数	110	18	10	138
	%	79.7%	13.0%	7.2%	100.0%
E学園	度数	206	65	19	290
	%	71.0%	22.4%	6.6%	100.0%
合計	度数	873	216	85	1174
	%	74.4%	18.4%	7.2%	100.0%

子どもが通っている学校について、「保護者と学校の協力関係がしっかりしている」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は70%程度であり、総じて高い。C学園においてその割合が80%を越えており、B学園では70%を下回っている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・C学園で高く、B学園・E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「A・C・D>B・E」という結果が得られた。

Q14-2 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。地域と学校の協力関係がしっかりしている

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
		A学園	度数 266 %	266 66.5%	95 23.8%
B学園	度数 159 %	159 60.9%	82 31.4%	20 7.7%	261 100.0%
C学園	度数 73 %	73 85.9%	8 9.4%	4 4.7%	85 100.0%
D学園	度数 101 %	101 73.2%	27 19.6%	10 7.2%	138 100.0%
E学園	度数 173 %	173 59.7%	99 34.1%	18 6.2%	290 100.0%
合計	度数 772 %	772 65.8%	311 26.5%	91 7.8%	1174 100.0%

子どもが通っている学校について、「地域と学校の協力関係がしっかりしている」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は総じては60%を越えている。C学園においてその割合が80%を越えており、E学園では60%を下回っている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、C学園・D学園で高く、B学園・E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「C>A>E」および「C・D>B・E」という結果が得られた。

Q14-3 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。異なる学年間の児童生徒の交流が深い

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
		A学園	度数 270 %	270 67.5%	88 22.0%
B学園	度数 186 %	186 71.3%	56 21.5%	19 7.3%	261 100.0%
C学園	度数 67 %	67 78.8%	15 17.6%	3 3.5%	85 100.0%
D学園	度数 108 %	108 78.3%	20 14.5%	10 7.2%	138 100.0%
E学園	度数 252 %	252 86.9%	24 8.3%	14 4.8%	290 100.0%
合計	度数 883 %	883 75.2%	203 17.3%	88 7.5%	1174 100.0%

子どもが通っている学校について、「異なる学年間の児童生徒の交流が深い」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は総じては70%を越えている。E学園においてその割合が80%を越えており、A学園では70%を下回っている。小中一体型校舎による児童生徒の活動がこの回答傾向に反映されていると見ることができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、E学園で高く、A学園・B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「C・D・E>A・B」という結果が得られた。

Q14-4 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。隣接する学校との児童生徒の交流が深い

		そう思う／どちらか	どちらかといえばそ	無回答・回答	合計
		といえばそう思う	う思わない／そうは		
		思わない	不明瞭		
A学園	度数	187	170	43	400
	%	46.8%	42.5%	10.8%	100.0%
B学園	度数	131	112	18	261
	%	50.2%	42.9%	6.9%	100.0%
C学園	度数	59	21	5	85
	%	69.4%	24.7%	5.9%	100.0%
D学園	度数	85	41	12	138
	%	61.6%	29.7%	8.7%	100.0%
E学園	度数	52	220	18	290
	%	17.9%	75.9%	6.2%	100.0%
合計	度数	514	564	96	1174
	%	43.8%	48.0%	8.2%	100.0%

子どもが通っている学校について、「隣接する学校との児童生徒の交流が深い」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。C学園においてその割合がおよそ70%となる一方、E学園では20%を下回っている。C学園・D学園での児童生徒交流の機会の多さ、E学園での小中一体型校舎・大規模校として性質が、この回答傾向に反映されると見ることができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・B学園・C学園・D学園で高く、E学園で極端に低い結果となった。分散分析での群間比較では「C・D>A・B>E」という結果が得られた。

Q14-5 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。外国語活動や国際交流活動が充実している

		そう思う／どちらか	どちらかといえばそ	無回答・回答	合計
		といえばそう思う	う思わない／そうは		
		思わない	不明瞭		
A学園	度数	242	120	38	400
	%	60.5%	30.0%	9.5%	100.0%
B学園	度数	100	141	20	261
	%	38.3%	54.0%	7.7%	100.0%
C学園	度数	41	40	4	85
	%	48.2%	47.1%	4.7%	100.0%
D学園	度数	60	66	12	138
	%	43.5%	47.8%	8.7%	100.0%
E学園	度数	161	111	18	290
	%	55.5%	38.3%	6.2%	100.0%
合計	度数	604	478	92	1174
	%	51.4%	40.7%	7.8%	100.0%

子どもが通っている学校について、「外国語活動や国際交流活動が充実している」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。A学園においてその割合が60%を越え、E学園で50%を越えている一方、B学園では40%を下回っている。都市型の地域特性の反映をここにも指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園で高く、B学園・D学園で低い結果となった。分散分析での群

間比較では「A>B・C・D・E」および「E>B」という結果が得られた。

Q14-6 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。図書室が充実している

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	191	166	43	400
	%	47.8%	41.5%	10.8%	100.0%
B学園	度数	143	98	20	261
	%	54.8%	37.5%	7.7%	100.0%
C学園	度数	41	38	6	85
	%	48.2%	44.7%	7.1%	100.0%
D学園	度数	87	37	14	138
	%	63.0%	26.8%	10.1%	100.0%
E学園	度数	182	90	18	290
	%	62.8%	31.0%	6.2%	100.0%
合計	度数	644	429	101	1174
	%	54.9%	36.5%	8.6%	100.0%

子どもが通っている学校について、「図書室が充実している」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。D学園・E学園においてその割合が60%を越えている一方、A学園・C学園では50%を下回っている。新しい校舎・設備が整っているか否かという状況の反映をここにも指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、D学園・E学園で高く、A学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「D・E>A・B・C」という結果が得られた。

Q14-7 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。体育館の整備がしっかりしている

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	252	107	41	400
	%	63.0%	26.8%	10.3%	100.0%
B学園	度数	179	62	20	261
	%	68.6%	23.8%	7.7%	100.0%
C学園	度数	52	28	5	85
	%	61.2%	32.9%	5.9%	100.0%
D学園	度数	95	30	13	138
	%	68.8%	21.7%	9.4%	100.0%
E学園	度数	221	52	17	290
	%	76.2%	17.9%	5.9%	100.0%
合計	度数	799	279	96	1174
	%	68.1%	23.8%	8.2%	100.0%

子どもが通っている学校について、「体育館の設備がしっかりしている」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は70%弱であり、総じて高い。E学園においてその割合が70%を越えており、新しい校舎・設備が整っている状況の反映をここにも指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、E学園で高く、A学園で低い結果となった。分散分析で

の群間比較では「D・E>C」という結果が得られた。

Q14-8 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。プールや更衣室の整備がしっかりしている

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	129	230	41	400
	%	32.3%	57.5%	10.3%	100.0%
B学園	度数	39	188	34	261
	%	14.9%	72.0%	13.0%	100.0%
C学園	度数	30	48	7	85
	%	35.3%	56.5%	8.2%	100.0%
D学園	度数	64	60	14	138
	%	46.4%	43.5%	10.1%	100.0%
E学園	度数	123	145	22	290
	%	42.4%	50.0%	7.6%	100.0%
合計	度数	385	671	118	1174
	%	32.8%	57.2%	10.1%	100.0%

子どもが通っている学校について、「プールや更衣室の整備がしっかりしている」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は総じて低く、また学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。D学園・E学園においてその割合が40%を越えている一方、A学園・C学園では30%強であり、またB学園では15%と極端に低い。新しい校舎・設備が整っているか否かという状況の反映をここにも指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、D学園・E学園で高く、B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「D>A・C>B」および「E>B」という結果が得られた。

Q14-9 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。コンピュータや映像機器など、情報・通信教育のための設備がしっかりしている

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	300	54	46	400
	%	75.0%	13.5%	11.5%	100.0%
B学園	度数	145	88	28	261
	%	55.6%	33.7%	10.7%	100.0%
C学園	度数	60	18	7	85
	%	70.6%	21.2%	8.2%	100.0%
D学園	度数	89	35	14	138
	%	64.5%	25.4%	10.1%	100.0%
E学園	度数	248	22	20	290
	%	85.5%	7.6%	6.9%	100.0%
合計	度数	842	217	115	1174
	%	71.7%	18.5%	9.8%	100.0%

子どもが通っている学校について、「コンピュータや映像機器など、情報・通信教育のための設備がしっかりしている」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となっ

た。E学園においてその割合が80%を越えている一方、B学園では60%を下回っている。新しい校舎・設備が整っているか否かという状況の反映をここにも指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・E学園で高く、B学園・D学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「E>A・D>B」および「E>C」という結果が得られた。

Q14-10 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。 備品の整備がしっかりしている

		そう思う/どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない/それは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	265	79	56	400
	%	66.3%	19.8%	14.0%	100.0%
B学園	度数	153	81	27	261
	%	58.6%	31.0%	10.3%	100.0%
C学園	度数	57	21	7	85
	%	67.1%	24.7%	8.2%	100.0%
D学園	度数	99	27	12	138
	%	71.7%	19.6%	8.7%	100.0%
E学園	度数	225	43	22	290
	%	77.6%	14.8%	7.6%	100.0%
合計	度数	799	251	124	1174
	%	68.1%	21.4%	10.6%	100.0%

子どもが通っている学校について、「備品の整備がしっかりしている」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は総じて70%程度であり、学園ごとの性格の違いを表す結果となった。D学園・E学園においてその割合が70%を越えている一方、B学園では60%を下回っている。新しい校舎・設備が整っているか否かという状況の反映をここにも指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、E学園で高く、B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「E>A>B」および「D>B」という結果が得られた。

Q14-11 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。 学校の敷地の広さが十分である

		そう思う/どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない/それは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	196	165	39	400
	%	49.0%	41.3%	9.8%	100.0%
B学園	度数	154	88	19	261
	%	59.0%	33.7%	7.3%	100.0%
C学園	度数	77	5	3	85
	%	90.6%	5.9%	3.5%	100.0%
D学園	度数	103	24	11	138
	%	74.6%	17.4%	8.0%	100.0%
E学園	度数	141	124	25	290
	%	48.6%	42.8%	8.6%	100.0%
合計	度数	671	406	97	1174
	%	57.2%	34.6%	8.3%	100.0%

子どもが通っている学校について、「学校の敷地の広さが十分である」と思うかを尋ねた

問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。C学園においてその割合が90%を越え、極端に高い結果となった一方、A学園・E学園では50%を下回っている。学校の立地状況や規模の大きさを反映した結果だと言える。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、C学園・D学園で高く、A学園・E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「C・D>A・B・E」という結果が得られた。

Q14-12 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。学校の校庭の広さが十分である

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	215	141	44	400
	%	53.8%	35.3%	11.0%	100.0%
B学園	度数	145	99	17	261
	%	55.6%	37.9%	6.5%	100.0%
C学園	度数	73	7	5	85
	%	85.9%	8.2%	5.9%	100.0%
D学園	度数	97	32	9	138
	%	70.3%	23.2%	6.5%	100.0%
E学園	度数	141	130	19	290
	%	48.6%	44.8%	6.6%	100.0%
合計	度数	671	409	94	1174
	%	57.2%	34.8%	8.0%	100.0%

子どもが通っている学校について、「学校の校庭の広さが十分である」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。C学園においてその割合が80%を越え、D学園で70%を越えている一方、E学園では50%を下回っている。学校の立地状況や大規模校であることの反映を、ここにも指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、C学園・D学園で高く、E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「C・D>A・B・E」という結果が得られた。

Q14-13 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。駐車場や送迎用のスペースが十分である

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	99	255	46	400
	%	24.8%	63.8%	11.5%	100.0%
B学園	度数	91	152	18	261
	%	34.9%	58.2%	6.9%	100.0%
C学園	度数	41	40	4	85
	%	48.2%	47.1%	4.7%	100.0%
D学園	度数	58	72	8	138
	%	42.0%	52.2%	5.8%	100.0%
E学園	度数	26	245	19	290
	%	9.0%	84.5%	6.6%	100.0%
合計	度数	315	764	95	1174
	%	26.8%	65.1%	8.1%	100.0%

子どもが通っている学校について、「駐車場や送迎用のスペースが十分である」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、総じては30%未満となり低い結果となった。また、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。C学園・D学園においてはその割合が40%を越える一方、A学園では30%を、E学園では10%を下回っている。学校の立地状況や大規模校であることの反映を、ここにも指摘することができる。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、B学園・C学園・D学園で高く、E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「C・D>A>E」および「B>E」という結果が得られた。

Q14-14 お子さんが通われている学校について、あなたはふたんどどのように考えていますか。校舎が老朽化している

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	227	127	46	400
	%	56.8%	31.8%	11.5%	100.0%
B学園	度数	142	99	20	261
	%	54.4%	37.9%	7.7%	100.0%
C学園	度数	53	28	4	85
	%	62.4%	32.9%	4.7%	100.0%
D学園	度数	60	67	11	138
	%	43.5%	48.6%	8.0%	100.0%
E学園	度数	12	259	19	290
	%	4.1%	89.3%	6.6%	100.0%
合計	度数	494	580	100	1174
	%	42.1%	49.4%	8.5%	100.0%

子どもが通っている学校について、「校舎が老朽化している」と思うかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。E学園においてはその割合が5%未満であり、新しい校舎であることの反映を見ることができる一方、A学園・B学園では50%を、C学園では60%を越えている。これら学園においては、校舎の老朽化の問題を感じている保護者が過半数を占めている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・B学園・C学園で高く、E学園で極端に低い結果となった。分散分析での群間比較では「A・B・C>D>E」という結果が得られた。

Q14-15 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。校舎などに昔からの思い出が残っている

		そう思う／どちらか といえばそう思う	どちらかといえばそ う思わない／そうは 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
		A学園	度数 %	200 50.0%	150 37.5%
B学園	度数 %	141 54.0%	93 35.6%	27 10.3%	261 100.0%
C学園	度数 %	63 74.1%	16 18.8%	6 7.1%	85 100.0%
D学園	度数 %	71 51.4%	57 41.3%	10 7.2%	138 100.0%
E学園	度数 %	19 6.6%	251 86.6%	20 6.9%	290 100.0%
合計	度数 %	494 42.1%	567 48.3%	113 9.6%	1174 100.0%

子どもが通っている学校について、「校舎などに昔からの思い出が残っている」というかを尋ねた問いである。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合は、総じては40%程度であった。E学園においてはその割合が10%未満である一方、C学園では70%を越えており、校舎の新旧の度合いが反映する結果となった。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・B学園・C学園・D学園で高く、E学園で極端に低い結果となった。分散分析での群間比較では「C>A・B・D>E」という結果が得られた。

(15) あなたは、次のようなことをどの程度していますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

Q15-1 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。授業参観や運動会などの学校行事への参加

		よくする／ 時々する	あまりしない／ まったくしない	無回答・回答 不明瞭	合計
		A学園	度数 %	348 87.0%	22 5.5%
B学園	度数 %	240 92.0%	7 2.7%	14 5.4%	261 100.0%
C学園	度数 %	82 96.5%	1 1.2%	2 2.4%	85 100.0%
D学園	度数 %	127 92.0%	6 4.3%	5 3.6%	138 100.0%
E学園	度数 %	274 94.5%	4 1.4%	12 4.1%	290 100.0%
合計	度数 %	1071 91.2%	40 3.4%	63 5.4%	1174 100.0%

保護者の学校への関わりを尋ねた問いである。「授業参観や運動会などの学校行事への参加」に「よくする／時々する」と回答した保護者の割合は90%を越え、総じて高い。C学園においてその割合が96%を越えて最も高く、A学園では90%を下回りやや低い。クロス集計のカイ二乗検定では学園間に統計的に有意な差は見られなかったが、分散分析の群

間比較では「C・E>A」という結果が得られた。

Q15-2 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。 PTA活動や保護者会などへの参加

		よくする/ 時々する	あまりしない/ まったくしない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	289	88	23	400
	%	72.3%	22.0%	5.8%	100.0%
B学園	度数	191	56	14	261
	%	73.2%	21.5%	5.4%	100.0%
C学園	度数	81	2	2	85
	%	95.3%	2.4%	2.4%	100.0%
D学園	度数	118	16	4	138
	%	85.5%	11.6%	2.9%	100.0%
E学園	度数	210	66	14	290
	%	72.4%	22.8%	4.8%	100.0%
合計	度数	889	228	57	1174
	%	75.7%	19.4%	4.9%	100.0%

保護者の学校への関わりを尋ねた問いである。「PTA活動や保護者会などへの参加」に「よくする/時々する」と回答した保護者の割合は70%を越え、総じて高い。C学園においてはその割合が90%を越え、D学園でも80%を越えており、極めて高い結果となっている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、C学園・D学園で高い結果となった。分散分析での群間比較では「C>D>A・B」および「C>D>E」という結果が得られた。

Q15-3 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。学校支援、放課後学習支援、土曜学習支援など、地域と学校の連携・協力に関わる活動へのボランティアとしての参加

		よくする/ 時々する	あまりしない/ まったくしない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	118	250	32	400
	%	29.5%	62.5%	8.0%	100.0%
B学園	度数	67	176	18	261
	%	25.7%	67.4%	6.9%	100.0%
C学園	度数	40	43	2	85
	%	47.1%	50.6%	2.4%	100.0%
D学園	度数	46	87	5	138
	%	33.3%	63.0%	3.6%	100.0%
E学園	度数	95	184	11	290
	%	32.8%	63.4%	3.8%	100.0%
合計	度数	366	740	68	1174
	%	31.2%	63.0%	5.8%	100.0%

保護者の学校への関わりを尋ねた問いである。「学校支援、放課後学習支援、土曜学習支援など、地域と学校の連携・協力に関わる活動へのボランティアとしての参加」に「よくする/時々する」と回答した保護者の割合は総じては30%程度であった。C学園においてはその割合が47%であり、高い結果となっている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的

に有意な結果が得られ、C学園で高く、B学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「C>A・B・D」という結果が得られた。

(16) 地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか。

Q16 地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか。					
		よく参加している/ 時々参加している	あまり参加していな い/まったく参加し ていない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	196	177	27	400
	%	49.0%	44.3%	6.8%	100.0%
B学園	度数	138	108	15	261
	%	52.9%	41.4%	5.7%	100.0%
C学園	度数	63	19	3	85
	%	74.1%	22.4%	3.5%	100.0%
D学園	度数	86	48	4	138
	%	62.3%	34.8%	2.9%	100.0%
E学園	度数	114	162	14	290
	%	39.3%	55.9%	4.8%	100.0%
合計	度数	597	514	63	1174
	%	50.9%	43.8%	5.4%	100.0%

保護者の学校との関わりを尋ねた問いである。「地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか」に対して「よく参加している/時々参加している」と回答した保護者の割合は、学園ごとの性格の違いを大きく表す結果となった。C学園においてはその割合が70%を越え、D学園でも60%を越えている一方、E学園では40%を下回っている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、C学園で高く、E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「C・D>A」、「C>B>E」および「D>E」という結果が得られた。郊外型と都市型の地域特性の違いが反映していると言える。

(17) 地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子どもたちの教育に関わってくれる人が多いと思いますか。

Q17 地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子どもたちの教育に関わってくれる人が多いと思いますか。					
		そう思う/どちらか といえば、そう思う	どちらかといえば、 そう思わない/そう 思わない	無回答・回答 不明瞭	合計
A学園	度数	235	134	31	400
	%	58.8%	33.5%	7.8%	100.0%
B学園	度数	135	112	14	261
	%	51.7%	42.9%	5.4%	100.0%
C学園	度数	67	15	3	85
	%	78.8%	17.6%	3.5%	100.0%
D学園	度数	90	41	7	138
	%	65.2%	29.7%	5.1%	100.0%
E学園	度数	124	148	18	290
	%	42.8%	51.0%	6.2%	100.0%
合計	度数	651	450	73	1174
	%	55.5%	38.3%	6.2%	100.0%

地域の状況について尋ねた問いである。「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、

地域の子どもたちの教育に関わってくれる人が多いと思いますか」に対して「そう思う／どちらかといえば、そう思う」と回答した保護者の割合は、総じては 50%を越えている。C学園においてはその割合が 70%を越えている一方、E学園では 50%を下回っている。クロス集計のカイ二乗検定でも統計的に有意な結果が得られ、A学園・C学園・D学園で高く、E学園で低い結果となった。分散分析での群間比較では「C>A>E」および「C・D>B>E」という結果が得られた。学園ごとの地域特性が反映していると言える。

(18) あなたは、地域や社会で起こっている問題や課題、出来事にどのくらい関心がありますか。あてはまるものを選択してください。

Q18 あなたは、地域や社会で起こっている問題や課題、出来事にどのくらい関心がありますか。あてはまるものを選択してください。					
	関心がある／どちらかといえば、関心がある	どちらかといえば、関心がない／関心がない	無回答・回答不明瞭	合計	
A学園	度数	324	47	29	400
	%	81.0%	11.8%	7.3%	100.0%
B学園	度数	207	40	14	261
	%	79.3%	15.3%	5.4%	100.0%
C学園	度数	75	7	3	85
	%	88.2%	8.2%	3.5%	100.0%
D学園	度数	115	13	10	138
	%	83.3%	9.4%	7.2%	100.0%
E学園	度数	235	42	13	290
	%	81.0%	14.5%	4.5%	100.0%
合計	度数	956	149	69	1174
	%	81.4%	12.7%	5.9%	100.0%

地域や社会に生じる問題・課題・出来事に対する保護者の関心度を尋ねた問いである。「地域や社会で起こっている問題や課題、出来事にどのくらい関心がありますか」に対して、「関心がある／どちらかといえば、関心がある」と回答した保護者の割合は総じて高く、80%を越えている。C学園においてはその割合が88%であり高い結果を示しているが、統計的に有意な学園間の差は見られなかった。

(19) 最後に、つくば市の今後の小中一貫教育について、ご意見がありましたら自由にお書きください。

本調査の末尾に、つくば市の今後の小中一貫教育についての意見を求める自由記述欄を設けた。意見を記入した回答者は197人であり、回答者総数の1,174人の16.8%であった。

特徴の第1として指摘できるのは、子どもが通う学校や保護者自身の置かれた状況よりも、伝聞や世評をふまえた印象を述べる回答が見られた点である。たとえば、以下に挙げるA学園の保護者のコメントはその一例である。

もし施設一体型にするなら、小中学生でグラウンドを分け、それぞれがおびえたり気を使ったりせず、のびのび活動できるようにして欲しい。学区分けをきちんとして、特定の学校がマンモス校化することのないようにして欲しい。運動会を4年生以下、5年生以上で区切るのは良くないと思う。やはり高学年になってから、ようやく自分のことだけではなく他人のこともみたり、係等の責任を果たせたりするようになるので、5、6年生が中心となり運動会の方が見応えもあるし、5、6年生にとっても本領が発揮でき、自分に自信が持てる経験になると思う。

このコメントはE学園の状況についてのものであり、つくば市全体の小中一貫教育、あ

るいはA学園の状況と直ちには結びつかない。ただし、学区分けの重要性や学校の大規模化を防ぐことの必要性を指摘する声はほかにも多く見られ、多くの保護者が注視していることが分かる。

第2に、小中一貫教育それ自体と、一体型校舎による教育とをやや混同しているコメントが見られる。連携型の小中一貫教育について十分に周知され把握されているかに疑問が残る。以下がその一例である。

小中一貫は反対！ 意味がない。特に中学生にとっては負担が増えるだけ。小中一貫にすることで、学校の敷地が狭くなることも問題。プールが9学年で1つとかありえない。今のように「～学園」として行事その他で連携していれば十分だと思う。中学生は心身ともに成長する時期、いつまでも小学校を引きずっているのではダメ！

しかしながら、連携型の小中一貫教育というものを認識している回答者は、むしろ一貫教育の意味について評価している面がある。そのうえで、一体型校舎を建設することへの疑問や心配を表明する意見が多い。以下がその一例である。

一校あたりの生徒数が適正化できれば素晴らしい教育だと思う。小中一貫教育のおかげで小中の保護者同士の協力が進み、地域活動が活性化した。子供もかなり年上の人まで名前と顔が一致して覚えており縦の関係が強化された。

新しく開設される学校については小中一貫でも良いと思いますが、十分な敷地が確保できない地域については無理に統合する必要はないと思います。子供たちが学校でのびのびと活動できる環境を作っていただきたいです。

第3に、E学園の状況については以下に挙げるE学園の保護者の記述のように、学区分けの不徹底・揺らぎによって生じた大規模化の問題を指摘するコメントが多い。

小中一貫により、子供たちが幅広い年代で共に過ごせることにより学べることがとても多いと思いますが、現時点では人数の問題（我が校の場合は多すぎる）により、それが生かされていないように感じております。また先生方がお忙しそうで気の毒です。もっとゆとりのある職場環境（職員の数を増やし、事務作業、部活など外部に委託できる部分は委託して）を作り、その結果子供たち一人一人に目を向け、本来の小学校らしい部分を保ちつつの小中一貫を目指して行ってほしいと思います。

学区や対策など、その場だけの対応があるように思う（教育委員会）。長期展望でのしっかりとした子供のための計画や対応を望む。

第4に、D学園・C学園の保護者においては、登下校の環境に対する要望や不安を表明

するコメントが見られた。

少子化により小中一貫にせざるをえない状況だと思うのですが、まだメリット、デメリットがわからないのが現状だと思います。ただ校舎が新しくなり、大変きれいな感じは、みんなの気持ちも違ってくると思います。バスを乗ってくる子ども達の事が多少心配です。低学年の子どもをバスに乗せるのは大変だと思います。あと気になる点は学校が出来る事で地域の交通の流れが変わってしまう事です。

建物を作る前にまず通学路、その周りの施設の整備をするべきだったと思います。他の市、他県は学校周りの歩道がしっかり整備されています。小中一貫教育にはいろんな意見があると思いますが全て当てはまると思うので、子供たちが笑顔で通えることを願うのみです。E学園のようないじめのない学校にして欲しいです。E学園のいじめは有名です。就学前の保護者の方も知っているぐらいなのでそうならないように！

バス（登下校）利用については希望制で全世帯（児童）にアンケートをとってほしい。回答など、安全面に重点を置いて児童の登下校の状態を理解した上で、保護者が安心して送り出せるようにして欲しい。児童の人数が増えることで、他人の目が一人ひとりに向かなくなるようなことがないようにして欲しい。（学力差を防ぐためにも）

最後に第5として、つくば市の教育行政に対する一般的なリクエストも多数、コメントとして寄せられた。たとえば以下に示すように、教師の多忙に対する心配、老朽化した校舎・設備の更新の必要性、高校進学に向けての学力面での不安、いじめ問題についての心配などがその内容である。

中学生にも子供がおりますが、小中の連携は様々な取り組みがされており満足しています。心配なのは特に中学校の先生方の勤務状況です。平日は夜遅い時間まで保護者への対応や授業の準備、休日は部活と休み時間はあるのでしょうか。土地柄保護者からの要望も多く、中には強く申し立てをする方もいらっしゃると思いますが、先生が保護者の対応に追われ、精神的に余裕がなくなれば、子供たちの指導にも影響が出るのではと思います。学校を塾と同じように考えている方も多くいるようですので、保護者への教育も今後必要になるのではないのでしょうか。

小中一貫になる以前と、今現在とで違いが感じられません。高校受験、大学受験を考えた場合、県立や私立の一貫校との差が大きすぎると感じています。

小中一貫も良いと思うが中高一貫校があったらなと思う。高校受験対策をしていただけとありがたい。9年間も一緒に過ごすので、いじめは早くに対応してほしい。

小中一貫校が定着すればメリットも増えてくるかと思いますが、統合の過渡期に直

面する子供たちをしっかりとフォローしていただかなければ本末転倒だと思っております。そのためにも教職員の方々が無理なく職務を行える環境を作っていただき余裕を持って接していただき、学力差の改善にも配慮いただければと思います。

10ヵ月前に同級生からいじめられ、現在も教室には行けず不登校気味です。4月から合併して小中一貫校になるが、生徒の人数が増え、先生の目が行き行き届かなくなり、いじめが増えるのではと心配しています。

特に今何か（小中一貫について）問題は感じていません。その他のことで感じていることを書かせてください。荷物が多すぎることで、登下校の安全性。自転車置き場の整備、雨の日カッパを自転車置き場に置いて離れの校舎まで歩きます。雨具置き場の整備。

校舎、プールの老朽化は早急に解決すべき課題です。生徒はもちろんですが、先生方のやる気も阻害すると思います。小中一貫教育にはこだわりませんが、校舎の新築のために必要な方策であれば選択肢として考えていいと思います。

雨漏りを直してほしい。

運動場、教室のスペースを確保してほしい。

4. 調査結果からの知見

本調査からの知見を大きく4点に総括して提示したい。

第1に、学園ごとの保護者の回答傾向の特徴は、地域性の違いに由来するところが大きいということである。A学園・E学園のそれは「都市型」と表現することができ、C学園・D学園のそれは「郊外型」と表現することができるだろう。B学園における保護者の回答傾向は、両者の混在として理解することができる。

このことはとくに、Q1の居住年数、Q3の子どもの様子の評価、Q4の施設利用の様態、Q5の子どもの進学段階の希望、Q7・Q9・Q11の学力・学歴観、Q12・Q13・Q14の学校への期待・評価についての回答傾向に表現されている。これらの結果からはまた、A学園とE学園の保護者の回答傾向に「都市型」としての共通性・同質性が強いことも読み取れる。

さらにC学園については、とくに農村的な地域特性として理解できる回答傾向もある。そのことはたとえば、Q2の回答者の続柄、Q7・Q11の学力・学歴観についての回答に表現されている。子どもの成長や学校のあり方に関して、学力や学歴そのもの以上に重視するポイントを複数設定している保護者の意識がうかがえる。

第2に、学園間で保護者の回答傾向に大きな違いが見られない調査項目も多いということである。それらはとくに、Q3の子どもの様子の評価、Q8の子どもの教育についての基本的考え、Q10の学校の教育目標・方策への共感、Q11の学校に期待する教育や指導、Q13の学力状況の説明に対する評価、Q15の学校行事への参加、Q18の地域・社会への問題関心についての回答傾向に表現されている。これらの点においてはどの学園でも同様に、つくば市における学校教育への期待や熱意が示され、また学校教育の成果を評価し、理解している保護者の意識がうかがえる。

第3に、学校施設の古さ・新しさに由来する保護者の回答傾向の違いがある。とくにQ14の施設・設備の評価についての回答傾向に、そのことが表現されている。学校が新しいという点では、E学園とD学園の保護者に共通する意識があり、校地の広さという点ではC学園とD学園の保護者に共通する意識がある。校舎や設備の古さと不便さは、とくにA学園とB学園の保護者に強く認識されていると言える。

さらに、E学園においては校舎や設備が新しいにもかかわらず、学区の区割の不徹底や、その結果として生じた学校の大規模化に由来する不便さ・不具合を認識する傾向があると言える。

第4として、保護者自身の学校行事や地域活動へのコミットメントの強弱に由来する学園間の違いが存在する。このことは、Q15・Q16・Q17の問いへの回答傾向に表現されている。この点に関しては、C学園において保護者と地域・学校との結びつきが強いと言える

対して、そのような結びつきが相対的に弱いのがE学園であると言える。E学園の保護者においては、まず都市型の教育要請が強くなり、そのための学校選択行動などの結果としてE学園義務教育学校の大規模化が生じ、その大規模化を直接の原因とした、保護者と学校の関わり方の弱さや、学校における不便さや不具合などが「問題」となったことが理解できる。それは「小中一貫教育」や「一体型校舎」そのものに由来する事情とは切り分けて考えられるべき「問題」だと言えるだろう。

最後に、自由記述欄に記された意見からは以下のような傾向や論点が示されたと言える。

①小中一貫教育に対するコメントには、一般的によく言われていること（たとえばE学園についての伝聞）を前提として、それに対する印象を述べているものが多いこと。②小中一貫教育それ自体と、一体型校舎による教育とを混同しているコメントが多いこと。③E学園の状況については、区割りの不徹底による大規模化がもたらした「問題」を指摘するコメントが多いこと。④D学園の状況については、登下校の面など教育環境に対する要望や不安が多く表明されていること。⑤教師の多忙に対する心配、老朽化した校舎・設備の更新の要請、高校進学に向けての学力面での不安、いじめ問題についての心配など、つくば市の教育行政に対する一般的なリクエストも多く表明されていること。

資料1] 学校についてのアンケート(保護者調査)「学園別クロス集計・カイニ乗検定結果 (5%水準以上で有意)								
調整済み残差による群間比較								
±1.96以上：5%水準で有意 薄い網掛け)								
±2.58以上：1%水準で有意 濃い網掛け)								
Q1 あなたが現在の住所(現在の校区)に住み始めてから、どのくらいになりますか。およその年数を教えてください。								
	3年未満	3年以上、6年未満	6年以上、12年未満	12年以上、20年未満	20年以上			
A学園	3.3	0.1	3.7	-0.7	-7.4			
B学園	-4.0	-3.3	-1.4	4.0	3.9			
C学園	-2.1	-1.7	-3.3	0.8	7.5			
D学園	-2.5	-2.9	-3.9	2.8	7.5			
E学園	3.4	6.3	2.3	-5.7	-5.9			
Q3-2 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。家庭学習(宿題も含む)が習慣化されている		Q3-3 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。授業がわかると言っている		Q7-2 あなたは、次のことについて、どのように考えていますか。お子さんにはできるだけ高い学歴を身につけさせたい				
	あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない			
A学園	2.4	-2.4	A学園	2.7	-2.7	A学園	3.6	-3.6
B学園	-0.7	0.7	B学園	-4.1	4.1	B学園	-3.1	3.1
C学園	-3.3	3.3	C学園	-3.2	3.2	C学園	-3.0	3.0
D学園	-0.8	0.8	D学園	-1.7	1.7	D学園	-0.8	0.8
E学園	0.6	-0.6	E学園	4.2	-4.2	E学園	1.3	-1.3
Q9 あなたは、お子さんが通われている学校の教育目標やその達成に向けた方策を知っていますか。		Q11-1 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。教科の学力をのばす		Q11-9 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。健康や食について教える				
	知っている	知らない		該当	非該当		該当	非該当
A学園	1.2	-1.2	A学園	2.2	-2.2	A学園	3.5	-3.5
B学園	-2.6	2.6	B学園	-0.1	0.1	B学園	-1.7	1.7
C学園	0.2	-0.2	C学園	-3.4	3.4	C学園	-2.0	2.0
D学園	-2.3	2.3	D学園	1.5	-1.5	D学園	0.5	-0.5
E学園	2.7	-2.7	E学園	-1.4	1.4	E学園	-1.3	1.3
Q12 (11)で選択したことについておたずねします。学校は、全体として期待に答えていると思いますか。あてはまるものを選択してください。		Q13-1 お子さんが通われている学校の取り組みなど。学校や学級の教育活動に関する情報提供(学校のホームページ、「学校だより」や「学級だより」など)は役に立っている		Q13-3 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、いじめの未然防止や早期発見に取り組んでいる				
	そう思う／どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない／そう思わない		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない
A学園	5.0	-5.0	A学園	2.7	-2.7	A学園	2.2	-2.2
B学園	-5.7	5.7	B学園	-1.7	1.7	B学園	-3.8	3.8
C学園	-0.9	0.9	C学園	1.4	-1.4	C学園	-0.1	0.1
D学園	-1.4	1.4	D学園	0.8	-0.8	D学園	2.5	-2.5
E学園	1.7	-1.7	E学園	-2.8	2.8	E学園	-0.6	0.6
Q13-4 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。お子さんの教育について、学校の先生に相談したり、要望を伝えたりしやすい		Q13-5 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、保護者や地域の要望に適切に対応してくれる		Q13-6 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、子どもの安全を考えた取組を行っている(通学・防犯・防災等)				
	あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない		あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない
A学園	3.1	-3.1	A学園	3.4	-3.4	A学園	3.1	-3.1
B学園	-2.7	2.7	B学園	-4.2	4.2	B学園	-3.3	3.3
C学園	0.7	-0.7	C学園	1.0	-1.0	C学園	1.7	-1.7
D学園	1.3	-1.3	D学園	1.6	-1.6	D学園	-1.4	1.4
E学園	-2.2	2.2	E学園	-1.5	1.5	E学園	-0.1	0.1
Q13-7 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、清掃が行き届き、環境がきれいに整備されている		Q14-1 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。保護者と学校の協力関係がしっかりしている		Q14-2 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。地域と学校の協力関係がしっかりしている				
	あてはまる／どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない
A学園	2.8	-2.8	A学園	3.4	-3.4	A学園	1.2	-1.2
B学園	-2.7	2.7	B学園	-4.5	4.5	B学園	-2.1	2.1
C学園	0.2	-0.2	C学園	2.1	-2.1	C学園	3.9	-3.9
D学園	0.2	-0.2	D学園	1.7	-1.7	D学園	2.0	-2.0
E学園	-0.7	0.7	E学園	-2.0	2.0	E学園	-3.2	3.2

Q14-3 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。異なる学年間の児童生徒の交流が深い			Q14-4 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。隣接する学校との児童生徒の交流が深い			Q14-5 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。外国語活動や国際交流活動が充実している		
	そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない
A学園	-3.5	3.5	A学園	2.2	-2.2	A学園	5.2	-5.2
B学園	-2.0	2.0	B学園	2.2	-2.2	B学園	-5.1	5.1
C学園	0.1	-0.1	C学園	4.9	-4.9	C学園	-1.0	1.0
D学園	0.9	-0.9	D学園	4.7	-4.7	D学園	-2.0	2.0
E学園	4.9	-4.9	E学園	-10.9	10.9	E学園	1.3	-1.3
Q14-6 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。図書室が充実している			Q14-7 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。体育館の整備がしっかりしている			Q14-8 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。プールや更衣室の整備がしっかりしている		
	そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない
A学園	-3.1	3.1	A学園	-2.1	2.1	A学園	-0.3	0.3
B学園	-0.2	0.2	B学園	0.1	-0.1	B学園	-6.8	6.8
C学園	-1.5	1.5	C学園	-1.9	1.9	C学園	0.4	-0.4
D学園	2.5	-2.5	D学園	0.5	-0.5	D学園	3.7	-3.7
E学園	2.7	-2.7	E学園	3.0	-3.0	E学園	3.7	-3.7
Q14-9 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。コンピュータや映像機器など、情報・通信教育のための設備がしっかりしている			Q14-10 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。備品の整備がしっかりしている			Q14-11 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。学校の敷地の広さが十分である		
	そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない
A学園	3.0	-3.0	A学園	0.5	-0.5	A学園	-3.9	3.9
B学園	-7.4	7.4	B学園	-4.4	4.4	B学園	0.5	-0.5
C学園	-0.6	0.6	C学園	-0.6	0.6	C学園	6.1	-6.1
D学園	-2.3	2.3	D学園	0.7	-0.7	D学園	4.7	-4.7
E学園	5.8	-5.8	E学園	3.5	-3.5	E学園	-3.5	3.5
Q14-12 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。学校の校庭の広さが十分である			Q14-13 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。駐車場や送迎用のスペースが十分である			Q14-14 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。校舎が老朽化している		
	そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない
A学園	-0.8	0.8	A学園	-0.6	0.6	A学園	8.4	-8.4
B学園	-1.0	1.0	B学園	3.2	-3.2	B学園	4.6	-4.6
C学園	5.6	-5.6	C学園	4.4	-4.4	C学園	3.7	-3.7
D学園	3.3	-3.3	D学園	4.1	-4.1	D学園	0.3	-0.3
E学園	-4.0	4.0	E学園	-8.2	8.2	E学園	-15.9	15.9
Q14-15 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。校舎などに昔からの思い出が残っている			Q15-2 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。PTA活動や保護者会などへの参加			Q15-3 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。学校支援、放課後学習支援、土曜学習支援など、地域と学校の連携・協力に関わる活動へのボランティアとしての		
	そう思う／どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない／そうは思わない		よくする／時々する	あまりしない／まったくしない		よくする／時々する	あまりしない／まったくしない
A学園	4.8	-4.8	A学園	-1.7	1.7	A学園	-0.5	0.5
B学園	4.8	-4.8	B学園	-1.0	1.0	B学園	-2.1	2.1
C学園	6.1	-6.1	C学園	4.2	-4.2	C学園	3.0	-3.0
D学園	2.2	-2.2	D学園	2.6	-2.6	D学園	0.4	-0.4
E学園	-15.1	15.1	E学園	-1.7	1.7	E学園	0.4	-0.4
Q16 地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか。			Q17 地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子どものための教育に関わってくれる人が多いと思いますか。					
	よく参加している／時々参加している	あまり参加していない／まったく参加していない		そう思う／どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない／そうは思わない			
A学園	-0.6	0.6	A学園	2.2	-2.2			
B学園	0.8	-0.8	B学園	-1.6	1.6			
C学園	4.4	-4.4	C学園	4.3	-4.3			
D学園	2.6	-2.6	D学園	2.4	-2.4			
E学園	-4.8	4.8	E学園	-5.2	5.2			

資料2] 学校についてのアンケート(保護者調査)「学園別集計-分散分析結果(5%水準以上で有意)

記述統計			多重比較(5%水準で有意な差に網掛け)						
	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q1 あなたが現在の住所(現在の校区)に住み始めてから、どのくらいになりますか。およその年数を教えてください。	A学園	373	9.36	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	248	13.74	B学園	-4.385*	-6.822*	-6.371*	1.328*	
	C学園	84	16.18	C学園	4.385*	-2.437*	-1.986*	5.713*	
	D学園	136	15.73	D学園	6.822*	2.437*	0.451	8.150*	
	E学園	278	8.03	E学園	6.371*	1.986*	-0.451	7.699*	
	合計	1119	11.29	E学園	-1.328*	-5.713*	-8.150*	-7.699*	
Q3-1 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。学校に行くことを楽しみにしている	A学園	388	3.30	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	249	3.24	B学園	0.054	0.054	-0.022	-0.069	-0.148
	C学園	84	3.32	C学園	-0.054	-0.054	-0.076	-0.123	-0.202*
	D学園	136	3.37	D学園	0.022	0.022	0.076	-0.046	-0.125
	E学園	282	3.45	E学園	0.069	0.069	0.123	0.046	-0.079
	合計	1139	3.33	E学園	0.148	0.148	0.202*	0.125	0.079
Q3-2 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。家庭学習(宿題も含む)が習慣化されている	A学園	387	3.18	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	249	3.04	B学園	0.136	0.136	.387*	0.154	0.010
	C学園	85	2.79	C学園	-0.136	-0.136	0.252	0.018	-0.126
	D学園	137	3.02	D学園	-0.387*	-0.387*	-0.252	-0.234	-0.378*
	E学園	283	3.17	E学園	-0.154	-0.154	0.234	0.144	-0.144
	合計	1141	3.10	E学園	-0.010	-0.010	0.126	.378*	0.144
Q3-3 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。授業がわかると言っている	A学園	385	3.19	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	248	2.94	B学園	0.249*	0.249*	.323*	.266*	-0.059
	C学園	84	2.87	C学園	-0.249*	-0.249*	0.075	0.018	-0.307*
	D学園	135	2.93	D学園	-0.323*	-0.323*	-0.075	-0.057	-0.382*
	E学園	279	3.25	E学園	-0.266*	-0.266*	0.057	0.325*	-0.325*
	合計	1131	3.10	E学園	0.059	0.059	.307*	.325*	
Q3-7 お子さんのふだんの様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。友達を傷つけるような言葉や行いをしないで、仲良くしている	A学園	386	3.49	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	247	3.44	B学園	0.052	0.052	.313*	0.122	-0.048
	C学園	85	3.18	C学園	-0.052	-0.052	.261*	0.070	-0.100
	D学園	136	3.37	D学園	-0.313*	-0.313*	-0.191	-0.191	-0.361*
	E学園	281	3.54	E学園	-0.122	-0.122	0.191	0.170*	-0.170*
	合計	1135	3.45	E学園	0.048	0.048	.361*	.170*	
Q4-1 あなたのご家庭では、お子さんと一緒に次の施設にどれくらい行きますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。美術館や劇場	A学園	365	3.25	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	241	3.01	B学園	0.234	0.234	.681*	1.031*	0.099
	C学園	76	2.57	C学園	-0.234	-0.234	0.447	.797*	-0.135
	D学園	116	2.22	D学園	-0.681*	-0.681*	-0.447	0.350	-0.582*
	E学園	271	3.15	E学園	-1.031*	-1.031*	-0.350	.932*	-0.932*
	合計	1069	3.01	E学園	-0.099	-0.099	0.135	.582*	.932*
Q4-2 あなたのご家庭では、お子さんと一緒に次の施設にどれくらい行きますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。博物館や科学館	A学園	368	3.62	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	243	3.19	B学園	.428*	.428*	.605*	.897*	0.002
	C学園	81	3.01	C学園	-0.428*	-0.428*	0.177	.469*	-0.426*
	D学園	125	2.72	D学園	-0.605*	-0.605*	-0.177	0.292	-0.603*
	E学園	278	3.62	E学園	-0.897*	-0.897*	-0.292	.895*	-0.895*
	合計	1095	3.37	E学園	-0.002	-0.002	.603*	.895*	
Q4-3 あなたのご家庭では、お子さんと一緒に次の施設にどれくらい行きますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。図書館	A学園	372	4.60	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	241	3.58	B学園	1.016*	1.016*	.820*	1.093*	0.177
	C学園	85	3.78	C学園	-1.016*	-1.016*	-0.196	0.077	-0.838*
	D学園	131	3.50	D学園	-0.820*	-0.820*	0.196	0.273	-0.643*
	E学園	279	4.42	E学園	-1.093*	-1.093*	-0.273	.916*	-0.916*
	合計	1108	4.14	E学園	-0.177	-0.177	.838*	.643*	.916*
Q5 お子さんの将来のことについておたずねします。あなたは、お子さんにどの段階の学校まで進んでほしいと思っていますか。現在のお考えにもっとも近いものを1つ選択してください。	A学園	360	5.02	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	245	4.41	B学園	.607*	.607*	1.097*	.904*	0.023
	C学園	77	3.92	C学園	-0.607*	-0.607*	.490*	.293*	-0.584*
	D学園	130	4.12	D学園	-1.097*	-1.097*	-0.490*	-0.197	-1.074*
	E学園	272	5.00	E学園	-0.904*	-0.904*	0.193	.881*	-0.881*
	合計	1084	4.69	E学園	-0.023	-0.023	.584*	1.074*	.881*
Q7-1 あなたは、次のことについて、どのように考えていますか。学校生活が楽しければ、良い成績をとることはこだわらない	A学園	379	2.45	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	249	2.47	B学園	0.016	0.016	-0.193	-0.091	0.100
	C学園	82	2.65	C学園	0.193	0.193	0.176	0.102	.293*
	D学園	134	2.54	D学園	0.091	0.091	-0.102	0.191	0.191
	E学園	283	2.35	E学園	-0.100	-0.100	-.293*	-0.191	
	合計	1127	2.46	E学園					
Q7-2 あなたは、次のことについて、どのように考えていますか。お子さんにはできるだけ高い学歴を身につけさせたい	A学園	369	3.03	A学園	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園
	B学園	248	2.80	B学園	.229*	.229*	.344*	0.206	0.070
	C学園	82	2.68	C学園	-0.229*	-0.229*	0.115	-0.023	-0.159
	D学園	134	2.82	D学園	-.344*	-.344*	-0.115	-0.138	-.275*
	E学園	283	2.96	E学園	-0.206	-0.206	0.138	0.137	-0.137
	合計	1116	2.91	E学園	-0.070	-0.070	.275*	0.137	

		度数	平均値		A 学園	B 学園	C 学園	D 学園	E 学園
Q9 あなたは、お子さんが通われている学校の教育目標やその達成に向けた方策を知っていますか。	A 学園	369	0.59	A 学園		0.100	0.013	0.118	-0.043
	B 学園	244	0.49	B 学園	-0.100		-0.087	0.018	-0.144*
	C 学園	80	0.58	C 学園	-0.013	0.087		0.105	-0.056
	D 学園	134	0.47	D 学園	-0.118	-0.018	-0.105		-0.161*
	E 学園	282	0.63	E 学園	0.043	0.144*	0.056	0.161*	
	合計	1109	0.56						
Q11-1 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。教科の学力をのばす	A 学園	398	0.41	A 学園		0.047	0.215*	-0.016	0.077
	B 学園	261	0.37	B 学園	-0.047		0.168*	-0.063	0.030
	C 学園	85	0.20	C 学園	-0.215*	-0.168*		-0.231*	-0.138
	D 学園	137	0.43	D 学園	0.016	0.063	0.231*		0.093
	E 学園	290	0.34	E 学園	-0.077	-0.030	0.138	-0.093	
	合計	1171	0.37						
Q11-9 あなたが、お子さんの通っている学校に期待する教育や指導は何ですか。あてはまるものすべてを選択してください。健康や食について教える	A 学園	399	0.28	A 学園		0.096*	0.146*	0.042	0.086
	B 学園	261	0.18	B 学園	-0.096*		0.051	-0.054	-0.010
	C 学園	85	0.13	C 学園	-0.146*	-0.051		-0.104	-0.060
	D 学園	137	0.23	D 学園	-0.042	0.054	0.104		0.044
	E 学園	290	0.19	E 学園	-0.086	0.010	0.060	-0.044	
	合計	1172	0.22						
Q12 (11) で選択したことについておたずねします。学校は、全体として期待に応じてくれていると思いますか。あてはまるものを選択してください。	A 学園	319	2.97	A 学園		0.385*	0.215*	0.211*	0.154*
	B 学園	220	2.59	B 学園	-0.385*		-0.170	-0.174	-0.231*
	C 学園	74	2.76	C 学園	-0.215*	0.170		-0.004	-0.061
	D 学園	117	2.76	D 学園	-0.211*	0.174	0.004		-0.057
	E 学園	241	2.82	E 学園	-0.154*	0.231*	0.061	0.057	
	合計	971	2.80						
Q13-1 お子さんが通われている学校の取り組みなど。学校や学級の教育活動に関する情報提供(学校のホームページ、「学校だより」や「学級だより」など)は役に立っている	A 学園	366	3.25	A 学園		0.148	-0.041	0.085	0.135
	B 学園	243	3.10	B 学園	-0.148		-0.190	-0.064	-0.013
	C 学園	82	3.29	C 学園	0.041	0.190		0.126	0.177
	D 学園	132	3.17	D 学園	-0.085	0.064	-0.126		0.051
	E 学園	276	3.12	E 学園	-0.135	0.013	-0.177	-0.051	
	合計	1099	3.18						
Q13-3 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、いじめの未然防止や早期発見に取り組んでいる	A 学園	352	2.80	A 学園		0.286*	0.089	-0.087	0.067
	B 学園	240	2.51	B 学園	-0.286*		-0.196	-0.373*	-0.219*
	C 学園	79	2.71	C 学園	-0.089	0.196		-0.177	-0.022
	D 学園	131	2.89	D 学園	0.087	0.373*	0.177		0.154
	E 学園	268	2.73	E 学園	-0.067	0.219*	0.022	-0.154	
	合計	1070	2.72						
Q13-4 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。お子さんの教育について、学校の先生に相談したり、要望を伝えたりしやすい	A 学園	363	2.95	A 学園		0.264*	-0.028	0.031	0.168
	B 学園	240	2.68	B 学園	-0.264*		-0.292*	-0.233*	-0.096
	C 学園	81	2.98	C 学園	0.028	0.292*		0.059	0.196
	D 学園	132	2.92	D 学園	-0.031	0.233*	-0.059		0.137
	E 学園	272	2.78	E 学園	-0.168	0.096	-0.196	-0.137	
	合計	1088	2.85						
Q13-5 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、保護者や地域の要望に適切に対応してくれる	A 学園	356	2.97	A 学園		0.260*	0.040	0.043	0.182*
	B 学園	238	2.71	B 学園	-0.260*		-0.220	-0.217*	-0.079
	C 学園	81	2.93	C 学園	-0.040	0.220		0.003	0.142
	D 学園	130	2.92	D 学園	-0.043	0.217*	-0.003		0.139
	E 学園	269	2.78	E 学園	-0.182*	0.079	-0.142	-0.139	
	合計	1074	2.85						
Q13-6 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、子どもの安全を考えた取組を行っている(通学・防犯・防災等)	A 学園	363	3.23	A 学園		0.244*	0.034	0.134	0.059
	B 学園	242	2.99	B 学園	-0.244*		-0.210	-0.110	-0.185*
	C 学園	81	3.20	C 学園	-0.034	0.210		0.100	0.025
	D 学園	133	3.10	D 学園	-0.134	0.110	-0.100		-0.075
	E 学園	278	3.17	E 学園	-0.059	0.185*	-0.025	0.075	
	合計	1097	3.14						
Q13-7 お子さんが通われている学校の取り組みなどについておたずねします。学校は、清掃が行き届き、環境がきれいに整備されている	A 学園	364	3.11	A 学園		0.132	0.119	-0.051	0.093
	B 学園	241	2.98	B 学園	-0.132		-0.013	-0.183	-0.039
	C 学園	81	2.99	C 学園	-0.119	0.013		-0.170	-0.027
	D 学園	133	3.16	D 学園	0.051	0.183	0.170		0.143
	E 学園	276	3.01	E 学園	-0.093	0.039	0.027	-0.143	
	合計	1095	3.05						
Q14-1 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。保護者と学校の協力関係がしっかりしている	A 学園	365	3.04	A 学園		0.304*	-0.069	0.010	0.203*
	B 学園	243	2.74	B 学園	-0.304*		-0.373*	-0.295*	-0.101
	C 学園	82	3.11	C 学園	0.069	0.373*		0.079	0.272*
	D 学園	128	3.03	D 学園	-0.010	0.295*	-0.079		0.194*
	E 学園	271	2.84	E 学園	-0.203*	0.101	-0.272*	-0.194*	
	合計	1089	2.93						

	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-2 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。地域と学校の協力関係がしっかりしている	A学園	361	2.86	A学園	0.138	-.280*	-0.089	.179*
	B学園	241	2.72	B学園	-0.138	-.418*	-.227*	0.041
	C学園	81	3.14	C学園	.280*	.418*	0.190	.459*
	D学園	128	2.95	D学園	0.089	.227*	-0.190	.269*
	E学園	272	2.68	E学園	-.179*	-0.041	-.459*	-.269*
	合計	1083	2.81					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-3 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。異なる学年間の児童生徒の交流が深い	A学園	358	2.91	A学園	-0.021	-.278*	-.251*	-.421*
	B学園	242	2.93	B学園	0.021	-.257*	-.231*	-.400*
	C学園	82	3.18	C学園	.278*	.257*	0.027	-0.143
	D学園	128	3.16	D学園	.251*	.231*	-0.027	-0.170
	E学園	276	3.33	E学園	.421*	.400*	0.143	0.170
	合計	1086	3.07					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-4 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。隣接する学校との児童生徒の交流が深い	A学園	357	2.54	A学園	-0.016	-.340*	-.330*	.579*
	B学園	243	2.55	B学園	0.016	-.324*	-.314*	.596*
	C学園	80	2.88	C学園	.340*	.324*	0.010	.919*
	D学園	126	2.87	D学園	.330*	.314*	-0.010	.909*
	E学園	272	1.96	E学園	-.579*	-.596*	-.919*	-.909*
	合計	1078	2.46					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-5 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。外国語活動や国際交流活動が充実している	A学園	362	2.77	A学園	.397*	.289*	.318*	.168*
	B学園	241	2.37	B学園	-.397*	-0.108	-0.079	-.229*
	C学園	81	2.48	C学園	-.289*	0.108	0.029	-0.121
	D学園	126	2.45	D学園	-.318*	0.079	-0.029	-0.151
	E学園	272	2.60	E学園	-.168*	.229*	0.121	0.151
	合計	1082	2.58					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-6 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。図書室が充実している	A学園	357	2.51	A学園	-0.043	0.006	-.310*	-.282*
	B学園	241	2.56	B学園	0.043	0.050	-.267*	-.238*
	C学園	79	2.51	C学園	-0.006	-0.050	-.316*	-.288*
	D学園	124	2.82	D学園	.310*	.267*	.316*	0.028
	E学園	272	2.79	E学園	.282*	.238*	.288*	-0.028
	合計	1073	2.63					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-7 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。体育館の整備がしっかりしている	A学園	359	2.83	A学園	-0.005	0.120	-0.175	-0.145
	B学園	241	2.84	B学園	0.005	0.126	-0.170	-0.140
	C学園	80	2.71	C学園	-0.120	-0.126	-.296*	-.266*
	D学園	125	3.01	D学園	0.175	0.170	.296*	0.030
	E学園	273	2.98	E学園	0.145	0.140	.266*	-0.030
	合計	1078	2.88					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-8 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。プールや更衣室の整備がしっかりしている	A学園	359	2.24	A学園	.469*	0.124	-.301*	-0.107
	B学園	227	1.77	B学園	-.469*	-.344*	-.769*	-.576*
	C学園	78	2.12	C学園	-0.124	.344*	-.425*	-0.232
	D学園	124	2.54	D学園	.301*	.769*	.425*	0.193
	E学園	268	2.35	E学園	0.107	.576*	0.232	-0.193
	合計	1056	2.19					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-9 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。コンピュータや映像機器など、情報・通信教育のための設備がしっかりしている	A学園	354	3.03	A学園	.372*	0.221	0.101	-.183*
	B学園	233	2.66	B学園	-.372*	-0.151	-.271*	-.554*
	C学園	78	2.81	C学園	-0.221	0.151	-0.120	-.403*
	D学園	124	2.93	D学園	-0.101	.271*	0.120	-.284*
	E学園	270	3.21	E学園	.183*	.554*	.403*	.284*
	合計	1059	2.97					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-10 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。備品の整備がしっかりしている	A学園	344	2.84	A学園	.188*	0.042	-0.107	-.170*
	B学園	234	2.65	B学園	-.188*	-0.145	-.295*	-.358*
	C学園	78	2.79	C学園	-0.042	0.145	-0.150	-0.213
	D学園	126	2.94	D学園	0.107	.295*	0.150	-0.063
	E学園	268	3.01	E学園	.170*	.358*	0.213	0.063
	合計	1050	2.85					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-11 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。学校の敷地の広さが十分である	A学園	361	2.51	A学園	-0.202	-.792*	-.582*	-0.057
	B学園	242	2.71	B学園	0.202	-.590*	-.380*	0.145
	C学園	82	3.30	C学園	.792*	.590*	0.210	.735*
	D学園	127	3.09	D学園	.582*	.380*	-0.210	.525*
	E学園	265	2.57	E学園	0.057	-0.145	-.735*	-.525*
	合計	1077	2.70					
	度数	平均値	A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-12 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんのように考えていますか。学校の校庭の広さが十分である	A学園	356	2.59	A学園	-0.045	-.685*	-.449*	0.047
	B学園	244	2.64	B学園	0.045	-.640*	-.404*	0.093
	C学園	80	3.28	C学園	.685*	.640*	0.236	.733*
	D学園	129	3.04	D学園	.449*	.404*	-0.236	.496*
	E学園	271	2.54	E学園	-0.047	-0.093	-.733*	-.496*
	合計	1080	2.69					

	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
Q14-13 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。 駐車場や送迎用のスペースが十分である	A学園	354	2.02	A学園		-0.499*	-0.373*	.525*	
	B学園	243	2.21	B学園	0.194	-0.305	-0.178	.720*	
	C学園	81	2.52	C学園	.499*	0.305	0.126	1.024*	
	D学園	130	2.39	D学園	.373*	0.178	-0.126	.898*	
	E学園	271	1.49	E学園	-.525*	-.720*	-1.024*	-.898*	
	合計	1079	2.01						
Q14-14 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。 校舎が老朽化している	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
	A学園	354	2.84	A学園		0.094	-0.044	.561*	1.645*
	B学園	241	2.75	B学園	-0.094		-0.138	.468*	1.552*
	C学園	81	2.89	C学園	0.044	0.138		.605*	1.690*
	D学園	127	2.28	D学園	-.561*	-.468*	-.605*		1.084*
	E学園	271	1.20	E学園	-1.645*	-1.552*	-1.690*	-1.084*	
合計	1074	2.35							
Q14-15 お子さんが通われている学校について、あなたはふだんどのように考えていますか。 校舎などに昔からの思い出が残っている	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
	A学園	350	2.57	A学園		-0.081	-.609*	0.069	1.232*
	B学園	234	2.65	B学園	0.081		-.528*	0.150	1.313*
	C学園	79	3.18	C学園	.609*	.528*		.677*	1.840*
	D学園	128	2.50	D学園	-0.069	-0.150	-.677*		1.163*
	E学園	270	1.34	E学園	-1.232*	-1.313*	-1.840*	-1.163*	
合計	1061	2.31							
Q15-1 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。 授業参観や運動会などの学校行事への参加	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
	A学園	370	3.60	A学園		-0.122	-.265*	-0.097	-.153*
	B学園	247	3.72	B学園	0.122		-0.143	0.025	-0.031
	C学園	83	3.87	C学園	.265*	0.143		0.168	0.112
	D学園	133	3.70	D学園	0.097	-0.025	-0.168		-0.056
	E学園	278	3.76	E学園	.153*	0.031	-0.112	0.056	
合計	1111	3.70							
Q15-2 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。 PTA活動や保護者会などへの参加	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
	A学園	377	3.05	A学園		-0.058	-.663*	-.303*	-0.025
	B学園	247	3.11	B学園	0.058		-.606*	-.245*	0.033
	C学園	83	3.72	C学園	.663*	.606*		.360*	.638*
	D学園	134	3.35	D学園	.303*	.245*	-.360*		.278*
	E学園	276	3.07	E学園	0.025	-0.033	-.638*	-.278*	
合計	1117	3.15							
Q15-3 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。 学校支援、放課後学習支援、土曜学習支援など、地域と学校の連携・協力に関わる活動へのボランティアとしての参加	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
	A学園	368	2.14	A学園		0.074	-.350*	-0.014	-0.064
	B学園	243	2.07	B学園	-0.074		-.424*	-0.088	-0.138
	C学園	83	2.49	C学園	.350*	.424*		.336*	0.286
	D学園	133	2.16	D学園	0.014	0.088	-.336*		-0.050
	E学園	279	2.21	E学園	0.064	0.138	-0.286	0.050	
合計	1106	2.17							
Q16 地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか。	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
	A学園	373	2.46	A学園		-0.130	-.512*	-.379*	0.163
	B学園	246	2.59	B学園	0.130		-.382*	-0.250	.293*
	C学園	82	2.98	C学園	.512*	.382*		0.132	.675*
	D学園	134	2.84	D学園	.379*	0.250	-0.132		.543*
	E学園	276	2.30	E学園	-0.163	-.293*	-.675*	-.543*	
合計	1111	2.54							
Q17 地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子どもの教育に関わってくれる人が多いと思いますか。	度数	平均値		A学園	B学園	C学園	D学園	E学園	
	A学園	369	2.63	A学園		0.131	-.396*	-0.127	.320*
	B学園	247	2.50	B学園	-0.131		-.526*	-.258*	.189*
	C学園	82	3.02	C学園	.396*	.526*		0.269	.716*
	D学園	131	2.76	D学園	0.127	.258*	-0.269		.447*
	E学園	272	2.31	E学園	-.320*	-.189*	-.716*	-.447*	
合計	1101	2.56							

IV 部

教員の意識調査

「小中一貫教育に関するアンケート（教職員）」の回答結果の分析及び考察

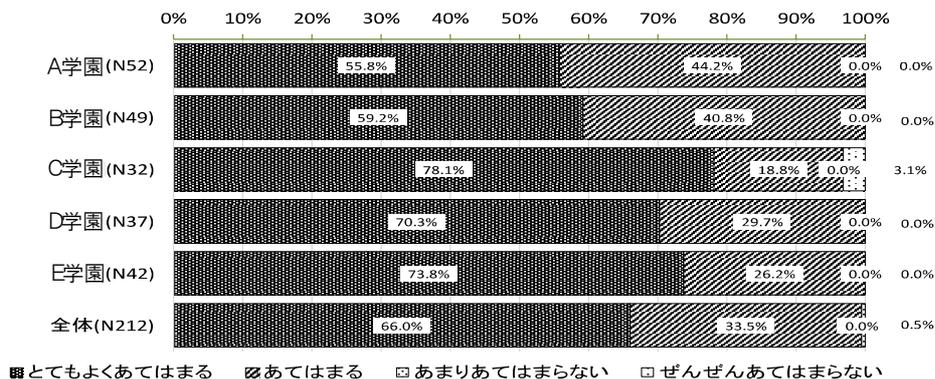
I 調査の概要

- 1 教職員のアンケートについては、つくば市総合教育研究所が実施した平成27年度および平成29年度の調査結果をもとに分析した。ただし、年度で質問項目が異なるものについては、平成29年度の調査結果を中心に検討した。
- 2 平成27年度調査は平成28年2月、平成29年度調査は平成30年2月に実施した。
- 3 平成27年度は331人（小学校222人、中学校109人）、平成29年度は366人（小学校247人、中学校119人）の回答数であった。
- 4 今回のアンケートについては、つくば市総合教育研究所の調査結果をもとに分析するが、以下の2点については調査結果から全体的な傾向を類推した。
 - (1) 教員は、その経験年数により研修実績や教育実践経験の差が大きく、そのことが教職員の意識の変容や研修意欲、他校種から受ける影響等にどのように関連しているか。
 - (2) 学校（学園）の教育活動の実施にあたっては、小中合同で行う研修の機会や持ち方、組織の作り方等の違いがある。そのため、小中一貫の実施だけを持って授業改善や学力向上と明確に関連付けるのは難しく、全教育活動の中で、小中一貫教育がどの程度の影響をもたらしているか。
- 5 考察にあたっては、設問の内容によりE学園の前期を小学校、後期を中学校として扱った。
- 6 抽出学園別のデータをもとに施設一体型、施設連携型の比較や学園ごとの小中一貫教育に対する教職員の意識や取組みの実態について比較した。
- 7 平成27年度と平成29年度では、学園名が変更されている点を考慮した。

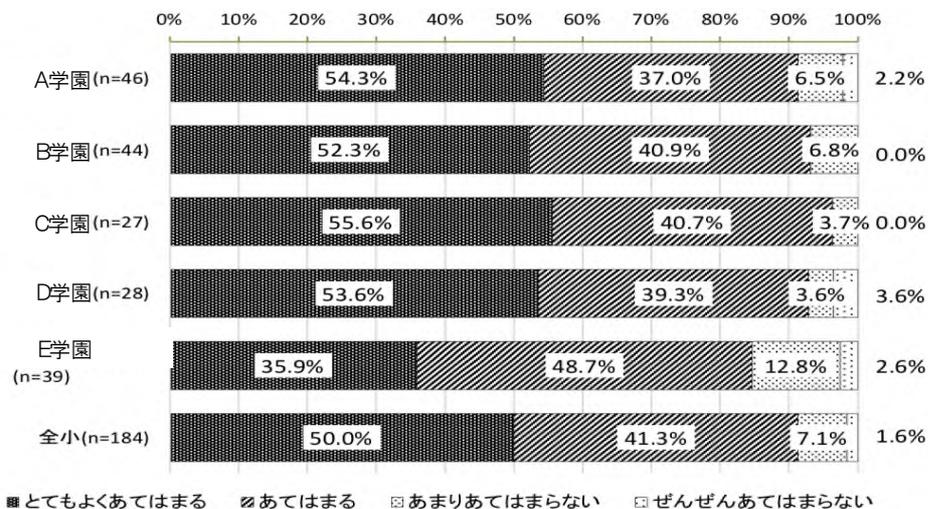
II 調査結果の分析及び考察

1 教科担任制の効果を実感している

（平成27年度 小学校のみ）



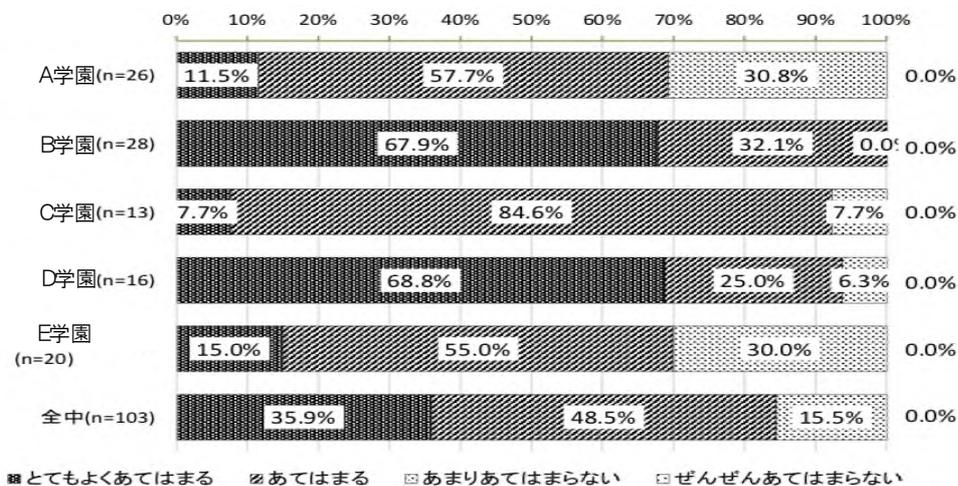
平成29年度 小学校のみ)



- ・全小学校平均が9割を超え、各学園とも教科担任制を実施し、積極的な取り組みとともに効果を実感している。
- ・教科担任制については、本来各教科の免許を有している教員が専門的な指導に当たることにより、児童の興味・関心を高め、意欲的な活動を導き出すことをねらいとしているが、小学校においては複数の担任間において、各教科の免許はなくてもそれぞれ教科を分担や交換するなどして、得意教科の教材の準備に十分な時間をとって指導に当たっている。
- ・Eの数値が下がっているが、ヒヤリングによると1学年あたりの学級数が多く、授業交換や専門教科の教員をうまく配置できないなどの理由が考えられる。

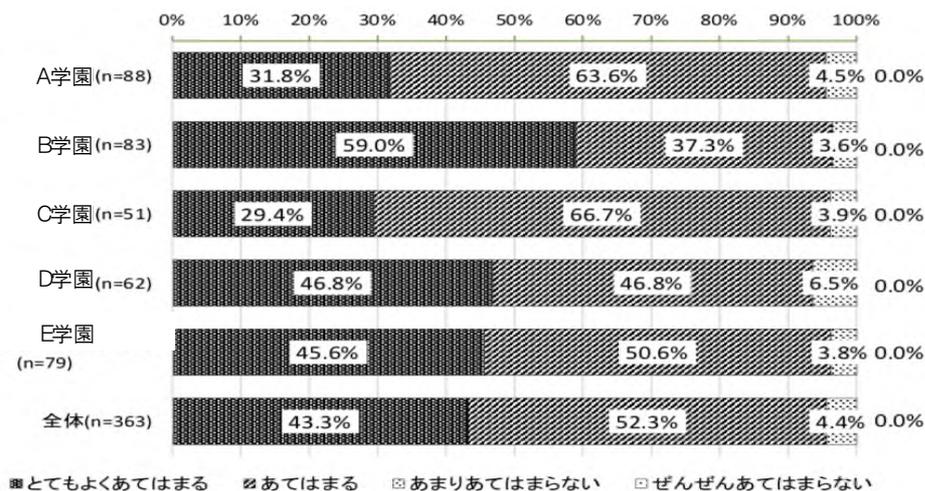
2 小学校へ行っての交流、乗り入れ授業に効果を実感している

(平成29年度 中学校のみ)



- ・ 中学校教員の84.4%が効果を実感している。
- ・ B、C、Dが高く、A、Eが低い。
- ・ 乗り入れ授業では、中学校教員がチームティーチングにおいてT1としての授業を行うことにより専門的な教科の指導が可能になってくるため、さらなる効果が期待できる。

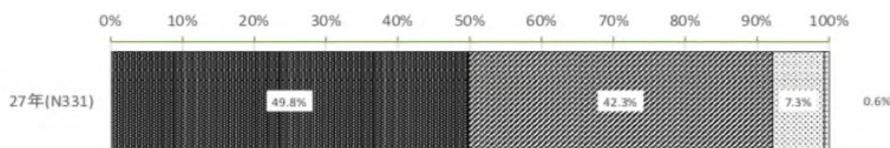
3 小中一貫教育をとおして発達段階の理解に取り組んだ (平成29年度)



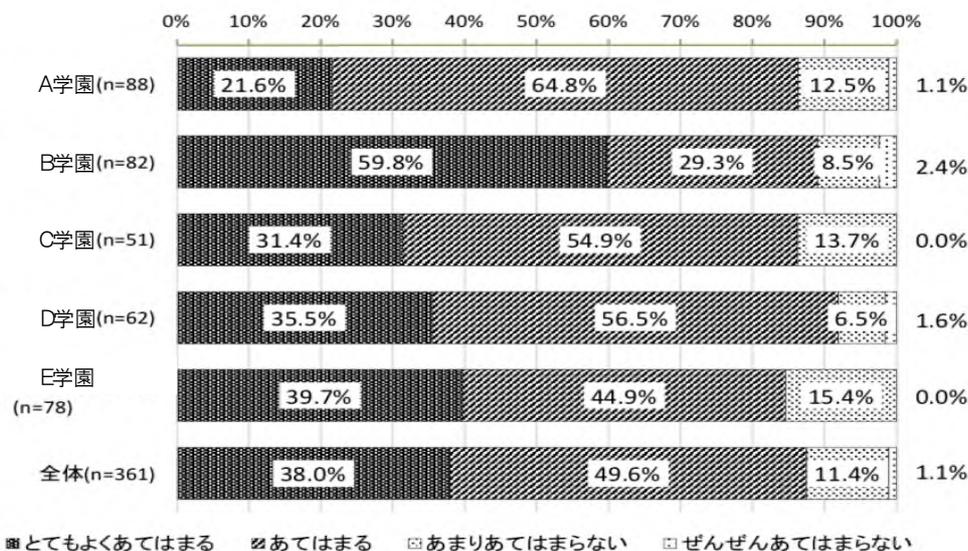
- ・ 全学園平均で95%以上となっており、9年間全体を見通した児童生徒の発達段階の理解が進んでいる。

4 小中一貫教育をとおして生徒（児童）に接したり、指導を見たりすることで、指導の在り方を考え直す契機となった

(平成27年度全体)



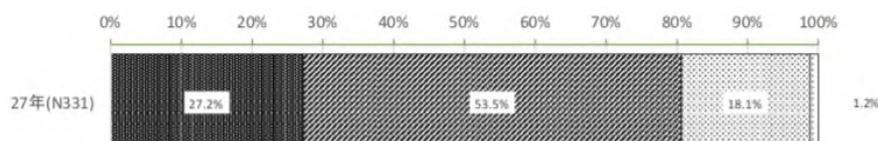
(平成29年度)



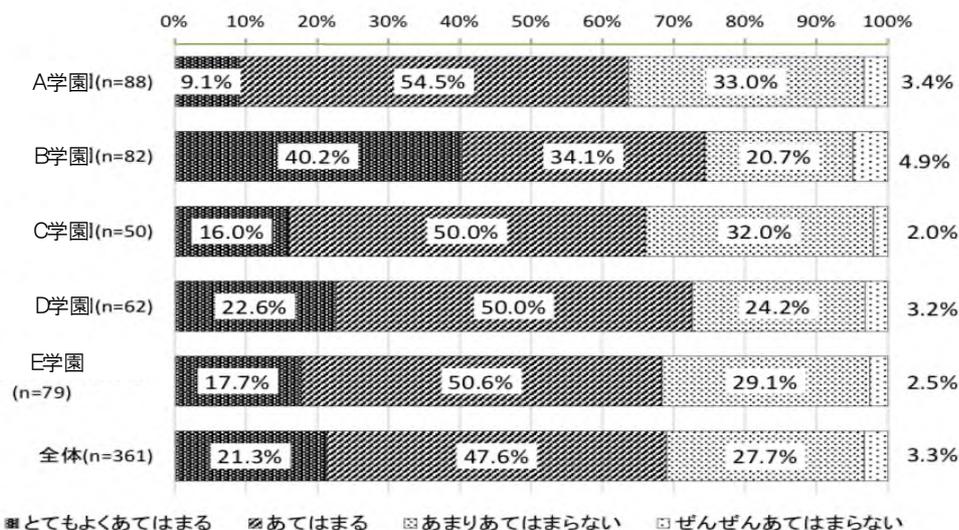
- ・H29全体で85%以上が見直しの契機となったと答えている。異校種での指導を直接見ることのできる学園ごとの授業研究や小中教員による合同研修をとおして、互いの指導法についての理解が進み、よい点を取り入れようとしている。
- ・H29の結果の中でさらに小・中の違いを分析すると、肯定的な意見が全小学校で83.6%であるのに対し、全中学校で95.7%と約12ポイント上回っている。中学校教員が特に小学校の指導が参考になると答えている割合が多いのは、小学校でのきめ細かな指導が参考になることが考えられるが、別の視点として、中学校の教員の方が比較的若く、経験年数が少ないことから指導を見直す契機となっていることも考えられ、年齢構成との関連を検討する必要がある。

5 小中一貫教育をとおして影響を受け、生活指導や学級指導の内容・方法を変えたところがある

(平成27年度全体)



(平成29年度)



- ・H29調査では、全体で68.9%が内容・方法を変えたと答えており、9年間の系統性を意識した指導方法等へ変えていると考えられ、小中での連携が進んでいる。H27に比べ、H29では肯定的な回答が約10ポイント下がっているが、内容・方法の見直しが進んできたこともその要因ではないだろうか。
- ・H29小中の比較では、全中77.6%>全小64.9%と中学校が13ポイント近く高い。この結果からも中学校で指導方法を変えていることが多い。乗り入れ授業等の効果を感じている中学校教員が、指導法にも影響を受けている。中学校教員の年齢層が若いことなども関連しているのではないだろうか。

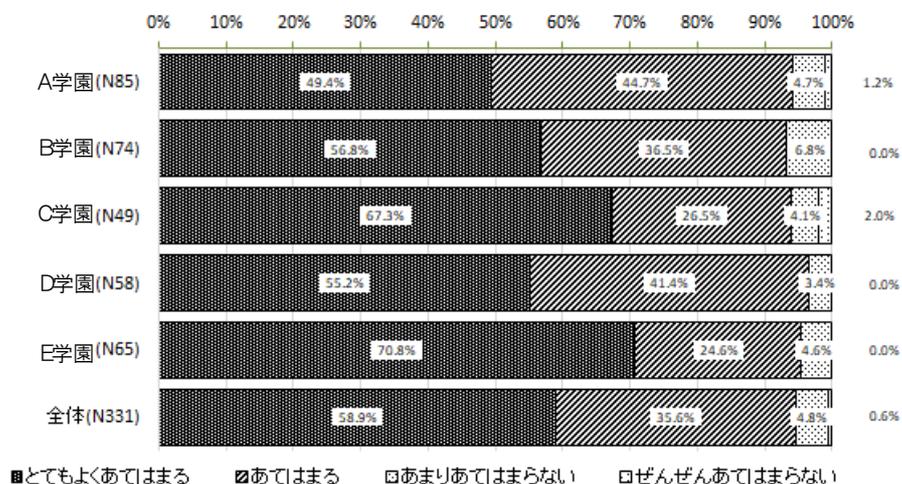
6 小中一貫教育のよさを生かした実践ができた (平成29年度のみ)



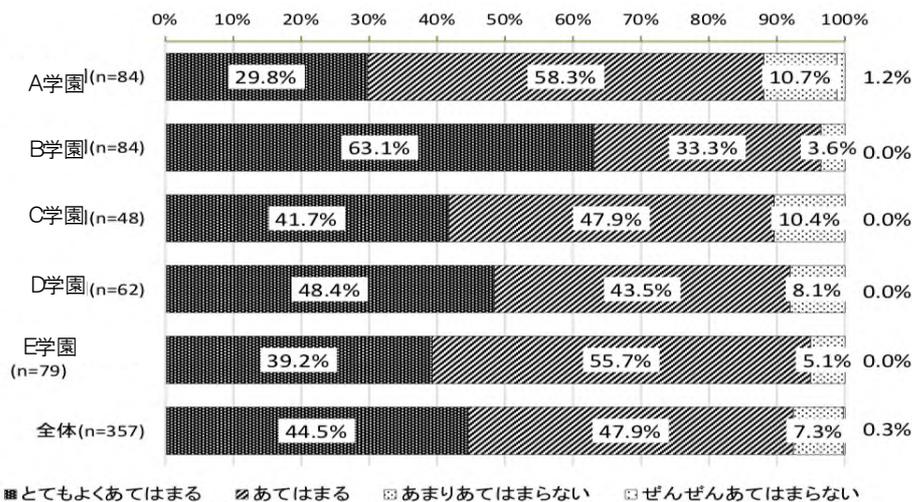
- ・全体で80%が小中一貫教育のよさを生かした実践をしていると答えている。
- ・「小中一貫教育のよさ」とは、児童生徒の発達段階を理解し、それに基づいて系統的な指導にあたっていることと捉えることができる。小中の交流により、発達段階を理解し、それを意識しながら生徒指導、学級活動、学習指導つぎなどの系統性を研究し、方法の工夫にあたっていることが分かる。
- ・小中一貫教育のよさについては、中学校間で差が見られるが、各学園ごとの小中一貫で行なっている交流や合同行事などの違いやそれに伴う負担感などに起因しているのではないだろうか。

7 校内（学園）研修をとおして、小中一貫に関する研究活動が深まっている

（平成27年度）



（平成29年度）



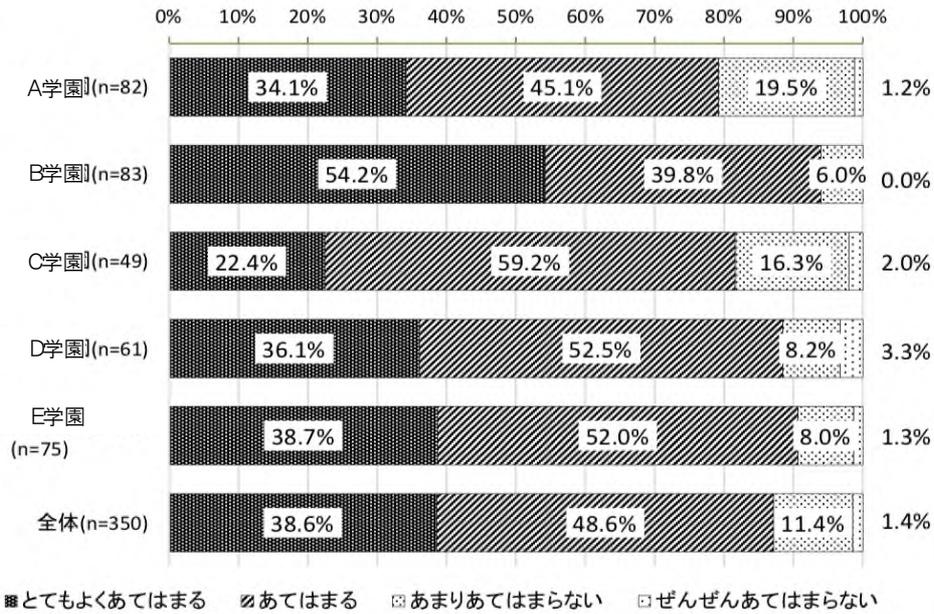
- 全体でH27年度 94.5%、H29年度 92.4%と各学園で小中一貫教育の研修が進んできている。
- 一体型、連携型ともに研究に意欲的に取り組んでいると答えており、小中一貫教育を推進する中で、様々な課題をいかに解決するか熱心に研究していると言える。

8 交流授業や乗り入れ授業、教科担任制をとおして、児童生徒の発達段階や指導の系統性を理解できるよう取り組んだ（分析は、次問とともにいった）

（平成27年度全体）

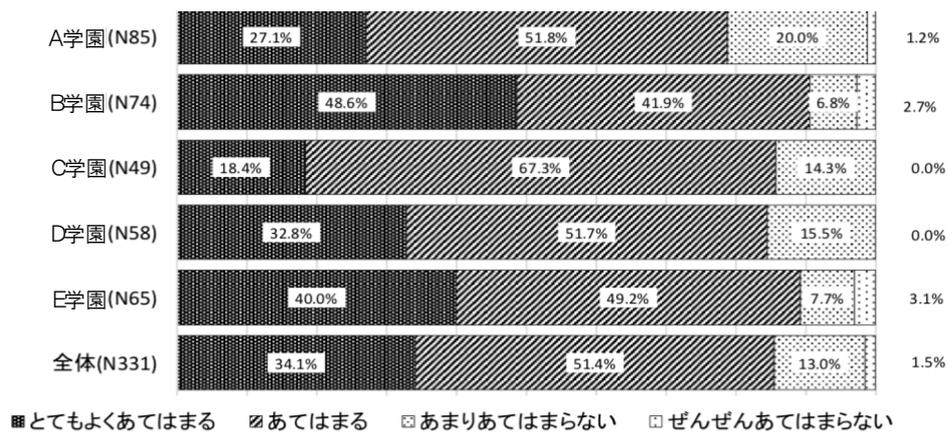


（平成29年度）

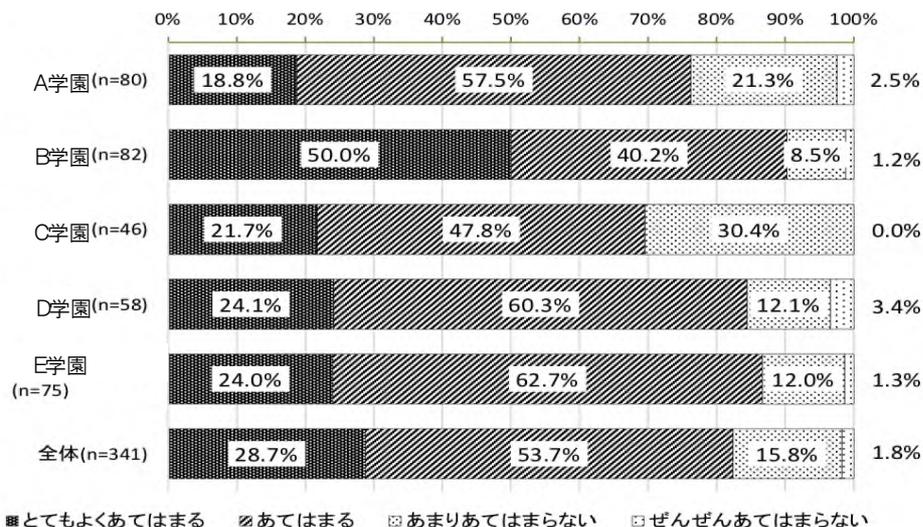


9 交流授業や乗り入れ授業、教科担任制等から学んだことを自分自身の授業に取り入れ、指導を工夫している

（平成27年度）



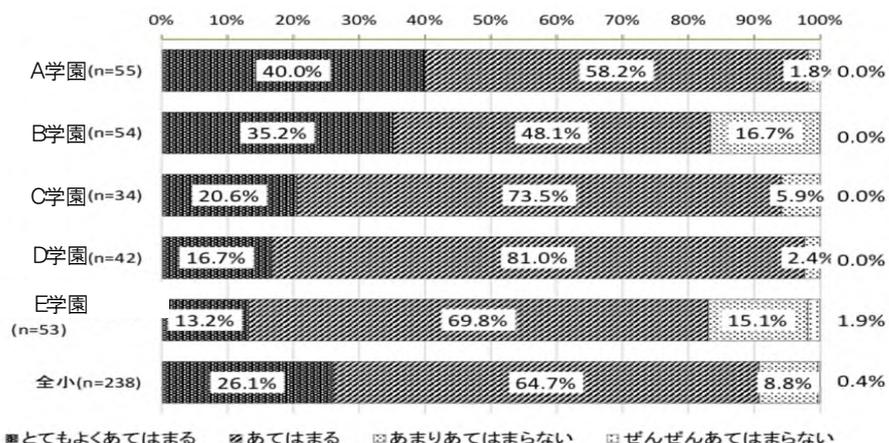
(平成29年度)



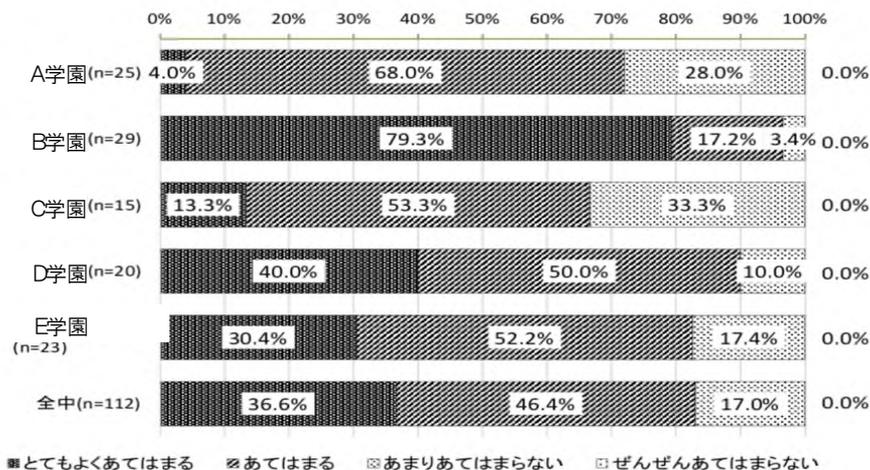
- ・H29の結果から、全体では、87.2%が系統性などを理解し、82.4%が指導を工夫している。
- ・連携型と一体型で大きな差は見られない。
- ・H29結果では、Bが高く、A、Cが低い。
- ・異学年交流や一部の教科担任制等により、発達段階に応じて授業の工夫が行われている。
- ・小・中学校のそれぞれの指導の特徴を比べてみると、小学校では、きめ細かで担任中心の授業であり、中学校では教科担任制のもと様々な教師とのコミュニケーションが取れる。それぞれの発達段階の中で、一人一人の個性を伸ばすためにより効果的な教科担任制の導入、学習の決まりや学習スタイル、家庭での学習も含めた指導の一貫性、学習の継続性をさらに高めていく必要があるのではないだろうか。

10 学校生活全体をとおして、児童（生徒）の学習意欲の高まりが感じられるようになってきた

(平成29年度 小学校)



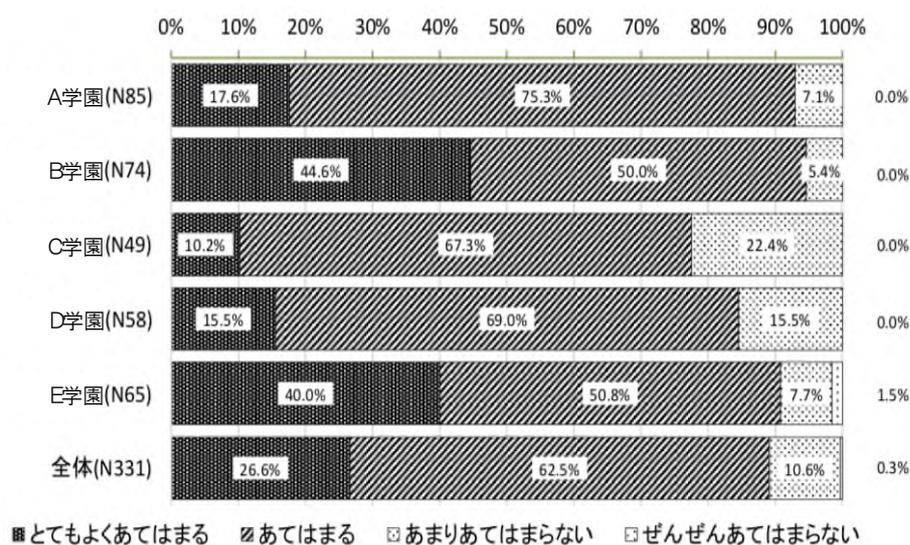
(平成29年度 中学校)



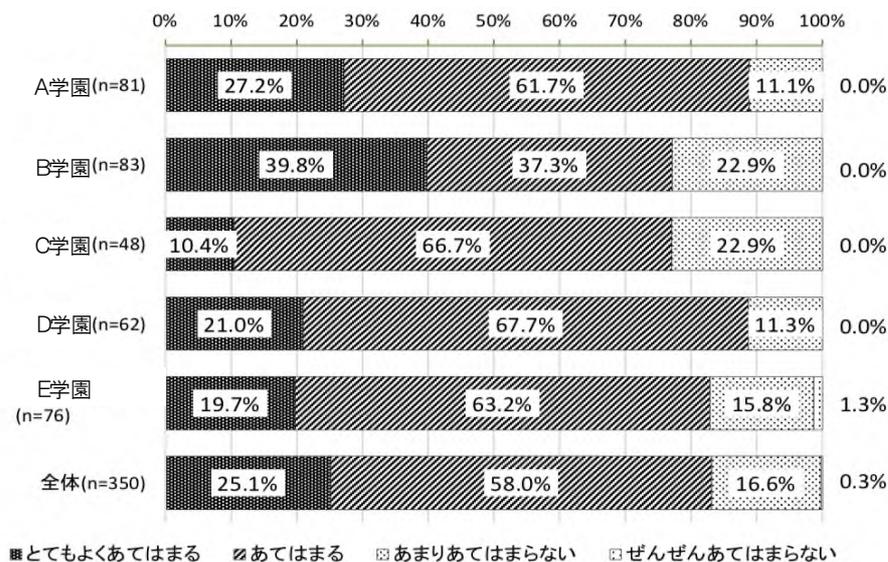
- 全体の80%以上が学習意欲の高まりを感じている。学園間にやや差が見られるものの学習意欲の高まりを感じている教職員が多い。
- 全体としては、小学校から中学校に進むにつれて学習意欲が低下している。これは、学習内容が難しくなったり、学習以外にも興味を示したりする一般的な傾向であると考えられる。
- H29調査においては、小学校に対して中学校が20ポイント近く下がっている学園があるのに対し、13ポイント近く上がっている学園があり、小中の教職員の何らかの要因があるのではないだろうか。
- 一体型と連携型（平均）では、大きな差が見られなかった。

11 学校生活全体をとおして、児童（生徒）の学力の向上が見られるようになってきた

(平成27年度)



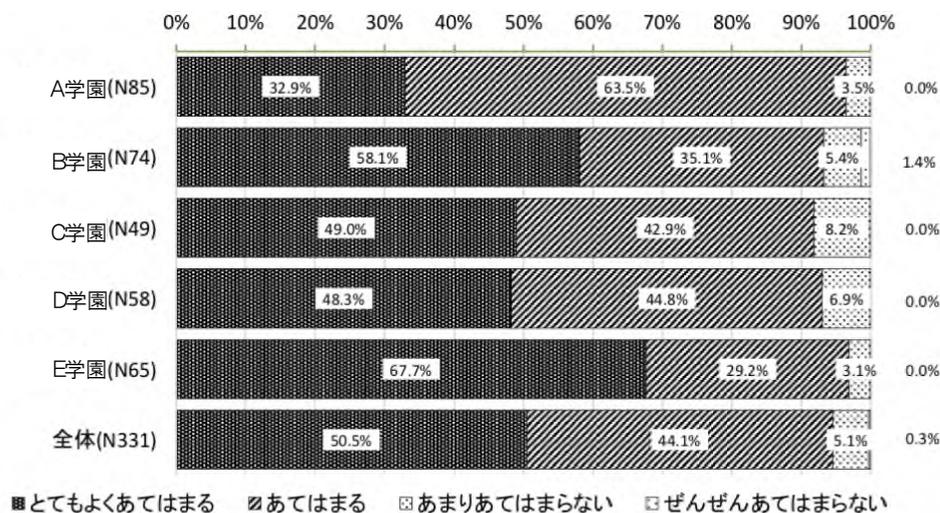
(平成29年度)



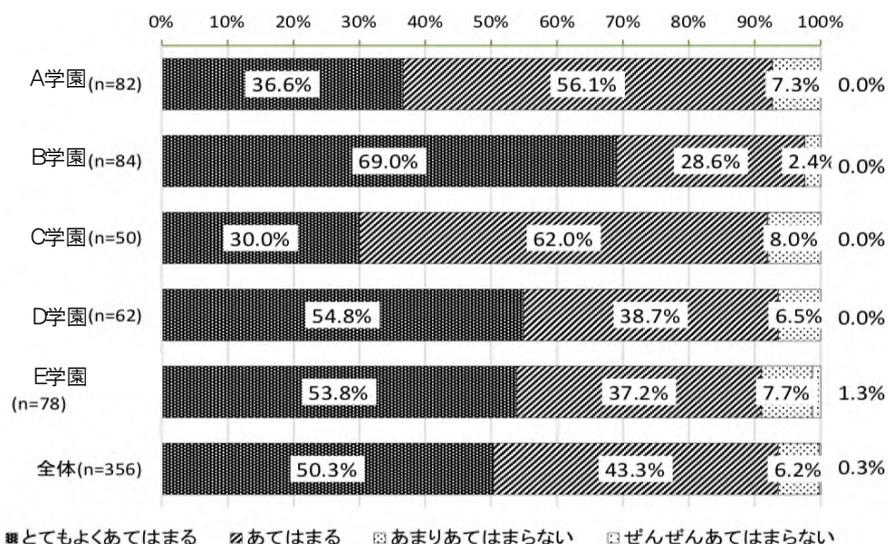
- ・H29全体の83.1%が学力の向上が見られたと答えている。小中ともに8割を超えており、学力の向上を実感している。学力の向上については、指導的な要素（職員研修、授業研究、教材開発等）と児童生徒の実態（家庭の協力、積極性、忍耐力等）など複雑な要因が考えられ、小中一貫教育の成果であると明確には判断できない。
- ・中学校間を分析すると小学校に比べ、学園ごとの差が大きくなっている。学園ごとの目標値が違うのか、生徒指導上の問題等があるのか、教育課程上の問題なのか、あるいは学校独自の学習スタイルに関係しているのか、その要因を検討していきたい。
- ・一体型、連携型で大きな差はなかった。

12 小中合同で行事を行い、異学年交流を深めるのに役立つ

(平成27年度)



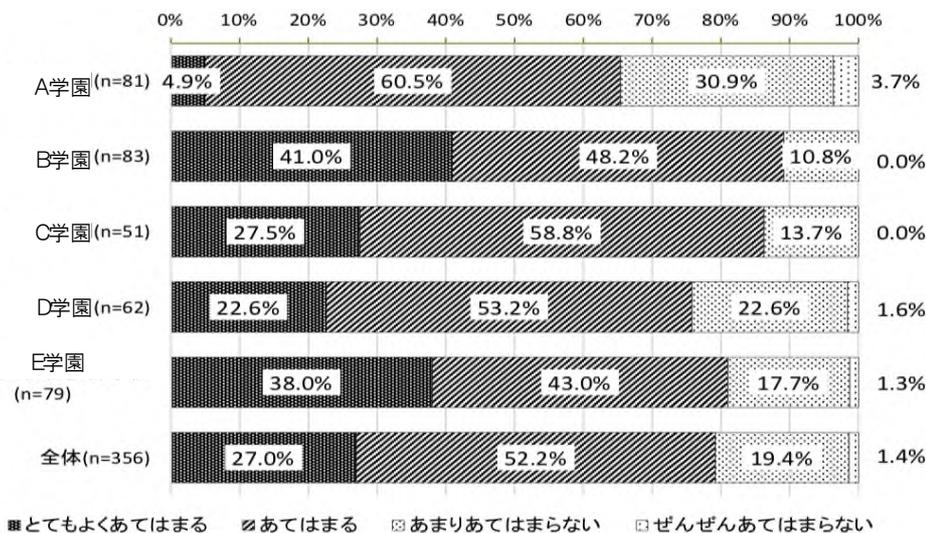
(平成29年度)



- ・全学園、小中一貫教育を実施しているの、高い数値を示している。
- ・小中一貫教育により、小中の合同行事や異学年交流が進んでいると考えられる。

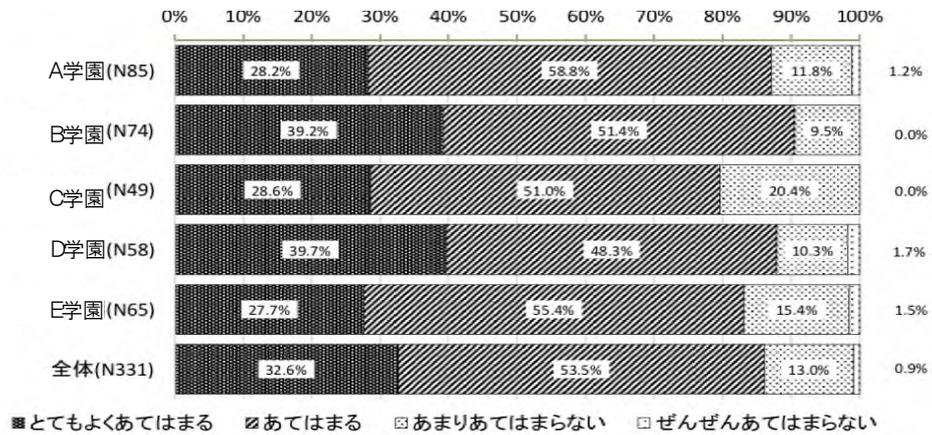
13 小中一貫教育の視点で4・3・2の発達区分に応じた年間指導計画の見直しを行っている（平成29年度のみ）

- ・H29調査で、全体で79.2%が見直しを行っていると答えている。
- ・この設問においては、「4・3・2の発達区分」の根拠や趣旨が一般教員にどの程度周知され、理解されているかが重要であり、そのことが年間指導計画の見直しの大切な観点になることを考えると、詳細な検討が必要である。
- ・「4・3・2の発達区分」に応じた指導により、児童生徒の発達や系統性の面で特に成果が上がっている点や課題となっている点を洗い出す必要がある。ヒヤリング調査から、小学校6年生が今まで最高学年として活躍していた点を生かしていく手立てへの要望や中学校への進級にあたって何らかの節目を設けるなどが必要ではないかとの意見があったことも考慮していきたい。

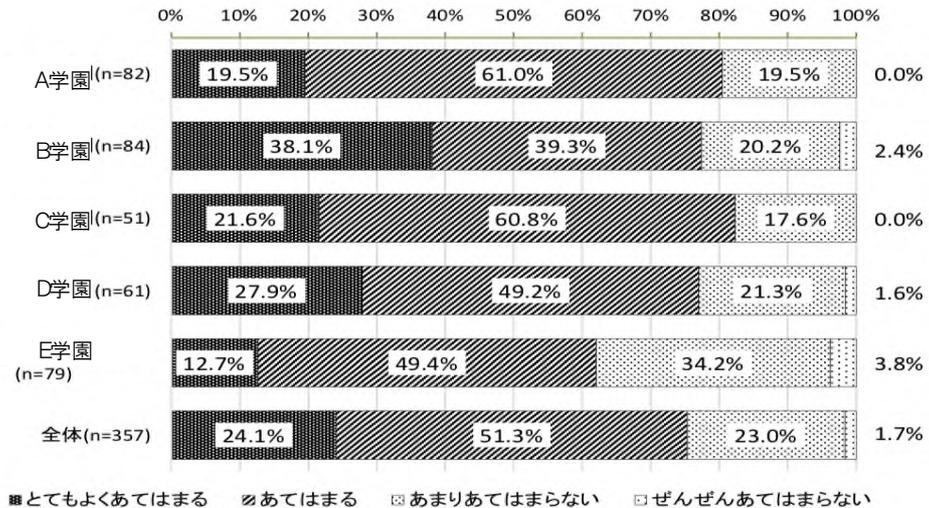


14 校内（学園内）教職員の意思決定や意思疎通は滞りなく進んでいる

（平成27年度）

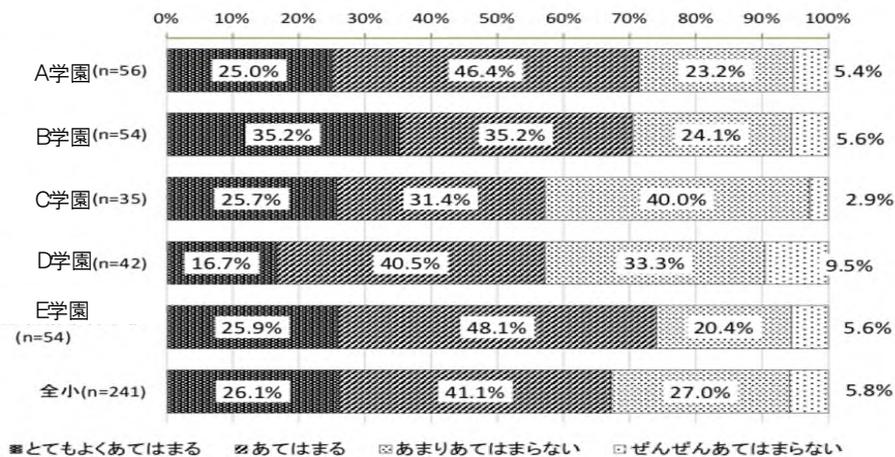


（平成29年度）

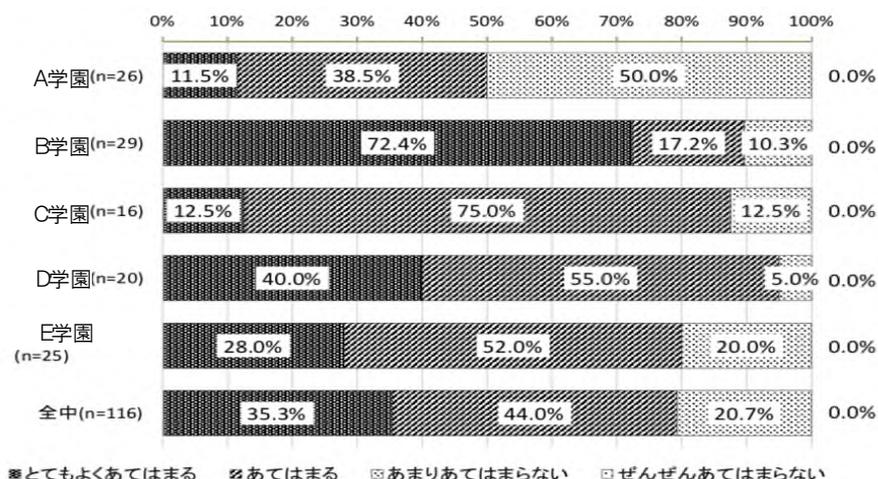


- ・H29調査では、全体で75.4%が滞りなく進んでいると答えているが、平成27年度に比べ、約10ポイント下がっている。小中一貫教育が浸透し、新たな課題が出てきていることも考えられる。
- ・意思決定や意思疎通については、学校規模が大きいほど時間がかかったり、手続きが複雑になったりすることが考えられる。
- ・意思決定のプロセスと意思疎通の状況は、学年や教科、校務などのグループの場面や学校全体での状況なのか区別した上で分析する必要がある。また、意思疎通にかかるコミュニケーションは、職場の雰囲気やメンバーにより左右されることが多く比較するのが困難である。これについても何らかの具体場面での調査が必要である。

15 中学校教員（小学校教員）と連携しながら教育活動を企画することができる
 (平成29年度 小学校)

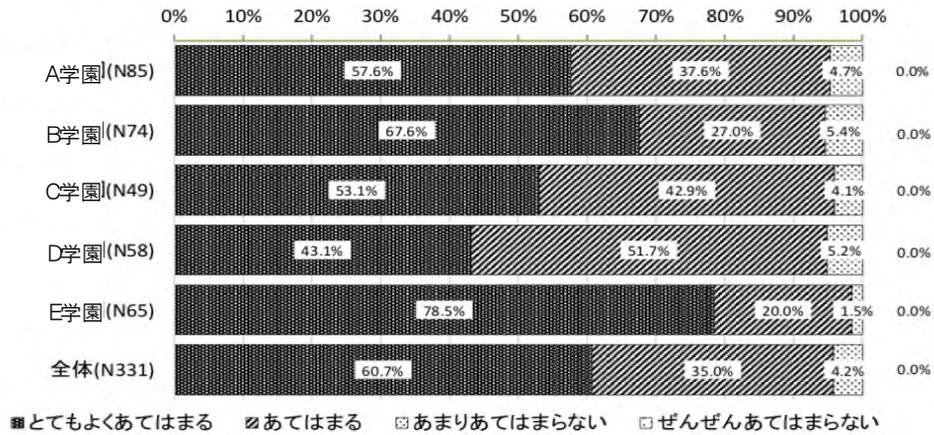


(平成29年度 中学校)

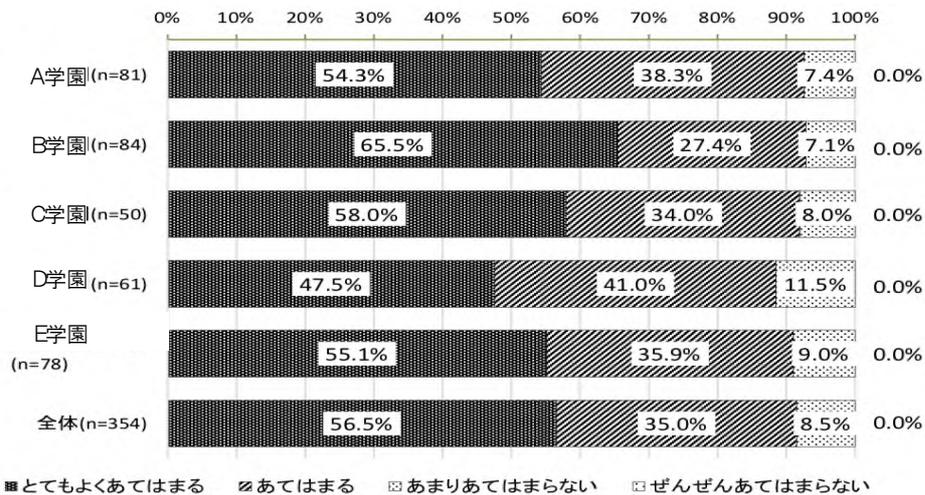


- この設問にある教育活動を実際に企画する担当は、教務主任（場合により教頭）、研究主任などであるが、その状況を調べたものと考えられる。
- 平成29年度全体として、71.1%であるので、連携した教育活動（授業や行事等）が実施されている。
- 中学校の方が小学校に比べて全体的に高い。これは、乗り入れ授業や教科担任制、交流活動などで中学生（後期）が小学校（前期）に出向くことが多く、中学校側で企画しているという意識が高いためではなかろうか。一体型のEにおいては、小学校も高く、小中相互に連携していく意識が高まってきている。

16 管理職のリーダーシップが発揮されている
(平成27年度)



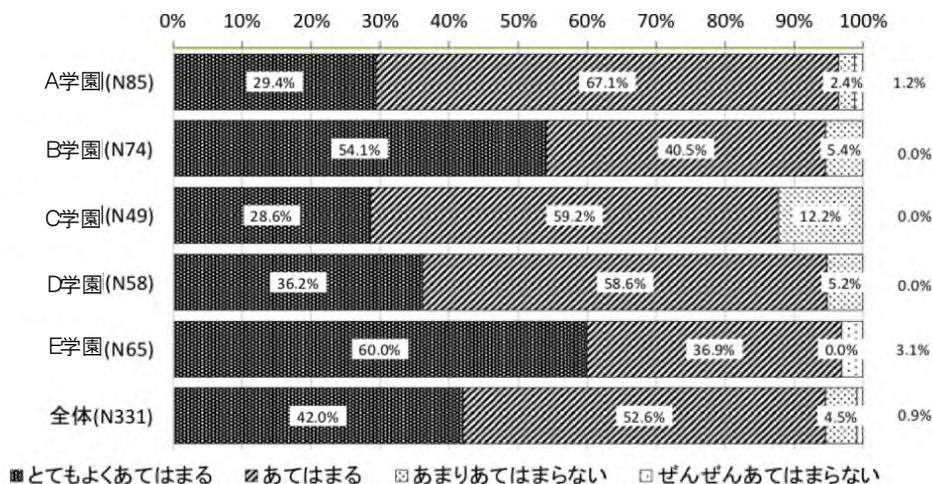
(平成29年度)



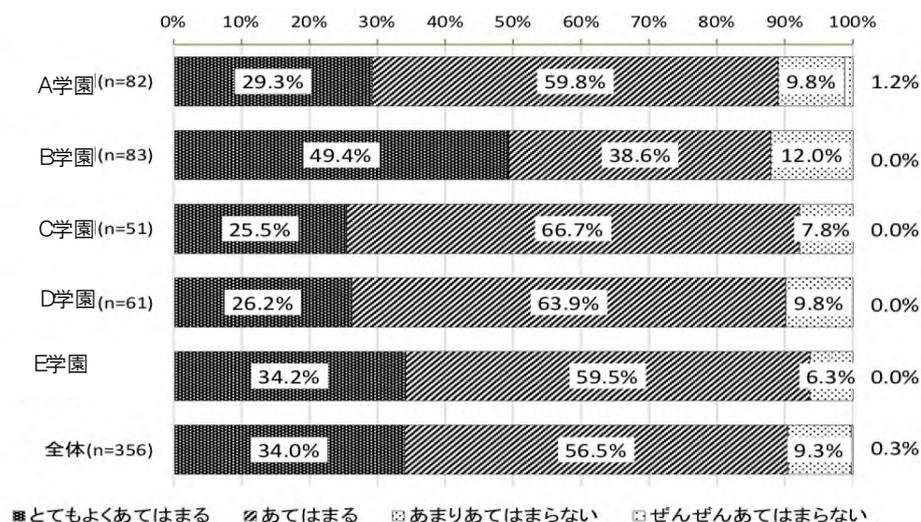
- 全体的に高く、各学園で大きな差はない。
- リーダーシップについては校長の経営方針の明確化、職員のチーム力の向上や意識改革等が重要であり、小中一貫教育の中で安定して発揮されている。

17 校内（学園内）研修等をとおして自己の指導力の向上を図ることができた

（平成27年度）



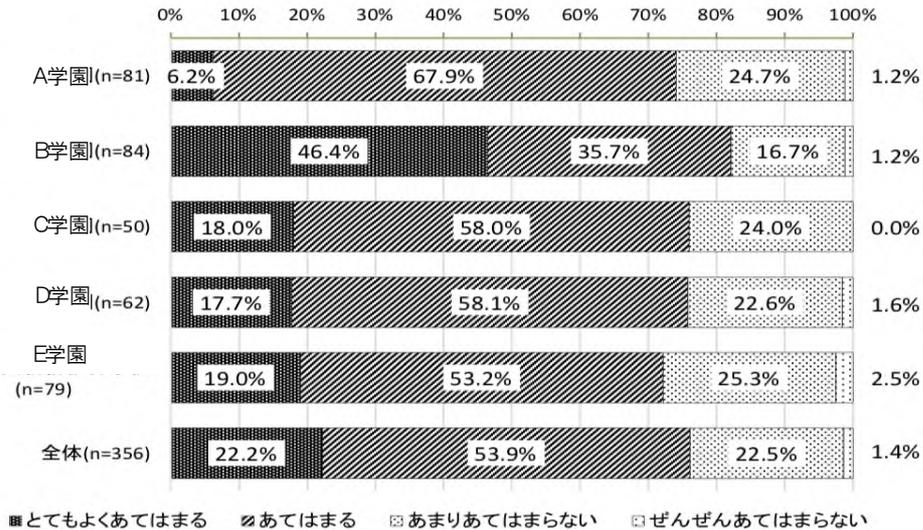
（平成29年度）



- 全体で、90%以上であり、指導力の向上に努力している。
- この調査に加え、自己の指導力向上のためにどんな場面で、どのような内容の研修が必要かさらに調べることが今後の方向性につながっていくのではないだろうか。
- 一体型と連携型で大きな差は見られない。

18 小中一貫教育の実践によって、これまでよりも教育に対する教育目標の達成感がある

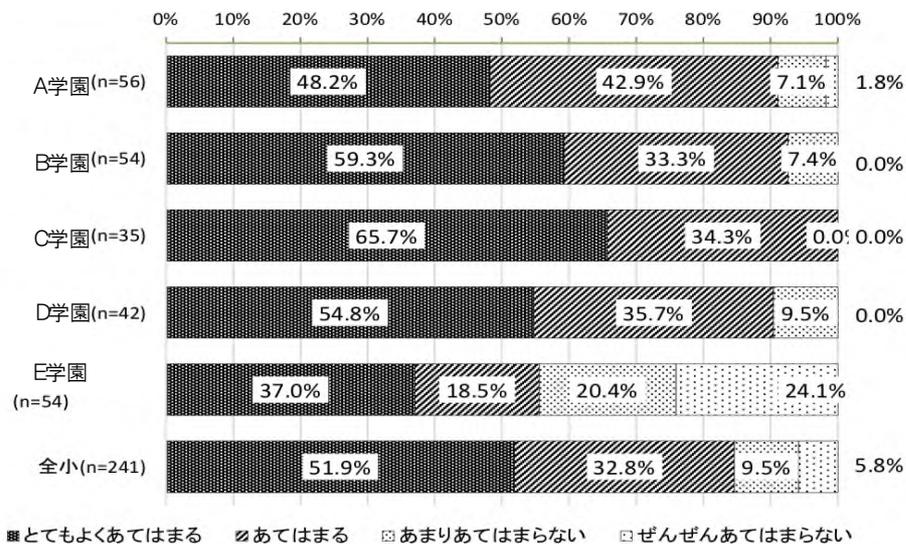
(H29年度のみ)



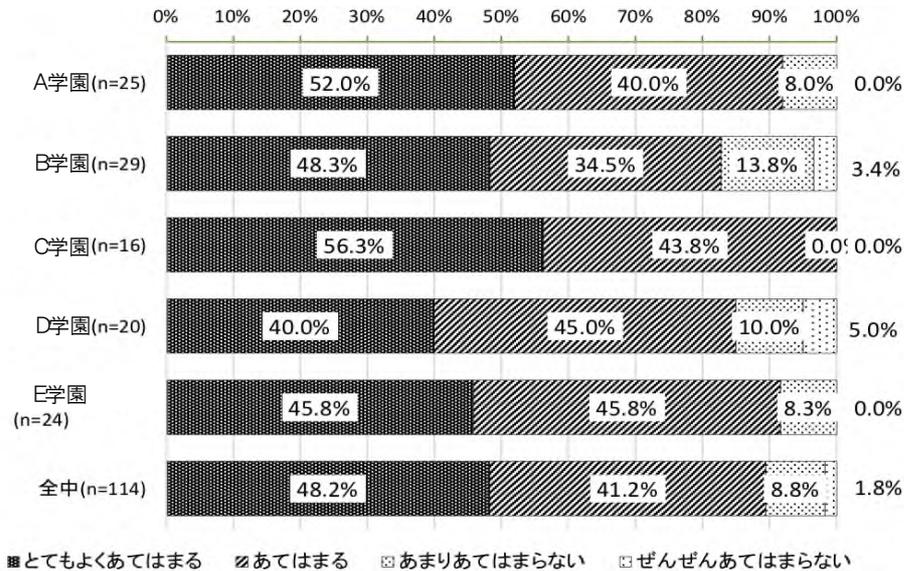
- ・この設問にある教育目標については、小中一貫に関する問いなので、学園の教育目標ととらえることができるが、教員評価において、学校の教育目標と自己目標の連鎖を図っていることもあり、教育目標がどの場面のものか明確にして質問すると、成果がより明確になるのではないか。
- ・H29調査では、全体で76.1%であり、達成感を持っている。

19 児童生徒間の交流を図る際の移動手段や移動時間、打ち合わせの時間の確保が難しい

(平成29年度 小学校)



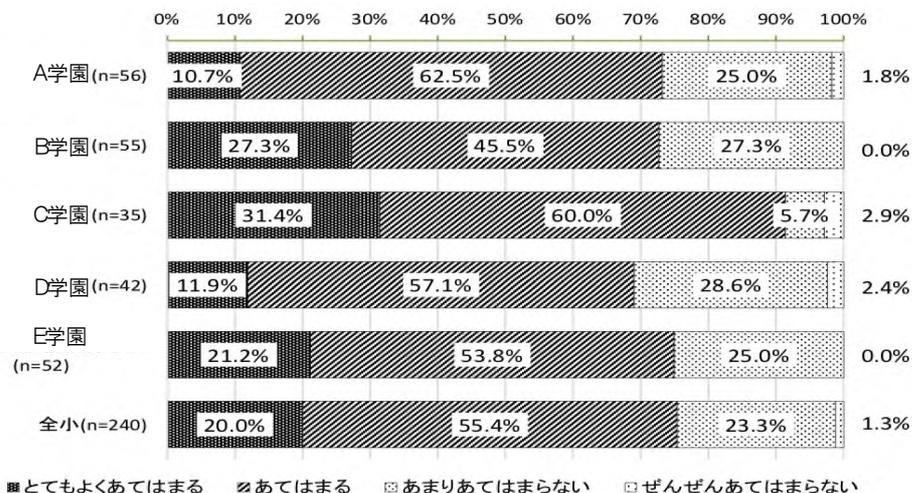
(平成29年度 中学校)



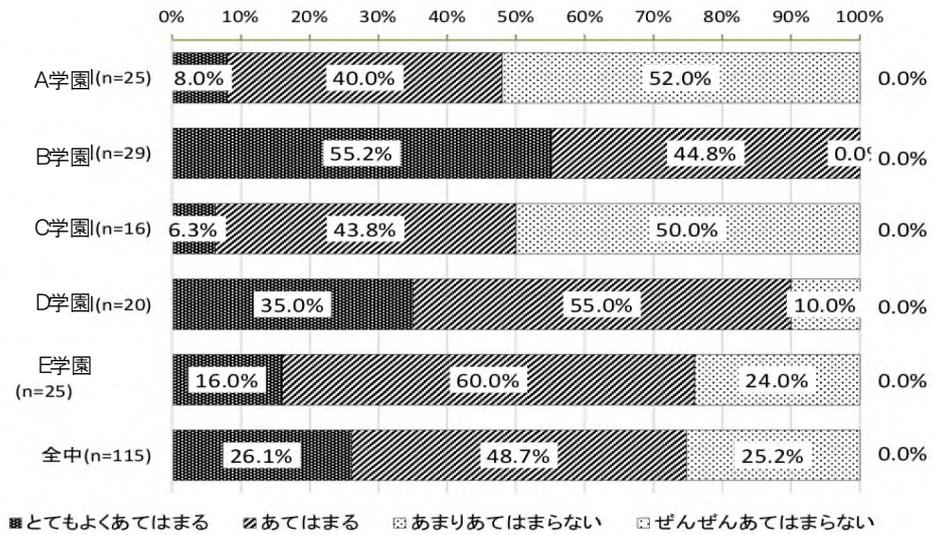
- ・全体で80%以上が移動や打ち合わせの時間の確保が難しいと回答している。
- ・学校訪問調査から、学園での打合せに時間を取られすぎ、校内での会議（職員会議、教科・領域部会、学年会、生徒指導部会、校内支援委員会等）や研修の時間の確保も難しいとの意見があった。
- ・施設の都合で、一体型前期では困難を感じる割合が少ないが、一体型後期では、他の中学校と数値が大きく変わらず、一体型の学園においても、打合せ時間の確保が難しいと考えられる。
- ・平成29年度においては、一体型、連携型の差は見られない。

20 小中一貫教育を実施することで、教育内容の関連付けや変更を行うことができた

(平成29年度 小学校)



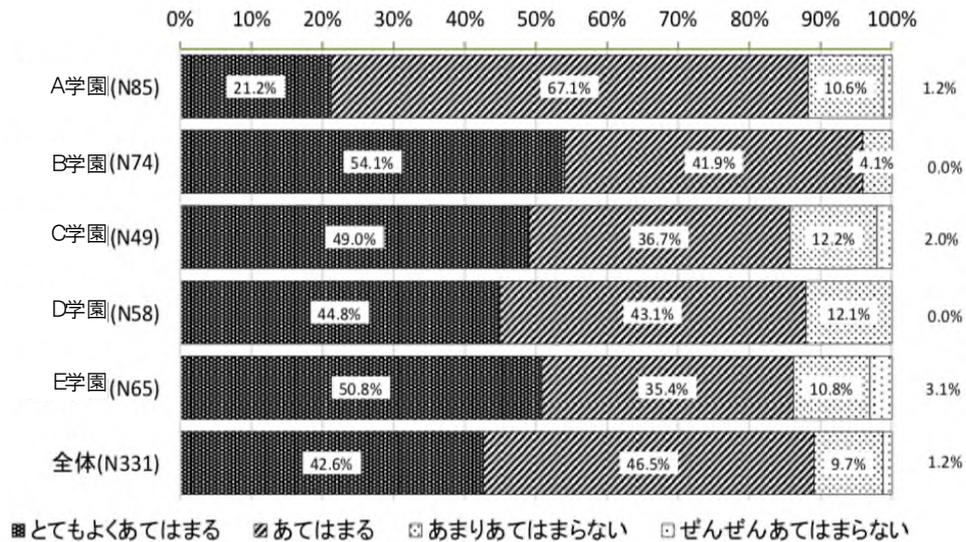
(平成29年度 中学校)



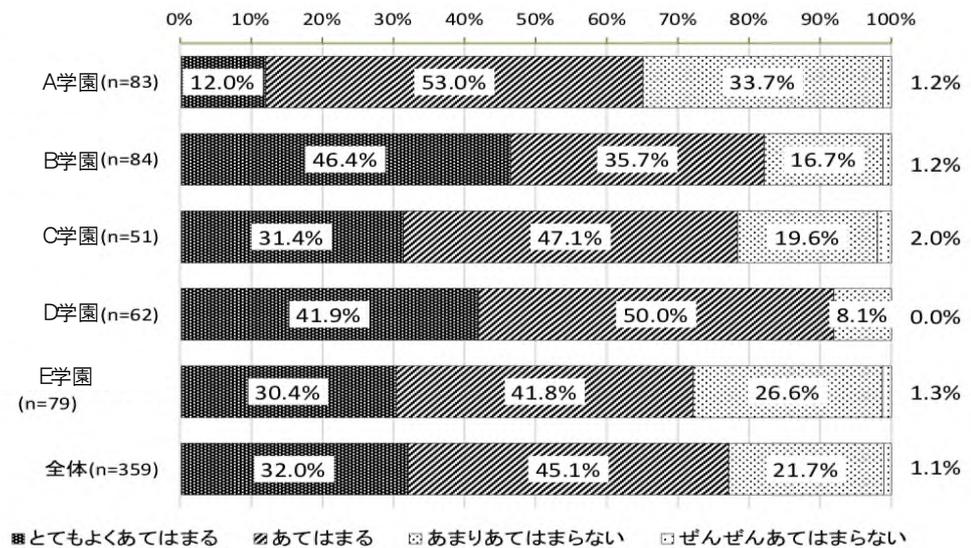
- ・全体で75.2%が肯定的に回答している。
- ・一体型と連携型で大きな差は見られないが、中学校で学園間の差が大きい。

21 学園内の児童生徒の成長や学習成果等を記録したり、情報を交換したりする機会が増えた

(平成27年度)

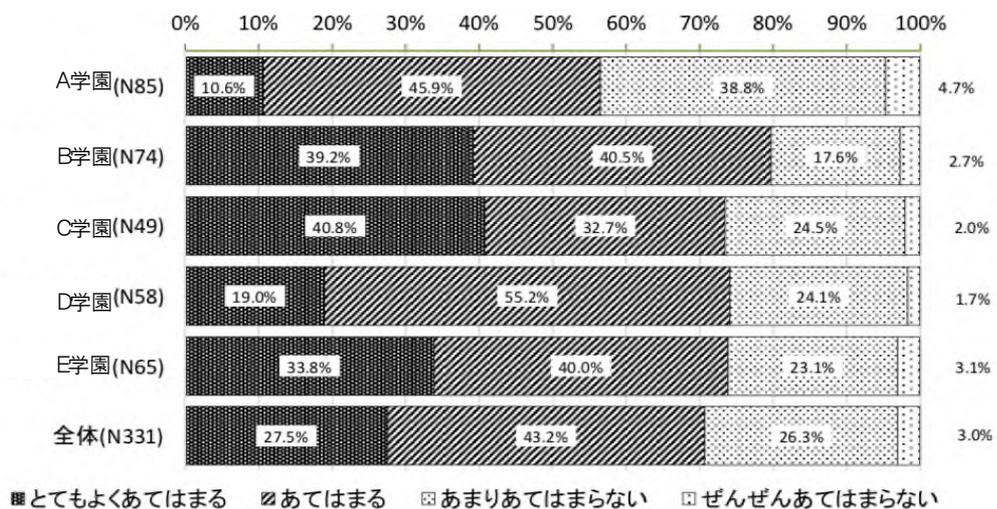


(平成29年度)

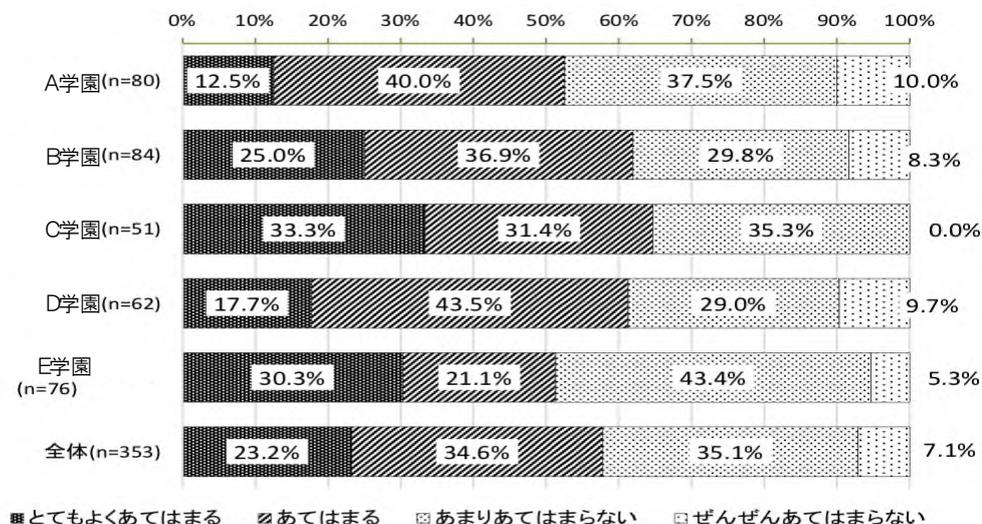


- ・全体では、H27が89.1%、H29で77.1%が情報交換等の機会が増えたと回答している。
- ・H27に比べ、H29において10ポイント程度下がっている。これは、業務量の増加に関係するのか、別の要因か検討する必要がある。

22 学園内の小学校と中学校間で、PTA等に関する情報を交換する機会がある (平成27年度)



(平成29年度)



- ・H29調査では全体で57.8%とPTAとの情報交換の機会が設けられているが、H27より下がってきており、保護者等との情報交換の場をさらに増やしていく必要がある。
- ・小学校より中学校が高い。また、一体型、連携型の差は見られない。

23 小中一貫教育で特に良いと思うところ

- ・異学年交流が深まったとの回答が非常に多く、教員の連携や情報交換にもよかったとの回答が多い。
- ・児童生徒の発達段階の理解、系統性の理解、指導の在り方の見直し、小中一貫教育の研究などを良いと答えている。いずれの回答も小中一貫教育により、小学校、中学校の接続が円滑で9年間継続した指導方針により指導が行われており、小中一貫教育の成果といえる。

24 小中一貫教育でもう少し力を入れるべきところ

- ・意思疎通や情報交換についてさらに力を入れるべきと答えている。
- ・特に多いのが、学力向上であり、以下、学習意欲の向上、指導方法の工夫改善が挙げられている。小中一貫校に限らず、多くの学校では、学力向上が喫緊の課題であり、小中一貫を基盤として如何に授業改善を進めるか、そしてそれを学力の向上に結びつけるかが課題である。
- ・前述の設問と併せて考察すると、今までの小中一貫教育の実践から系統性や発達段階を意識した指導については定着してきているが、学力向上の取り組みは今後大きな課題である。特に、系統性を意識した「縦の連携」だけでなく、例えば学年内で十分に教材研究や授業公開を行ったり、教科ごとの基礎的な指導法の研修、あるいは学園を超えた研修の機会を設けたりするなど「横の連携」も十分に意識することが必要ではないだろうか。

教職員アンケート全体からの考察

本アンケート全体をとおして、以下の点が分かってきた。

- 1 小中一貫教育により、児童生徒の発達段階を考慮しながら、9年間を見通した教育活動が実践されるようになってきている。
- 2 小中学校の教員間で、互いの授業を見合うことにより、今までの指導法を見直したり、系統性を意識したりする授業が行われるようになってきている。特に、中学校においては、発達段階を意識し、内容や方法の改善に取り組んでいる。
- 3 乗り入れ授業や行事の合同実施などによる異学年の交流活動が深まり、児童生徒が多様な体験活動に取り組んでいる。
- 4 施設一体型においては、特に前期（小学校）で交流や打合せの時間が確保でき、交流も活発に行われているが、後期（中学校）では打合せの時間が確保できていない。
- 5 授業改善や指導方法の工夫は、小学校で概ね実施されているが、中学校では、学校間の差が大きい。
- 6 教職員の調査からは、一体型と連携型で大きな差は見られず、それぞれのよさを生かした教育活動が実践されている。
- 7 小中一貫教育により、小学校から中学校への円滑な接続が可能になっている反面、小学校から中学校へのステップアップする機会がなくなり、意識改革や変容するきっかけ作りが必要ではなかろうか。小中一貫教育の推進にあたっては、児童が乗り越えるべき壁のようなもの、あるいは、節目となるようなものを設定することも大切であるとの意見もあった。このことを踏まえ、4・3・2の区切りについては固定化すべきか、柔軟性を持たせていくべきか児童生徒の発達段階や教育課程などを考慮して検討すべきである。
- 8 学力向上については、様々な要因があり、小中一貫教育の成果と関連づけるには難しい面がある。教科指導、生徒指導、学級での指導などの基本を再度確認することが必要である。
- 9 小学校、中学校で教職員の年齢構成に違いがあることから、教職員の意識について年齢構成との関連を見直す必要がある。
- 10 平成29年度は平成27年度に比べ、小中一貫教育に取り組む意欲がやや下がっている。今までの取り組みから各学園の課題をより明確にした工夫や改善が必要となってきた。
- 11 小中一貫教育を進めるには、教員が小・中両方の免許を持っていることが望ましい。茨城県では、小・中学校の両方の勤務経験を持つ教員が多いことも考慮する必要がある。また、中学校教員の小学校免許取得率が低いことから、今後の人事上の配慮事項として検討が待たれる。

V 部

E 学園の教育の成果と課題

E 学園は、つくば市のすべての小中学校に 9 学年一貫の教育が実施されることになった 2012 年度に、施設一体型の一貫校として開設され、2016 年 4 月より義務教育学校となった。この間の学園での教育の成果と課題を、学園の運営に直接携わってきた者の側から概観する。

(1) 児童・生徒の学力面

「つくばスタイル科」や各教科、領域における 9 年間を見通したカリキュラムを編成し、児童・生徒の育成を図ってきた。

<施策>

- 学園の実態に応じ、開校以来一貫して「論理的思考力」を中心とした「資質・能力」の育成に努めることができた。
この施策が教員の授業力の向上につながった。
- 発達段階や系統性を考慮した「資質・能力」の育成の時間の確保（つくばスタイル科）ができた。
- ICT 機器や「思考ツール」を活用した授業展開を系統的に行うことができた。

<成果>

- 全国学力学習状況調査では、6 学年、9 年学とも 4 科目合計で全国平均を [] 上回っている。特に、後期課程での伸びが顕著である。また、A 問題（知識）より B 問題（活用）において高い結果を残しており、知識を活用して思考する力が身に付いている。
- 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しい」と考える児童生徒の割合も全国平均と比べて [] 低い。
- 新教科「つくばスタイル科」については、教職員、児童・生徒ともに肯定的な考えを持っている。これは、取り組むべき内容が明確になっていたり、身につけさせたい「資質・能力」に対応できるカリキュラムが編成できていたりするからだと考えられる。また、新学習指導要領にも対応しやすい点は非常に評価できる。

<課題>

- 学力に課題がみられる児童・生徒への支援体制

(2) 児童・生徒の生活面

発達の段階による児童生徒の成長が実感できるとともに、児童と生徒の交流は、互いを尊重した行動ができることにつながると考える。

<施策>

- 9 年間で 4・3・2 で区切り、人と豊かにかかわる力を育成することに力点を置いた特別活動を充実させた。（前・中・後期ブロックごとの行事、縦割り清掃活動等）
- 9 年間を見通した規範意識の醸成や「夢の実現」に向けての長いスパンでの援助指導の充実が図れた。

<成果>

- 学校全体でのアンケート結果では、「学校は楽しい」、「クラスの雰囲気はよい」と答えている児童生徒は、約9割と高い結果がでている。
- 生徒会活動や学校行事、異学年交流授業などの取り組みが、友達とのよりよい関係づくりに寄与していた。また、「人の役に立つ人間になりたい」と回答する生徒も9割を超えている。

<課題>

- 「自分の活躍できる」「自分は役に立っていると感じる時がある」という問いに対しては、平均7割程度であるが、学年によってばらつきがある。9年間を通しての教育活動を見直し、自己有用感をさらに高める工夫が必要である。

(3) 教師の勤務姿勢

○多忙化

小中両方の教育内容を抱え、教育活動について確認をするための小会議が多いなど、多忙感を感じている職員が見られる。また、施設一体型の学校においては、前期課程の部活動担当について負担を感じている職員もいる。

○充実感

子どもたちとの関わりがたくさんあり、まじかで9年間の成長の様子が実感できることにより、教師としての充実感を味わっている教員も多い。また、下記に示したように、小中一貫教育の長所を多くの場面で感じている教員も多い。

- ・卒業時の自己肯定感の高まり（9年間の中で浮き沈みはあるが）
- ・縦割り班活動による清掃（異学年の関わりが増えた）
- ・縦割り班活動（上級生が下級生の面倒をよく見ていた）
- ・上級生の下級生への態度（思いやりの心が育った）
- ・見通しをもった教育活動の展開
- ・9年間の学びの履歴が明らかになる
- ・発達段階、成長過程がよく見える
- ・先輩へのあこがれ（優しさ）下級生の頑張り
- ・4年生のリーダー性が育成される

(4) 今後の課題

保護者は、施設一体型の小中一貫教育に関心が高く、子どもを施設一体型の小中一貫校に入学するため、校区内に転居してくる家庭も少なくない。今後、TX沿線の「G義務教育学校」や「M学園義務教育学校」については、児童・生徒の増加が予想される。教育活動を円滑に進めるためには、学校は適正規模で運営される必要があり、児童・生徒数の増加に対応する施設設備と人的配置がよく求められる。

つくば市の小中一貫教育は、他の自治体で行っている小中一貫教育より、施設一体型の学校と連携型の学校での教育活動の差異は少ない。理由としては、2012年度から実施されている教育課程について、学園間の共通化を重視してきたことがあげられる。今後は、連携型との間での教育機会の平等を配慮するとともに、同一敷地内で

の小中の施設の使い分けなど、既成の施設一体型にとらわれない学校環境が検討されていく必要がある。すなわち、連携型の良さを一体型の内部に取り込む、という試みである。

総括と展望

(背景)

国立社会保障・人口問題研究所の「地域別将来推計人口」(2018年3月公表)によると、2015年から2045年にかけて、茨城県の総人口は291万6976人が223万5686人になる。およそ68万人の減少である。県内44の市町村のうち、42地区で軒並み人口が減っていき、人口1万人を切り5千人台になる市町村もでてくる。

そうした人口縮減社会のなかにあつて、つくば市は、隣接のつくばみらい市とともに人口増が予測されている(22万6963人→24万2804人)。この2市だけで、県の総人口の13パーセント強が占められていく。現在でも9パーセント程度占めているが、人口の流入は今後さらに進んでいくものとみられる。

しかし、細かくみていくと、つくば市でも、人口が減っていく地域と増えていく地域がくっきり分かれている。特定の地域に、集中的に、他の市町村や同じ市内や県外から、人口が移動・流入しているのである。その多くが、子育て世帯であると推定される。流入してくる新世帯は、生活の利便性(首都圏へのアクセスの容易さや商業施設の多様さ)ばかりでなく、なによりも子育て環境の良好さに魅かれているように思われる。エクスプレス線の沿線の宅地開発も、教育環境の整備をセールスポイントにしてきている。

市の全域を見渡すと、児童生徒数の減少を教育環境の劣化と受け止めて、学校の統廃合に合意せざるを得なかった地域がある一方で、人口の急増が学校の大規模化をまねき、校庭が自由に使えないなど、平常の教育活動に支障をきたしている地域もある。人口が減っている地域でも、増えている地域でも、それぞれ問題を抱えているが、問題の相互的な共有を図る広報はかならずしも充分になされてきたとはいえない。そのため、たとえばエクスプレス線の沿線に移住してきた新住民にとって、旧筑波町をふくむ北部地域での大規模な学校統廃合は、自分たちの問題とは受け止められていない。地域間の分断は、親の教育意識のズレからも進んできている。

そこで、なにより求められるのは、今後の地域の変容を、総体として正しく見通し、市民全体に問題意識の共有化を図ることである。その基礎データとなるのは、人口動態、とりわけ地域ごとの児童生徒数の推計値である。これを20年先まで見通したうえで、人口減少が予想される地域での小学校・中学校の条件整備を手厚くするとともに、人口流入が予想される地域での通学区域の厳格化と学校規模・学級数の適正化をできる限り図りながら、学校の配置計画を立てていく必要がある。教育資源の効率的、かつ公正な配分が求められる。

言うまでもなく、1学級当たりの児童生徒数と、1学年当たりの学級数には国から基準

値が示されている。基準通りに教育環境の適正化を図っていけるような事例ばかりでないことは事実である。基準値をオーバーしてしまっている大規模校があり、基準値を満たさない小規模校もある。しかし、いっそう重要なのは、数値化できないそれぞれの地域の実状である。たとえば、地元の学校に対する地域の人たちの思い入れは深い。それでも統廃合に同意せざるを得なかったのは、子どもたちの将来を思いやるからだ。いわば苦渋の選択である。また、他の自治体や県外から子どもとともにつくばエクスプレス線沿線に移ってきた親にも、その地域への格別な思いがあるはずである。

それぞれの思いが折り重なって、新たなコミュニティが生み出されていく。このコミュニティの再編と形成に寄り添いながら進められるのが、市町村レベルの「総合教育計画」だとすれば、それは決して、国の基準に合わせて地方をつくる案ではない。これからの都市計画は、一般化しがたい地域の人たちの心情を、きめ細かくすくい取るものでなければならない。その時、学校は「地域の核」としての役割を期待される。それをどう育てていくかで、「総合教育計画」の真価が問われる。

(論点)

以上のような問題意識のもとで、本委員会は、つくば市が実施してきた小中一貫教育の成果の検証と、今後の方向性を探ることに努めてきた。定例の委員会では、協議のなかで以下のような論点が浮かび上がった。検討された項目とともに記していく。

(1) 小中一貫教育の実施によって、つくば市の教育はどう変わったか。

一貫教育の効果は、施設一体型と連携型とでどのように異なっているか。

- ・ 9年を見通したカリキュラムの汎用性（連携型校への通用性）
- ・ 共通科目としての「つくばスタイル科」の実効性

(2) 一貫教育は、1年生から9年生にいたる発達過程をどのように配慮してきたか。

その配慮は、一体型・連携型の種別でどのようになされてきたか。

- ・ 「中1ギャップ」の解消と「小6問題」の顕在化
- ・ ステップアップの機会の不可欠性

(3) 一貫教育の実施は、教師の勤務姿勢と勤務実態にどのような影響をもたらしたか。

その影響は、一体型・連携型の種別でどのように表れているか。

- ・ 勤務年数による受けとめの違い
- ・ 中学教員の若年齢化と研修充実の必要性

(4) 一貫教育の実施は、地域コミュニティの再編・形成にどのように寄与したか。

一貫教育への理解は、保護者の間でどの程度進んだか。

- ・ 「地域の核」としての学校という認識
- ・ 連携型による地域の広範囲化と統廃合による歴史的校区の消滅

(5) 一体型校、連携型校間の公平性は保障されたか。

限られた資源・財源を一体型校（義務教育学校）に重点配分していったらどうか

- ・ ブランド化回避

- ・教員配置数の絶対的不足による負担感

(6) 大規模化は回避できなかったのか。

つくば市の市街地域と北部地域とで、一体型校の設置は同じ効果をもたらすか

- ・義務教育学校の集積力による都市開発の付加価値
- ・人口流出地域における学校統廃合としての義務教育学校の設置

(7) 近い将来予想される新設校も、一体型であるべきか。

適正配置計画の実施にあたっての留意点はなにか。

- ・学校教育法の改正時(H27/6/17)の参院文教委・付帯事項 「機会均等の確保」
- ・既設校の整備・充実の緊急性・優先性

(展望)

以上の論点について協議を重ねる過程で、委員の間で以下のような知見を共有するに至った。これらは、委員の間の多様な見解のいわば「公約数」的な知見である。

◎つくば市における小中一貫教育は、これを実践してきた教員の意欲的な取り組みによって持続されてきている。小中間での指導の一貫性の重要性が、理解されてきている。これは、一体型、連携型の種別を越えてみられることであるが、特に若手の中学教員において顕著である。若手中学教員の補充が困難な現状にかんがみると、この教員層を対象とする研修をさらに充実していく必要がある。

◎施設一体型の一貫校は、9年一貫のカリキュラムの開発や、学校運営の実務に関してパイロット・スクールの役割を果たしてきたが、小中間の一貫教育の効果は、連携型校においても十分に発揮されている。一体型校では、従来の小学校から中学校への移行にともなう段差がなくなり、いわゆる「中1問題」が解消してきているが、新たに「小6問題」が顕在化してきている。それは、たとえば小学校高学年における中学校生活への期待度の低下にみられる。児童生徒の発達過程において、何らかのステップアップの機会を設けておくことは重要であり、この意味では、連携型校の利点は今後とも活かされていかなければならない。

◎施設一体型校の導入・設置は、当初、英語教育やICT教育の充実などの付加価値とも相まって、保護者の間で、新構想の学校としての期待感が先行し、入学・転校の希望者が予想以上に多くでた。そのため、一体型校は短期間のうちに大規模化し、教育環境の悪化を招くことになった。施設一体型校も、連携型校も、同じ趣旨の9年一貫カリキュラムのもとで運営されていることを、保護者にいっそう理解してもらう必要がある。どちらのタイプの学校に通っても、同じ質とレベルの教育機会が保障されるという公平性が確保されなければならない。そのための財政支援と指導力向上が求められる。

◎実施されているカリキュラムに違いはないとしても、新設の施設一体型校の目新しさは、既設の地域の学校の施設・設備面での老朽化を、いちだんと際立たせてしまっている。地

域の学校が、「地域の核」としての役割を期待されなくなってしまってはならない。そのためにも、既設校の施設・設備の改善・修復は急務である。それがあってはじめて、地域の学校は児童生徒ばかりでなく、地域の人たちの文化センターになりうる。一貫教育の成果は、地域コミュニティの形成と結び付けて評価がなされなければならない。

◎仮に、今後さらに小中一貫施設一体型校（義務教育学校）を設置していくとするならば、少なくとも下記の条件がクリアされているかどうかを見極めたうえで、慎重に審議が進められる必要がある。下記の条件は、義務教育学校を法制化した学校教育法の改正時の、参議院文教委員会での決議（「学校教育法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議」、平成27年6月16日）の1項、2項である。

1. 義務教育学校の設置に当たっては、我が国の教育の基本原則である機会均等を確保するとともに、既存の小学校及び中学校との間の序列化・エリート校化・複線化等により児童生徒の学びに格差が生じることがないように、万全を期すること。

2. 小学校及び中学校は児童生徒の学びの場であるばかりでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することを踏まえ、市町村教育委員会は、義務教育学校の設置に当たっては、安易に学校統廃合を行わないよう、特に留意すること。